### 8.4 行動計画カルテ (令和4年度時点)

_	I
更新	I
30 H	I
E .	I
#	I
5和 4	I
Y-	I
	I
	I
	۱
	۱

(令和4年5月16日更新)

未来みやざき創造プラン

事業に関連する 上位計画

森林整備事業

継

行動計画カルテ (計画番号:02)

・分野(産業づくり)・施策の体系(C・2・(2))

图 馋

宮崎県

\*

#

継

拼

環境森林部 森林経営課

Œ

21E

判

型

排 排 光 米 米		The state of the s	
4	森林整備事業	事業に関連する 上位計画	第6次国有林野施業実施計画
H *	国 九州森林管理局	长	
祖。影	宮崎北部森林管理署 楽務グループ	禁	
<ul><li>事業内容、目的]</li><li>事業目的 森林の有する多 り、適正な森林施</li></ul>	業内容、目的】 事業目的 森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、各機能の充実と機能間の調響 り、適正な森林道策の実施や森林の保全の確保により健全な森林資源の維持造成を推進する。	に発揮させるため、各 保により健全な森林資	内容、目的] 業目的 森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、各機能の充実と機能間の調整を図 、適正な森林施業の実施や森林の保全の確保により健全な森林資源の維持造成を推進する。
<ul><li>事業内容 育成単層株におけ 育成複層株の整備</li></ul>	事業内容 育成単層林における保育・間伐の積極的な推進、人為と天然力を適切に組み合 育成複層林の整備等により、立地条件に応じた多様な森林整備及び保全を図る。	:推進、人為と天然力を :た多様な森林整備及び	人為と天然力を適切に組み合わせた多様性に富む な森林整備及び保全を図る。
[事業期間]	平成23年度~令和4年度	[計画期間]	制
[事業実施経緯] 平成 23 年度: 植付4 平成 24 年度: 下刈1 系導( 平成 25 年度: 植付5	事業実施経緯] 平成 23 年度:植行4 h a 、下刈 7 h a 、除伐9 h a 、保育間伐2 4 2 h 平成 24 年度:下刈1 1 h a 、除伐5 3 h a 、保育間伐2 2 8 h a · · · 誘導伐(複層林植業)4.8 6 h a 平成 25 年度:植付5 h a 、下刈5 h a 、除伐1 0 h a 、 保育間伐1 3 8 h a 、誘導伐(複層林施業)2 h a · · ·	9 ha、保育間伐2 4 2 8 報間伐2 2 8 ha・・ ha 1 0 ha、 複層林施業)2 ha・	2 h a · · · · · · 詳価 (○) · · · · · · · · · · 詳価 (○)
平成 26 年度: 下刈 1 誘導/	: 下刈10ha、保育間伐128ha、 誘導伐 (複層林施業) 3ha・・・・・・・・	ha,	(〇) 無雄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2成 27 年度:植付 7 誘導/ 2成 98 年度・下和 9	平成 27 年度:植付7ha、下刈17ha、保育間役136ha、 蔣導伐(複層林施樂)3ha・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	育間伎136ha, h。 除任3h。	(〇) 斯維 (〇)
7次 29 年度: 下刈 3 7次 29 年度: 下刈 3 74 20 年度 - 下刈 3	- 成立4文 - 1 4 1 2 2 h a 、	ha, www.	
+版30+後:ドバ4 令和元年度 :地拵2 令和2年度 :植付4	、逐	na、電n2na. 下列83na、保育間伐474na (校12na、保育間伐408na。	1 2 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3
令和3年度:植付1 令和4年度:植付7	: 植付1ha, 下刈28ha, 保i: 植付7ha, 下刈35ha, 保i	保育間伐141ha・・・ 保育間伐76ha・・・・	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	<川地領域> (1)崩壊地からの土砂流出,(2)土石流等の土砂災害の発生,(3)自然景徹 (4)生物生息環境の変化。(5)産業基盤の流出,(6)渇水緩和機能の低下, (7)韭水緩和機能の低下,(8)砂切施設容量減少	<ul><li>(2)上石流等の上砂%</li><li>(b)道業基盤の流出,((8)砂切施設容量減少</li></ul>	<ul><li>(1)地鏡域&gt;</li><li>(1)崩壊地からの土砂流出,(2)上石流等の土砂災害の発生,(3)自然景観の消失,(4)生物生息環境の変化。(5)確業基盤の流出。(6)掲水線和機能の低下,(8)砂防施設容量減少</li></ul>
直接的、開接的に 関連する 問題・課題	<ul><li>夕五前版&gt;</li><li>夕五前版&gt;</li><li>(9)時本池未端部治水安全度低下,(10)和水容量の施(12)放流設備の機能障害。(13)利水設備の機能障害、</li><li>&lt; 可道額版&gt;</li></ul>	2度低下, (10)和水益量, (13)和水淀量	c 考入前級> (9)昨水池未端原治水安全度低下,(10)和水容虧の減小,(11)近水口が埋起。 (12)放液設備の機能腐害。(13)利水設備の機能障害。 河道部級>
Ĭ	(24)化業 谷生井の東事化大 <河口・海岸領域> (30)推動の地方(操業上)の支障。(31)海岸環境悪化。	人 0支障, (31)海岸環境思	<b>1</b> 2.

※主・形成寺の9条は、 図るとともに、これら ・流域育成林整備事業 ・公的森林整備推進事	な公益的機能を有して らを通じて森林の有一 業 : 流域における 機能の維持増え 事業: 森林所有者等!	ており、適切な FS各種の公記 R材等森林資源 Eを図るための こよる整備が道	保全・形成等の多様な公益的機能を有しており、適切な管理を行うことによって、健全な森林の整備を 図るとともに、これらを通じて森林の有する各種の公益的機能の高度溶揮や川村整済の振興を図る。 ・流域育成林整備事業 ・流域における木村等森林育政の循環規制用、水源補養機能又は川地災害的止 ・最能の維持側電を図るための森林整備を行う。 ・金的森林整備指進事業:森林所有者等による整備が進み難い森林等について、分取林方式又は市町村	C、健全な森林の整備を 1経済の振興を図る。 - 複雑を図は山地災害防止 - 参収林方式又は市町村
<ul><li>公的森林整備事業</li></ul>		条体整備を行う 当助努力によっ 5公益的機能を 田重から実権	の格能による森林整備を行う。 :森林所有者の自助労力によっては適正な整備が期待できない条件不利地等に おいて、森林の公益関機能を発揮させる観点から、公的主体による森林整備 や行う、※の 圧がに実施	ゔきない条件不利地等に 3的主体による森林整備
·森林緊急造成	: 自然条件等の3 による協定等。	電由で更新がB と基づいて人口	: 自然条件等の理由で更新が困難な森林について、地方公共団体と森林所有者 による協定等に基づいて人口造林等を行う ※合和元年度から実施	5公共団体と森林所有者 5年度から実施
【事業期間】			【計画期間】	維続
【事業実施経緯】 平成 23 年度:植栽	556ha, FXI	3.301ha、除間伐	除間伐 609ha を実施・・・・	(〇) 影想・・・
平成24年度:植栽	601ha, FXI			(〇) 単端・・・・
平成 25 年度:植栽	593ha, FXII	3,182ha,除間後	除間伐 1,194ha を実施 · · · ·	(〇) 単雄・・・・・・
平成 26 年度:植栽	524ha, FXIJ	3,187ha、除閒伐	除間伐 1,150ha を実施 ・・・・	(〇) 則雄・・・
平成 27 年度:植栽	647ha, FXII	3,264ha、除間伐		(〇) 男婦・・・・・・
平成28年度:植栽	624ha, ⊤xij	3,396ha、除間伐		
平成29年度:植栽	662ha, 下刈			
Link	527ha, F <sup>*</sup> / <sub>1</sub>		除間伐 620ha を実施・・・・	(〇) 思雄・・・
令和元年度:植栽	562ha, FAI	3,348ha、除間伐	369ha を実施・・・・・・評価	· · · 韓甸(〇)
令和2年度:植栽	528ha, FXII	3,389ha,除間後	1,013ha を実施 ····· 評価	(〇) 単端・・・
令和3年度;植栽	530ha, FXII	3,265ha、除間伐	598ha を実施・・・・	
令和4年度:植栽 会和5年度·宝楠。	518ha, FXI	3,036ha、除間伐	461ha を実施・・・・	(〇) 助战・・・
	<日相領域>			
	(1)崩壊地からの土4	沙流出, (2)十二	(1)崩壊地からの土砂流出,(2)七石流等の土砂災害の発生,(3)自然景観の消失,	(3)自然景観の消失,
	(4)生物生息環境の変化。(5)産業基盤の流出。	更化, (5)産業元十二年	(4)生物生息環境の変化, (5)産業基盤の流出, (6)掲水緩和機能の低下, (5)電本線を開業の低下, (5)電車を発出。	機能の低下,
The state of the s	//供外版作成品/	4 F , (O/12/V)	四成作用成义	
直接的、間接的に	(6) 日本東州 中部門 196	可用的专作。	(A)野麦子 医二甲甲二甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲甲	18日本日本日本
関連する問題・課題	福黎に震闘順選(61)	庫岩, (13)利	(12)城市設備の機能構造、(13)和水炭間の機能運動、 当時間は	
	(24) (24) (24) (と 作品を 作品の を 作品 た	学加 小		
	<河口・海岸領域>			
	(30)船舶の航行(操業上)の支障, (31)海岸環境悪化,	(東下)の支障, (	(31)海岸環境悪化,	
	一年前年以中十二年 100年 100年 10日	the same of the sa	of of other back trade in it.	

(令和5年5月18日更新)

(令和5年5月18日更新)

2 % 店	
事業主体 資齢限	事業に関連する 未来みやざき創造プラン 上位計画
但当 部 局 環境療材部 森林経営課 容 [ 事業均容、目的] 立本価格の低迷 造林コストの増加等により、再造 (全種のるため、再造林のコストを抑制する「一責作 合和2年度 : 実績なし ・・・評価 合和2年度 : 実績なし ・・・評価 合和3年度 : 実施中 ・・・評価 合和5年度 : 実施中 ・・・・評価 合和5年度 : 実施中 ・・・・評価 合和5年度 : 実施中 ・・・・評価 合和5年度 : 実施中 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・分野(くむしめくり) ・施衆の存米(B-4-(2))
4 案内容、目的   立本価格の低迷、造林コストの増加等により、再造 (全進めるため、再造林のコストを抑制する「一貫作 (事業実施経典   合和3年度~合和5年度   (本実施経典   (中 本実施 ・・・評価	
	林が進まないケースがある中で、主伐後の再造 業システム」等を行う再造体に対して支援を行
# * * * # *	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	, may
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	0 .
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	(-)
章 <del>张</del>	
V	
V	
A A	
¥	右流等の上の決古の第年,(8)の防備設谷供減少
	(9)昨春也未端胡冶水安全度低下。(10)种(水客量の)藏步。(11)股水口の埋毁 西海部部~
取り組む課題 (23)拾水安全度低下	
<第四・審事徴験> 2502年第19年19日 1002年11日 1002年1	A table we

TPPによる新たな国際環境の下で、生産性向上等の体質強化を図るため、合板・製材工場に対す (1)崩壊地からの土砂流出, (2)上石流等の土砂災害の発生, (3)自然景観の消失, |過程 (○) 単編 評価 (一) 評価(〇) (○) 単端 未来みやざき創造プラン 平成 23 年度:間伐 1,102ha、簡易作業路開設 10,501mを実施 ・・・・・・・ 評価 (○) (○) 期越 評価(〇) 評価 (一) (9)貯水池末端部治水安全度低下, (10)和水容量の減少, (11)取水口の関後, 継続 (4)生物生息環境の変化。(5)產業基盤の流出。(6)褐水緩和機能の低下。(7)洪水緩和機能の低下。(8)形別施設容量減少 ........ ....... .......... ......... ......... . . . . . . . . . ........ ........ . . . . . . . . . ・施策の体系 (C-2-(2)) ・分野(産業づくり) (12)放流設備の機能障害, (18)利水設備の機能障害, る原木を低コストかつ安定的に供給するための間伐材の生産を実施する。 (30)船舶の航行(操業上)の支障, (31)海岸環境悪化, 計画期間 (32)漁業(操業)の支障, (33)氾濫発生時の被害拡大 事業に関連する 上位計画 K \* (24) 沿艦発生時の被害拡大 平成28年度~令和5年度 間伐材生產強化対策事業 環境森林部 森林経営課 <河口・海岸領域> 宮崎県 平成 29 年度: 間後 305ha を実施 行動計画カルテ (計画番号:04) 平成 30 年度: 間伐 89ha を実施 令和元年度: 間伐 65ha を実施 令和2年度:間後 16haを実施 平成 28 年度:間伐 336ha 実施 <ダル(領域> (未利用間伐材利用促進対策事業) <山地領域> へ阿道領域> 令和3年度:間伐 実績なし 令和4年度:間伐 実績なし 平成 24 年度: 間伐 313ha 平成 25 年度: 間伐 188ha 平成 27 年度: 間伐 852ha 平成 26 年度: 間伐 Oha (間伐材生産強化対策事業) 合和5年度:実施中 (間伐推進加速化事業) 直接的、間接的に 【事業内容、目的】 \* E [事業実施経緯] 事業期間 名 問題·課題 関連する # 報 継 川 継 拚 型 禁

### (令和4年5月16日更新)

行動計画カルテ (計画番号:06)

11期间回7/17/	(四) (四)			
<b>崇</b> 卷	適正な伐採推進対策事業	掛	事業に関連する 上位計画 未	未来みやざき創造プラン
事業主体	宮崎県	K	<ul><li>・分野(産業づくり)</li><li>・施策の体系(C-2・(2))</li></ul>	(0
国総正	環境森林部 森林経営課	鉄		
[事業内容、目的] 旧内尼右林の本材	単業内容、目的】 国内日子社の名は容器の4-20つから編集・四報) 単面のも/できます は多い 四キス数	垣前	7次17開始開当りで	本
がな政策の方向、 な林の特緒的	YELTY THYS 株件質度20大党自己属売口質で、FETTER フスタコのMATTA フェダイ・アメデロショウの合的な政策の方向、森林整備の目標及び森林管理上の合理的な指針を示す地域森林計画を樹立するととも、	電上の名	理的な指針を示す地域	でなが、 で本に関うる部 (森林計画を構立するとと
県、市町村、 編画 原本 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	こと、株計の19時に発売している場合がある。1997年では、大学には、大学にの現地権弱や環境に配慮して、大学には大学株別な様、大学をの再造林の推進等の指導を行う。	・ロールの指導	r時において、伐採届の を行う。	現地確認や環境に配慮し
· 再造林や環境(	<ul><li>再造林や環境に配慮した伐採・造林マニュアル等により、</li></ul>	アル軸に	二上り、森林所有者等以	森林所有者等に対して普及啓発を行う。
【事業期間】	合和2年度~合和5年度		【計画期間】	継続
[事業実施経緯] 平成 23 年度: 平成 24 年度: 平成 25 年度:	7 4 7 7 8 8 8 8			200 (000 (000)
平成 26 年度: 平成 27 年度:	-122	: :		
平成 28 年度: 平成 29 年度:	<b>伏探パトロール22回実施・ 作棒パトロール26回実施・</b>	: :		・・ 弾笛(O) ・・ 潔角(C)
平成30年度:	101			
令和元年度: 令和2年度:	伐探パトロール26回実施・ 伐探パトロール26回実施・	: :		・・ 弾(〇)
令和3年度: 令和4年度:	伐採パトロール30回実施・ 伐採パトロール28回実施・	::		・・ 評価(〇)
6和5年度 : 美相干 ※平成 23~25 年度は、 ※平成 26~28 年度は、 ※元は 90~会哲士任事	行和 3 年史 : 美施中 ※年政 23~25 年度は、持続可能な森林経営具現化実践事業で実施。 ※年政 26~28 年度は、持続的森林経営推進事業で実施 ※5年 26~28 年度は、韓総・高庫:本金基や建築	現化実体表は	現世業で 対象 補別 を は の の の の の の の の の の の の の	
	九十反は、米名に再通って本一へ山神領域>	W. 171W	国上に正位する。大人大道	
	(1)崩壊地からの上砂流出,(2)上石流等の上砂浜岩の発生。(3)自然景観の消失,(4)生物生息環境の変化,(5)産業結聯の流出,(6)渇水緩和機能の低下,(7)洪水緩和機能の低下,(8)砂防施設容量減少	(2)上(2)座業(3)座業(3)(9)(5)(4)(4)(4)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)(5)	行流等の上砂災害の発 表盤の流出, (6)渇水緩 電設容量減少	E, (3)自然景観の消失, 和機能の低下,
直接的、間接的に 関連する	<ダム価級> (9)昨水泊未建築治水が全変低下,(10)年水浴電の減少,(11)町水口の両辺 (12)投施設備の機能膨出,(13)耐水設備の機能減少。	到底下, (13)利	(10)和水浴量の減少,水浸渍の緩慢,	(山)取水田 (四州)处,
問題·課題	<原理関係>			
	(24) 記艦発生時の被害拡大	~		
	<河口・海岸領域> (31)海岸環境 (31)海岸環境 悪化	文順.	31)海岸環境無化	
	(50)阳阳(7)阳(1)【张木工,507人再,(51/4)下头也,识几	×世·	517年开来站河口,	

(令和4年12月12日更新)

7.6	華 業 名	森林の公益的機能 高度発揮推進事業	事業に関連する 上位計画	未来みやざき	未来みやざき創造プラン
	事 業 主 体	宮崎県	<ul><li>・分野(産業づくり)</li><li>・施策の体系(C-2-(2))</li></ul>	3< h) (C-2-(2))	
	担当部局	環境森林部 自然環境課	狹		
	【事業內容、目的】				
する総	令和3年度末の5	<b>令和3年度末の民有保安林指定率は31.0%であり、森林の有する水源かん養等公益的機能を高度に発</b>	9、森林の有する水	源かん養等公益的	機能を高度に発
るたび	揮させる必要のある	揮させる必要のある森林について保安林指定の取組強化が必要となっている。	H強化が必要となっ	21.13	
	このため、集落の	このため、集落の上流域に位置する水源地域の森林や山地災害危険地区周辺の森林等を対象に保安林	森林や山地災害危険	地区周辺の森林等	至対象に保安を
配慮し	指定に向けた調査、	指定に向けた調査、申請の取組を強化し、保安林の拡大による公益的機能の先実強化を図る。	り拡大による公益的	機能の充実強化を	<b>X</b> 5°
5年	<ul> <li>- 規地調査,保多</li> <li>- 本株所名を管ぐ</li> </ul>	<ul><li>- 現地調查,保安林縣価地の運定、森林現地や保全対象等の調查。 本中店方才第~の当田 事業の由名。お売権製用外の当日をお売す業</li></ul>	米全対象等の調査を開発の対象を	十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	
2	**************************************	The state of the s	(令和4年度)	年度 内容修正	4 内容修正(保安林担当))
	[事業期間]	平成29年度~令和4年度	【計画期間】	Im	継続
	【事業実施経緯】				
	平成23年度:	424ha(うち耳川流域 424ha)	保安林指定に向けた調査を実施	た調査を実施	(〇) 単結
	平成24年度:2,	平成 24 年度: 2,113ha (うち耳川流域 422ha)	保安林指定に向けた調査を実施	た調査を実施	(〇) 題處
	平成 25 年度:1,	平成 25 年度: 1,390ha (うち耳川流域 69ha)	保安林指定に向けた調査を実施	た調査を実施	評価 (〇)
	平成 26 年度: 1,	平成 26 年度: 1,257ha (うち耳川流域 159ha)	保安林指定に向けた調査を実施	た調査を実施	(〇) 単點
	平成 27 年度: 1,	平成 27 年度: 1,220ha(うち耳川流域 255ha)	保安林指定に向けた調査を実施	た調査を実施	(〇) 単雄
	平成 28 年度: 1,	平成 28 年度:1,188ha(うち耳川流域 236 ha)	保安林指定に向けた調査を実施	た調査を実施	計価(〇)
	平成 29 年度:1,	平成 29 年度: 1,140ha (うち耳川流域 381ha)	保安林指定に向けた調査を実施	た調査を実施	雑価(〇)
	平成 30 年度:	900ha (うち耳川流験 289ha)	保安林指定に向けた調査を実施	トた調査を実施	(〇) 海旋
	令和元年度:	591ha (うち耳川流域 176ha)	保安林指定に向けた調査を実施	た調査を実施	評価(○)
	令和2年度:	758ha (うち耳川流域 135ha)	保安林指定に向けた調査を実施	た調査を実施	郭循 (O)
	令和3年度::	846ha(うち耳川流域 302ha)	保安林指定に向けた調査を実施	<b>た調査を実施</b>	解価 (〇)
"朱"	合和 4 年度:	524ha (うち耳川流域 222ha)	保安林指定に向けた調査を実施	た調査を実施	
·	直接的、間接的に 関連する 問題・課題	<ul> <li>(1)前獎地からの土砂港出, (2)土石港等の土砂災害の発生, (3)自然景観の消失, (4)生物失息環境の変化, (5)流業基盤の流出, (6)湯水緩和機能の低下, (7)洗水緩和機能の低下, (8)砂防施設容量減少。</li> <li>イシ電販ラ</li> <li>イシ電販ラ</li> <li>(9)貯水電本端電音水安全度低下, (10)利水谷室の減少, (11)取水110期間。</li> </ul>	, (2)上石流等の土砂災害の発生, (3)自然最適 (5)流業基盤の流出, (6)渇水緩和機能の低下, (8)砂防施設等量減少 2度低下, (10)利水容量の減少, (11)取水11031	(含い発生: (3)自然 (3) (3) (3) (3) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	名景観の消失, ま下, [ロ7冊微,

# (令和4年5月16日更新)

R

継

+

#

継

曲

1

狐

型

事業名	本を貯え、災害に強い 森林づくり事業 宮崎県 宮崎県 宮崎県 家様存有者の高齢化等が進 4の低下が懸念される。この 1人・拡大している人上林の 1人・拡大している人上林の 1人・拡大している人上林の 1人・拡大している人上林の 野業: 水源地等の上流域に: 林の見込みがない(上) 野業: 水源地等の上流域に: 林の見込みがない(上) 野業: 水源地等の上流域に: 村林を対象に付め除去 で林を対象に付め除去 では変なれて誘導する。 合和4年度~合和6年度 合和4年度~合和6年度 合和4年度~合和6年度 発送林等推進事業 54ha、7 程度本体等造成事業 58ha、7 程度本体等造成事業 58ha、7 程度本体等造成事業 58ha、7 程度本体等造成事業 58ha、7 程度本体等造成事業 58ha、7 程度本体等造成事業 58ha、7 程度本体等性が単化。7 2 2 2 3 3 3 4 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	本	を防え、災害に強い 事業に関連する 未来みやざき創造プラン (全防え、災害に強い 上位計画 ・	する 未来みやざき創造プラン (産業づくり) (の体系 (C-2-(2))
事業主体 相当 部 局 環境森林衛 事業技術と全条体所有者 (平紫内容、目的) 存業投算性の悪化や条体所有者 (大部度) (中が進入・拡大し (大強度間後、竹が進入・拡大し (本進度) (大部度) (大部度) (大部度) (大部度) (大部度) (大部度) (大部度) (大部度) (大家村造体等性、大部度) (大家村造体等性、大路位、大家村造体等性等) (大家村高林等指平成 25 年度:広寨村高村等指平成 25 年度:広寨村高林等指平成 25 年度:広寨村高林等指平成 25 年度:広寨村高林等指平成 25 年度:広寨村高林等指平成 25 年度:広寨村高林等指平成 25 年度:広寨村高林等指一下。 (大家村高林等指	部 森林経営課 者の高齢化等が進 者の高齢化等が進 懸念される。この している人上杯の している人上杯の にひみがない(土・ 記め等の上流域の指 がの放置化が進み。 を対象に付の除去 を対象に付の除去 を対象に付の除去 を対象に付の除去 を対象に付の除去 を対象に付の除ま をがある。 をかり をがり をがり をがり をがり をがり をがり をがり をがり をがり をが	本 本	・分野(産業づくり) ・ 施策の体系 (C-2-(2)) ・ 施策の体系 (C-2-(2)) ・ 地域の体系 (C-2-(2)) で、長期間適切な管理 で、長期間適切な春林を でことにより、木七保 の配わがある) 本地へ の配わがある) 本地へ の電大学を対象に通展間投 の「軽大さが、 防災機能等 を行う。 (平成 30 年度 を行う。 (平成 30 年度	がされず。放置された森林 対象に完廃本地等の再造 空機能の高い森本づくり 植表等によらなければ成 の広葉樹造林等を行う。 までり、 するため、早急な地拵え 素で)。 ・するため、早急な地拵え 参続・・・評価(○)
年業内容、目的] 林業接簿性の悪化や森林所有者 よける水土保全機能の低下が場 で強度間後、竹が進入・拡大し 工業費工る。 ・針広混受林等造成事業: 水源 本の見 ・針に混受林等造成事業: 水源 本の見 ・計し人工林等再生事業: 小部 に襲受 ・事山人工林等再生事業: 小部 に変付 ・本土保全の森林づくり事業: 「事業期間」 「事業期間] 「青素期間] 「青素質配養報 甲成 23 年度: 広葉樹造林等指 平成 25 年度: 広葉樹造林等指	者の高齢化等が進 場合される。この している人上杯の している人上杯の にこみがない(士) が成置化が進み、 校の放置化が進み、 校の放置化が進み、 校の放置化が進み、 校の放置化が進み、 を対象に何の除よ 使之令和 6 年度 進事業 41ha、 程能事業 69ha 電影事業 69ha、 音成事業 99ha、 音成事業 99ha、	行する中 (1) (1) (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	1で、長期間適切な管理 1-1、長期間適切な管理 でことにより、本土保 が置された森林を対象に の恐れがある)末地への の年度まで)。 の年度まで) の年度まで)。 の年度まで)。 の年度まで)。 の年度まで)。 の年度まで)。 の年度まで)。 の年度を の年度まで)。 の年度まで)。 の年度まで)。 の年度まで)。 の年度まで)。 の年度まで)。 の年度まで)。 の年度まで)。 の年度まで)。 の存成 かなり 事業 391h の森林 ろくり 事業 391h の森林 ろくり 事業 364h	がされず。放置された森林 学像に完盛木地等の再造 全機能の高い森林づくり 植根等によらなければ成 の広葉樹造林等を行う。 : (30%以上)を行い、針 が低下している人工林や まで) するため、早急な地拵え ************************************
・里山人工林等再生事業: 竹杯 ・水土保全の森林づくり事業: 竹林 ・水土保全の森林づくり事業: 「事業期間」 ・	ためな置したが出来。 を対象に作の除去 を対象に作の除去 を積表を行う。 変~令和6年度 電進事業 41ha、7 電成事業 69ha、7 電成事業 69ha、7 電成事業 94ha、4 電成事業 94ba、4 電流事業 94ba、4 電流事業 94ba、4	大学が ・整理機 大工保全 大工保全 大工保全 大工保全 大工保全 大工保全	ス・放大し、防災機能等を行う。 (平成 30 年度を行う。 (平成 30 年度 を行う。 (平成 30 年度 上張全機能の低下を防止 (計画期間) の森林ムベッ 事業 256h の森林ムベッ 事業 391h	が低下している人工林や まで) するため、早急な地拵え 継続 継続 か実施・・・評価(○)
点 在針在針在針件	年度 IIha, Ma, Sha Sha 4ha, 9ha	K上保全 K上保全 K上保全	(単画遊問)         (登棒枠ムへの車業 391h)         (登棒枠のへの車業 464h)         (2を存立への車業 464h)         (2を仕よべの事業 464h)	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
平波 25mm的等于 中波 23 年度:広集樹造林等推 平成 24 年度:広集樹造林等推 平成 25 年度:広集制造林等指 平成 26 年度:広集制造林等排	11ha, 14ha, 9ha 4ha, 9ha	K上保全 K上保全 K上保全 K上保全	の森林公くの事業 256h の森林公くの事業 391h の森林公への事業 464h	2.実施・・・評価
針穴混交林等造 平成 26 年度:広葉樹造林等推 針広混交林等造	9ha	(十保全)	こ本は人、7日主業 8674	実施・・・評価
THE RESERVE AND THE PARTY NAMED IN COLUMN TWO IS NOT THE PARTY NAMED IN COLUMN TWO IS	03ha	× 5	2条件・マンド本 1011	を実施・・・評価 (〇) a, を実施・・・評価 (〇)
十四 21 十尺 《八宋‧西山下寺祖 全广混交标等语 平成 28 年度、広葉樹造林等谱 谷广流 经未等	oha ,	水上保全水土保全	<ul><li>水上水土の株件・シンソ 事業 491na、 を実施・</li><li>水土保全の森林づくり事業 548ha、 を実施・</li></ul>	A. を実施・・・評価(○) ba、 を9種・・・評価(○)
平成 29 年度:広葉樹造林等補 針広親交林等造 37点 50 左前: 广莱梅兰	9ha , 9ha	水土保全	水土保全の森林のくり事業 494 ha、 を実施・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 地
中放 30 中级,几次时间中海中部中海, 争广员现次体等通路,等 合和三年度,广及特部体等推广事業 合和三年度,广及特部体等推广事業 合有三年度,広康特部体等推广事業 有有12年度,広康特部体等推广事業 3 6年11年,广及特部体等推广事業 3	, na , 9ha 0ha , 3ha , 8ha ,	↑ 1 ★ 1 ★ 1 ★ 1 ★ 1 ★ 1 ★ 1 ★ 1 ★ 1 ★ 1	ペニネエの業体のスプラ素 4153 水土保全の条件づくり事業 4651 水土保全の条件づくり事業 3961 水土保全の条件づくり事業 4481 水土保全の条件がくり事業 4481	4 Joha を実施・・評価(○) 465ha を実施・・評価(○) 396ha を実施・・評価(○) 448ha を実施・・評価(○) 448ha を実施・・評価(○)
1,141	田地館號> (1)所襲地からの土砂流出, (2)土石流等の土砂 (4)生物生島環境の変化, (5)産業基盤の流出, (7)凍水義和機能の低下, (8)砂防施設容量減少 エム原源。	(2) 土石 5) 産業基 8) 砂防脂	(山地頭県) (1)所襲地からの土砂流出, (2)土石流等の土砂災害の落生, (8)自然景観の消失, (4)生物生息環境の変化, (5)産業基盤の流出, (6)掲水鏡和機能の低下, (7)散水鏡和機能の低下, (8)砂防施設容量減少	(3)自然景観の消失, 機能の低下,
-	(9)的水池未端部倍水必全度低下。(10)利水容量の減 (12)水油液備の機能解害。(13)利水設備の機能解害。	TEF, (ISFIK	4	(11)版本口の開発,
問題・課題	回面	大障, (3	)海岸環境惠化,	

問題·課題

関連する

(令和4年5月16日更新) 林業としての雇用維持に加え、再造林の確保、間伐手遅れ林分の解消等、林業の成長産業化の推進 (1)前壊地からの上砂流出,(2)土石流等の上砂災害の発生,(3)自然景観の消失,(4)生物生息環境の変化。(5)産業基盤の流出,(6)渇水緩和機能の低下,(7)洪水緩和機能の低下,(8)砂坊施設容量減少 未来みやざき創造プラン < 好以節號> (9)對水油水鐵網治水沒全度低下, (10)網水溶膜の減少, (11)限水口の圓沿, 継続 令和2年度:植栽 2ha、下刈 17ha、除間伐 40ha を実施・・・・・・ 評価 (○) のため、林業経営体等の能力向上を図る実践研修として行う取組に対する緊急的な支援。 ・分野(産業づくり)・施策の体系(C-2-(2)) (12)敗荒民権の機能障害。(13)利水設備の機能障害。 【計画期間】 (30)船舶の航行(操業上)の支障, (31)海岸環境悪化, (32)漁業(機業)の支障, (33)氾濫発生時の被害拡大 事業に関連する 上位計画 K \* (24)担准発作時の被害並人 林業経営体等能力向上支 環境森林部 森林経営課 <河口・海岸領域> 援対策事業 宮崎県 令和2年度~ < 川道領域> 行動計画カルテ (計画番号: 【事業內容、目的】 直接的、間接的に E \* [事業実施経緯]

[事業期間]

# (令和4年12月12日更新)

行動計画カルテ	(計画番号:08)					行動計画カルテ	(60:4要厘果) -			
事 業 名	森林生態系等保護· 保全·回復活動支援事業	掛	事業に関連する上位計画	未来みやざ	未来みやざき創造フラン	華	荒廢渓湍流木等対策事業	事業に関連する上位計画	未来みやざき創造プラン	創造プラン
事 業 主 体	宮崎県	K	・分野 (産業づくり) ・施策の体系 (C-2-(2))	5 < y) (C-2-(2))		事	四壽県	- 分野 (産業づくり) 内 - 施策の体系 (C-2-(	<ul><li>・分野 (産業づくり)</li><li>・施策の体系 (C-2-(2))</li></ul>	
相当的局	環境森林部 自然環境課	妆			-4	祖当期局	環境森林部 自然環境課	狹		
[事業内容、目的]	<ul><li>事業内容、目的】(森林生態系保護・保全・回復活動支援事業)</li></ul>	复活動或	(援事業)			[事業內容、目的]	10			
シカの食害等によ	シカの食害等により絶滅の危機に瀕している森林生態系などの保護・保全活動や回復活動を行う市町村や	林生態	条などの保護・保	全活動や回復活動	動を行う市町村や	洪水、山腹崩壞	洪木、山腹崩壊その他の原因により渓流等に堆積し、降雨等に流下する恐れがある流木等の撤去、	惟積し、降雨等に流	ドする恐れがある流	<b>木等の撤去、及</b>
団体等に対して助成を行う。	を行う。					び不安定な状況に	び不安定な状況にある立木の伎探。			
【事業期間】	平成23年度~合和4年度		【計画期間	制】	継続	and the state of t	4			
【事業実施経緯】						(事業期間)	平成23年度~令和4年度	計画知問		和图影克
平成23年度:美	平成 23 年度: 実績なし・・・・評価(一) 10 中の 50 年度:					【事業実施経緯】				
・ 部級村の単係に対いて、	シカの食事がた糸や補物を保護するための名	名の下の部	題や影治勢備。並加等の保	全活動に対して助説・・・	(〇) 北楚。	平成 23 年度:	平成 23 年度:実績無し・・・・・・・・・	評価 (一)		
<ul><li>・無数なの両日の複数区</li></ul>	作者においています。 ・概象状の両用に溶血において、シカの食管から者の種類や医療するためのネットの設置や再列車の存出性の対しては表す。 ・ 作象状の両用に溶血を含まって、シカの食管から者の種類を指摘するためのネットの設置や再列車の保全圧動が入して思味・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5ためのネ	・トの設置や草刈等の保全 ・・トの設置や草刈等の保全	正に割に対して別談・・・	(〇) 影響・	平成24年度:	平成 24 年度: 流木処理 30.0 空㎡実施・・・評価	・評倉 (O)		
<b>冲成25年度</b> :						平成 25 年度:	平成 25 年度:実績無し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	評価 (一)		
<ul> <li>諸塚村の黒岳において、</li> <li>ゴゲは、5c 在・位・</li> </ul>	・ 諸塚林の黒岳において、名少植物の自生地を保全するための歩道整備、草刈及び遥視店勤等の保全活動に対 17 cb: 5c 4c; fc:	痛, 草刈及	び巡視活動等の保全活動に	対して助成・・・葬儒(O)	(0)	平成 26 年度:	平成 26 年度: 流木処理 1,031.8 ㎡実施 ···	・ 解角(〇)		
・ 諸塚村の黒岳において、	ナバス ユジュンズ・ ・ 非級片の 単岳において、シカの食害から希少補物を保護するためのネットの微響及び、巡視活動、支婦大等。	ネットの設	署及び、巡視活動、支障水	(〇) 単雄・・・・年後の株		平成 27 年度:	平成 27 年度:実績無し・・・・・・・・	評角(一)		
<ul><li>権業材本土野の向山日本</li></ul>	<ul><li>権業付不上野の市山日添地区において、シカの食害による番少権物の維持のための除草や保護移植等の爆焼整備・・・評価(○)</li></ul>	の維持のた	かの除草や保護移植等の原	境整備・・・評価 (○)		平成28年度:	平成 28 年度:実績無し・・・・・・・・・	(一) 馬橋		
平成27年度:実	平成 27 年度:実績なし・・・・群価(一)					平成 29 年度:	平成 29 年度:流木処型 52.2 空㎡実施・・・・	·評価 (〇)		
半版 28 年度: ・諸塚村の黒岳に	平成 28 年度: ・諸隊村の黒届においた、希夕祐物を保護するための士邸満出防止権の設置・・・評価(○)	ための	士砂流出防止權の	設置・・・評価	(0)	平成30年度:	平成30年度:実績無し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
・ 椎葉村不上野の	<ul><li>・推葉村不上野の向山日添地区において、希少植物保護のためシカネット</li></ul>	植物保	護のためシカネッ	トを設置・・・評価(○)	弊価(〇)	令和元年度:	: 流木処理 216.0 m 実施 · · · ·	· 評価 (〇)		
平成 29 年度:		1				令和2年度:	: 流木処理 538.1 m 実施 · · · ·	(〇) 脚楣・		
・総督の罪に近代、各場・権・権・権・権・事の	・調整の罪に対応、智慧教養に合うの一般に関係、プログ型に有効を発揮する方の不可の関抗の過程数・番供料・十字の右口 日本 英国区において、本の右後は関の上 めいカネット	全部を保護 結構物(早	「もためのイットの変数が、過程 猫のナゼッセネッ	温、脂肪の脂・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	は、「一」のでは、「一」のでは、「一」のでは、「一」のでは、「一」のできません。「一」のできましん。「一」のできません。「一」のできましん。「一」のできましん。「一」のできましん。「一」のできましん。「一」のできましん。「一」のできましん。「一」のできましん。「一」のできましん。「一」のできましん。「一」のできましん。「一」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」」のできましん。「」」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。」。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」。「」のできましん。「」。「」のできましん。「」。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。「」のできましん。」。「」のい。」。「」のできましん。」。「」のできましん。「しん。」。「」。「」。「」」のできましん。」。「」。「」。「」。」。「」。「」。」。「」。「」。「」。」。「」。「」。「	合和3年度:	: 流木処理 120.0 空㎡ 実施 · ·	(〇) 思雄・・		
平成30年度:			X			令和4年度:	: 流木処理 3750.0 空㎡実施 ·	(〇) 単端・・		
<ul><li>諸塚村の黒岳において、</li><li>椎类村不上野の尾前・6</li></ul>	・諸原から単正において、シカの食管から布を推動な保護するためのネットの原販及び、遊苑西郷、観察寺街・推奏時不士野の尾前・衛山日希地及において、シカの食者から布や魔勢を保護するためのネットの補務や離れ	ネットの設度物を保護	間及び、巡視活動、観察歩 するためのネットの補移や	道の制後・・・評価(〇) 雑草木の徐去等の環境整備・・・評価(〇)	(〇) 更添・・・響		<日道領域> (1)指導は、6.1-72等性の上級条件の数化 (9)自発度組合語の	(9)十工海岸の上部	(6) 小菜四季等	男組の結本
令和元年度: ・諸塚村黒后における	合和元子年度: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	57.60	/巡視活動、シカネット	及び観察歩道の補修	作業・・・路価(〇)			(6)遏水緩和機能の低下,(8)砂防施設容量減少	张下,	TAN ENGLAND
<ul><li>権業何本上野のようをある存成。</li></ul>	・無疑点や工野の同口勘込における、アガ其市がも治力動物分別搬しなどの確見不深去・・・評価令性も発展・	るたりも	国物化保護するにめ	の雑草不派去・・	(2) 与社・	直接的、間接的に	スペダム関係と			
おおれまらにおける	コイニューンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3200	巡視活動、シカネット	、及び観察歩道の補修	作業・・・評価(〇)	関連する	(12)散消設備の機能障害, (13)利水穀偏の機能障害/資金の機能障害	(13)和(水設備の機能	温斯	
<ul><li>椎葉村不上野の店 合利3年度・</li></ul>	・権業村不上野の向口地区における、シカ食害から希労植物を保護するための雑草木除去・・・評価舎約3年度:	の希公園	直物を保護するため	の権草不除去・・	(〇) 集結・	出題・諸語	(24)氾濫発生時の概害拡大	درا		
<ul><li>・諸塚村黒岳における</li><li>・権 葉村不上野の店</li></ul>	- ###なけ用のこおける、シカの食者から希少植物を保護するための巡視技動、シカネット及び顕然歩道の補信作業・・・詳価・ ・ # 葉サネト手の同口地区における、シカを守から希少植物を保護するための雑草 4 体が 光・・・評価 (○)	るための、一番少様	/巡復活動、シカネット 1物を保護するため	、及び観察歩道の補修 の雑草木除去・・	作業・・・評価(〇)・評価(〇)		< 河口・海岸領域> (30)船舶の航行(機業上)の支障。(31)海岸環境悪化、	支障, (31)海岸環境,	惠化.	
令和4年度:							(32)漁業(操業)の支障, (3	(33)氾濫発生時の被害拡大	<b>広大</b>	
<ul><li>・諸塚村黒岳における、 道の補依作業(予定)</li></ul>	3ける、シカの食害から希少植物を保護するための巡視活動、 (チ定)	物を保	護するための巡視	活動、シカネッ	シカネット及び観察歩					
・椎柴村不士野の	区における,	·防獸者	雑草木除去・防獣ネット補修作業・・	· 韓第 (O)						
直接、間接的に関 連する問題・課題	< 山地領域> (3)自然景観の消失, (4)生	物生	(4)生物生息環境の変化, (5)産業基盤の流出	産業基盤の流出						

(令和4年12月12日更新)

## (令和5年5月25日更新)

未来みやざき創造プラン	5< 9) (C·2-(2))		【事業内容、目的】 森林ボランティア団体等の育成や、県民の知恵と行動力を生かした県民公婆型の森林ろくり活動に対 する支援を行うとともに、団体等の参画した社会資献等のための森林ろくりを支援することにより、県 民参加の森林ろくりを一郷推進する。 ⑤「みやざき森ろくりコミッション」活動強化中業 みやざき森ろくりコミッション」活動強化中業 みやざき森ろくりコミッション」活動強化中業 森林バスりの高の支援事業 森林ボランティア団体等が行う森林ろくり活動を公募し、活動に必要な経費を補助する。 ⑤森林バランティア団体等が行う森林ろくり活動を公募し、活動に必要な経費を補助する。 ⑥森林バランティア団体等が実施する植動活動に必要な笛木を提供する。	101	- 評	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(〇) 與點・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	団体)へ助成・・・評価(〇)	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(〇) 则雄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	団体)〜勘成・・・評価(○)	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(〇) 野雄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		団体) 〜助成・・・評価(○)	200	·····································	eth.
事業に関連する 上位計画	<ul><li>・分野(産業づくり)</li><li>・施策の体系(C-2-(2))</li></ul>		動力を生かした 等のための森林 や自主的な研修 公募し、活動に 要な苗木を提供	【計画即間】	耳川流城会員3	(2,055本) の		耳川流域会員3	(1.445 本)	•	耳川流域会員3	(1 980 JC)	Troop de la constitución		耳川流城会員3		(*00 /*/ JAH	area (spinge)
#	₹	禁	通と行 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	20	活動人物	80ha。 ~苗木	(е	活動へ助成	6.70h	(в	活動 一切成	2.60ha	а)		活動	~明時	00ha	業体やファイノ四年(井川高戦4回年)へ田子
「木と緑の森林のくり」県民総参加強化事業	定磷铁	環境森林部 環境森林課	【事業内容、目的】 森林ボランティア団体等の看成や、県民の知恵と行動力を生かした県民公募型の森林ろく! する支援を行うとともに、団体等の参順した社会資配等のための森林ろくりを支援すること! 民参加の森林づくりを一般推進する。 ⑤「なみざき森づくりコミッション」活動強化事業 みやざき森づくりコミッション」活動強化事業 の森林づくり活動支援事業 森林ボランティア団体等が行う森林ろくり活動を公募し、活動に必要な経費を補助する。 ③森林ボランティア団体等が行う森林ろくり活動を公募し、活動に必要な経費を補助する。 ③森林ボランティア団体等が持ち森林ろくり活動を公募し、活動に必要な経費を補助する。	平成23年度~今和4年度	作業実施経緯】 森林づくり応援団活動支援事業 応収 23 年度: ①みやざきの森づくりボランティア協議会の活動(耳川流域会員3団体)〜助成・・ ②森林ポランティア団体(耳川流域5団体)〜助成	植栽面類 1.80ha 保育(下刈等)面類 3.80ha・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	植栽面毯: 3.25ha (②と一部重複: 0.80ha) ・・ 成 24年度:	<ul><li>○安やがかり様んへのボルンドメア協議会の活動(耳三湾製金員3回体)へ思成・・砂様井ポリンドメア回答(耳三湾場6回条)へ思及</li></ul>	植栽面樹:1,95ha 保育(下刈等)面積:6,70ha・・・・ ②森林ポランティア団体(耳川流域5団体)〜苗水(1,445 水)	植栽面植:1.81ha (②と一部重複:1.45ha) ・・ 成 25 年度:	①みやざきの様ろくりボランティア協議会の指導(耳川浦製会員3団体) ②森林ボランティア団体(耳川浦装5団体)へ助成	植栽面種 1.38ha 保育(下角等)面積 12.60ha・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	株型のファイン UPP (47)(Max C UPP) これで 模表面積: 4.68ha (②と一部重複: 0.38ha)・・		①みやざきの森づくりボランティア協議会の活動 (耳川流域会員3団体) 〜助成・	②森林ボランティア団体(耳川流域2団体)〜町成	情波面積 0.10ha 保着(下角線)直積 9.00ha・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	T PULL LATTORNEY BUTH
事業名	事 業 主 体	超過量	「中家内谷、日的」 森林ボランティア団体等の する支援を行うとともに、国 民参加の森林ムペリを一参指 ①「みやざき森ムペリコッ シャだき森ムペリゴラン ②森林スペリ 市価東支援中等 森林ボランティア団体等 森林ボランドィア団体等 森林ボランドィア団体等	【事業期間】	「存業実施総権」・森林公への応援団活動支援手権 ・森林公への応援団活動支援手権 ・成 53 年度 : ・ 日みやざむの様らへのボルンド ・ の森林ボウンティア団体 (耳)::	植装面槌 1.80 ③森林ボランティ	植栽面植: 3.2 4.成 24 年度:	日本やざきの様。 回様林ボランド	植牧戸街:1.9 ②森林ボレンド・	植栽面植:1.8 平成25年度:	○ なかがきの森 の森林ボレンド	植栽面積 1.38	· 植栽面樹: 4.6	平成26年度:	①みやざきの森へ	回森林ボランテ	植栽面植 0.10	CONSERVATION OF A PARTY OF A PART

<ul> <li>● 株式ランティア団体(耳川浩族7団体) 〜油木(1,230 木)の提供 電核面積:2.70ha (②と一部直接:0.60ha)</li> <li>● 株式ランティア団体(耳川浩族7団体) 〜油木(1,230 木)の提供 塩板面積:2.70ha (②と一部直接:0.60ha)</li> <li>● 森林ボランティア団体(耳川清域6団体) 〜別成 電 森林ボランティア団体(耳川清域6団体) 〜別成 種核面積:0.80ha 保育(下刈等) 面積14.5ha</li> <li>● 森林ボランディア団体(耳川流域5団体) 〜別成 植核面積:5.52ha (③と一部直接:4.1ha)</li> <li>甲収29 年度: □ みやおき森ムくりボランティア協議会の活動(耳川流域会員3団体) 〜別成 ※株式ランディア団体(耳川流域3団体)〜団ボ域会員3団体) 〜別成 ※株式ランディア団体(耳川流域5回体)〜別成</li> <li>● 本やおき森ムくりボランティア協議会の活動(耳川流域会員3団体)〜別成 経体ボラシア・スア団体(耳川流域5回体)〜別成</li> </ul>	・ 評価 (O) ・  評価 (O) ・  評価 (O) ・  評価 (O) ・  評価 (O) ・  評価 (O) ・  評価 (O) ・  評価 (O) ・  評価 (O) ・  評価 (O) ・  評価 (O) ・
植物面積: 2.70ha (②と一部直複: 0.60ha) 「水と縁の棒状ろくり」県民総参加推進事業 平成 28 年度:  3. みやざき森ろくりボランティア協議会の活動(耳川流域会員4 団体)〜助成・ 意森ボランティア団体(耳川流域6 団体)〜助成 植栽面積: 5.92ha (②と一部重複: 4.1ha) ・ みやざき森ろくりボランドィア関係(耳川流域3 団体)へ助成・ ・ 1.22 年度:	a
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
120	
122	
100	計 程 胜 程 経
Total Control of the	64 Bt 94 St
	E 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10
	ME SAE
② 森林ボランティア団体(耳)-諸城6団体)へ担木の塩(1,310本)の塩供塩塩脂脂。2 5.1.2 (②ソー食用剤・5.65m)	6/L
	ma.
	(〇) 期間 (〇)
② 森林ボランティア団体 (耳川流域6団体) 〜助成	(〇) 算法・・・・
高級問題 ・采草(ト刈物) 自衛 19.95ks・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(〇) 題起・・・・
和元年度 (吳椒):	
<ul><li>ごうななお様とへのボンンアイと電視点の指数(4月)に接換収買3回体)へ形成・ 必要力がいいが、と呼ば、自己推荐と呼ば、〈程む</li></ul>	(〇) 具
	(〇) 距越・・・・
③ 森林ボランティア団体(耳川流域7団体)〜苗木の提供(1460本)の提供	
: 3.87ha (②と一部直複: 2,74ha) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	•••••評価(〇)
16-	
	(〇) 脚龍・・・・
② 森林ボランティア団体 (耳川流域8団体) へ助成	
植袋而積 ・保育 (下刈等) 面積 36.18ha・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(〇) 題志・・・・
③ 森林ボランティア団体(耳川流域5団体)〜苗木の堪供(1,315本)の塩供	
植株面積:6.64ha (②と一部重複:2.74ha) ·········	・・・評価(〇)
合和3年度: (実績)	
① みやざき森づくりボランティア協議会の活動(耳川流域会員1団体)へ助成・	(〇) 財徒・・・・
② 森林ボランティア団体 (耳川流域2団体) へ助成	
植栽面積・保脊 (下刈等) 面積 6.76ha・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(○) 脚雄・・・・
③ 森林ボランティア団体(耳川流域2団体)〜苗木(295本)の提供	
権機面領:0.81ha (②と一部直後:0.01ha) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(〇) 単雄・・・・・

긆	
則	
П	
2	
II,	
#	
4	
小村	
5	

北 紫 名	1.0	分収林植粮未済地 対策事業	非業に関連する 上位計画	未来みやざき創造プラン	1.
<b>新</b> 業 走	*	(一社) 宮崎県林業公社	<ul><li>公専 (海線 ひへゃ)</li><li>・・会専 (海線 ひへゃ)</li></ul>	5< 9)	
相当期	直	環境森林部 森林経営課	なるないとお	(2)	
【事業内容、『	目的				
森林·林紫冬	をめく	森林・林業をめぐる状況が一層搬しさを増し、森林所有者だけでは適切な森林整備が困難となってい	条林所有者だけでは	<b>鱼切な森林整備が困難とな</b>	220
ることから、裏	茶杯品	ることから、森林整備法人が管理する分収林において長伐期施業等を推進するとともに、伐採する分収	いて及伐期施業等を	催進するとともに、伐採す	る分の
林の植栽未済生	地化表	林の楠模未済地化を抑制・解消することにより、森林の有する公益的機能の維持増進を図る。	条体の有する公益的	機能の維持増進を図る。	
<ul><li>分収林の机</li></ul>	值級	・分収林の植栽未済地及び末植栽の伐採跡地の解消を図るため、土地所有者への意向調査を踏まえ再	解消を図るため、土	也所有者への意向調査を辟	まえー
造林の働き探予定箇別	きかり	造体の働きかけなどを行う。また今後の分収林役保地が植装未済地化することを抑制するため、伐 保予定箇所の現況調査(再造林の適地調査)を行うとともに、土地所有者に対する再造林の普及啓	析技探地が植栽未済 ≥行うとともに、土	也化することを抑制するた 也所有者に対する再造林の	的, 也 普及是
発, 返地移	後に占	発、返地後に土地所有者が立てる森林経営計画の作成支援などを行う。	町の作成支援などを	To	
【事業期間】	_	平成23年度~	【計画期間】	即】	
【事業実施経緯】 平成 23 年度: 中	5線]	(事業実施経緯) 印成28年度: 植模未済地・未植模地対策(再造林意向調査等)		58件 603ha・・・評価 (	0
	2)	伐樑予定地対策 (再造林普及啓発等) 79 件 249ha · ·	音等) 79 件 249ha	••••••	(0)
平成24年度	2:4	平成 24 年度:植栽未済地,未植栽地対策 (再造林意向調査等)		70件 688ha···評価 (	0
	4	伐採予定地対策 (再造林普及啓発等) 44 件 180ha · ·	音等) 44 件 180ha	明煌・・・・・・	(0)
平成25年度	2:相	: 植栽未济地,未植栽地対策 (再资	(再造林意向調査等) 7	75件 799ha···評価(	0
	4	伐採予定地対策 (再造林普及啓発等) 68 件 286ha · ·	音等) 68 (年 286ha	・・・・・評価	(0)
平成26年度		: 植栽未济地,未植栽地対策 (再造	(再造林意向調查等) 80 件	928ha···評価	0
	42	伐採予定地対策 (再造林普及啓発等) 59 件 254ha · ·	各等) 59 件 254ha	脚雄・・・・・・	(0)
毕成27年度	五: 面	: 植梭未済地,未植栽地対策 (再资	(再造林底向調査等) 7	75 件 862ha···評価 (	0
	=1	伐探予定地対策 (再造林普及啓発等) 104件	ě等) 104 件 302ha・・		0
平成28年度	是: 桁	: 植梭未済地,未植栽地対策 (再資	(再造林意向調査等) 7	76件 861ha···評価(	0
	+	伐採予定地対策(再造林普及啓発等)102件		317ha······蔣伽(	(0)
平成29年度		: 植栽末済地,未植栽地対策 (再3	(再造林/倉向調査等) 7	76件 660ha···評価 (	(0)
	7	伐探予定地対策 (再造林普及啓発等) 243 件		317ha・・・・・・・評価 (	0
平成 30 年度		: 植栽未済地,未植栽地対策 (再造林意向調査等)	(林庭向調查等) 9	92件 753ha···評価(	0
	42	伐探予定地対策 (再造林普及啓発等) 312 件 1,008ha・・・・	8等) 312件 1,008	評価	0
合和元年度		: 植梭米济地,未植栽地対策 (再望	(再造林意向調查等) 98件	819ha····評価	0
	4	伐採予定地対策 (再造林普及啓発等) 323 件 1,131ha・・・・	8等) 323 件 1,131	. · 評価	(0)
令和2年度	海:	: 植栽末済地,未植栽地対策 (再造林意向調査等) 99 件 753ha.,	林意向調查等)994	評価	(0)
	4	伐採予定地対策 (再造林普及啓発等) 46 件 199ha ·	音等) 46件 199ha		0
合和3年度	量:	: 植栽未済地,未植栽地対策 (再造林意向調査等) 213 件 934ha	林意向調查等) 213	件 934ha····辞飾(〇)	0
	+	伐採予定地対策 (再造林普及啓発等) 96 件	逐等) 96件 348ha ·		0
合和4年度		: 植栽末济地,未植栽地対策 (再造林意向調查等) 90 件 700ha,,,, 厚価	林意向調查等)90/		0

(令和4年11月10日更新)

行動計画カルト(	(計画番号:14)		
	(ET : 6 HIGH)		
<b>举</b> 然	就労環境対策事業 (関連事業有り※林業担い 手総合対策基金事業)	事業に関連する上位計画	未来みやざき創造プラン
事業主体	宮崎県	<ul><li>・分野(産業ろくり)</li><li>内・施策の体系(C・2・(2))</li></ul>	$3 \leqslant y$ ) (C·2·(2))
相当部局	環境森林部山村・木材振興課	禁	
[事業內容、目的]		-	
- ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	本でも、エピー 業担い手の通年雇用を促進し就労条件を改当 生施設の整備を支援することにより、森林館もの大適正な森林管理の維持に資する。	するため、社会保険 <sup>3</sup> 備の重要な担い手でき	1・本 1・1・2) 林業担い手の通年雇用を促進し航労条件を改善するため、社会保険やJB機会共済制度の加入促進や福利厚生施設の整備を支援することにより、森林整備の重要な担い手である林業労働者の維持確保を図り、もって適正な森林管理の維持に資する。
[事業期間]	平成9年度~	【計画期間】	即】維統
【事業実施経緯】			
平成23年度:新規就業者数	(185人)・・	評価(〇)	
平成24年度:新	: 新規就業者数 (170人)・・ 計	計価(〇)	
平成25年度:新	: 新規就業者数 (137 人)・・ គ	計(〇)	
平成26年度:新規就業者数	(139人)・・	評価(〇)	
平成 27 年度:新規就業者数	(165人)・・	評価(〇)	
平成28年度:新規就業者数	(203人)・・	評価(〇)	
平成29年度:新規就業者数	(178人)・・	評価 (O)	
平成30年度:新規就業者数	(163人)・・	評価 (O)	
令和元年度 :新規	: 新規就業者数 (211 人)・・ 評	評価(〇)	
令和2年度:新規	: 新規就業者数 (189 人)・・ 評	地里(〇)	
令和3年度:新規	: 新規就業者数 (155人)・・・ 評	版(O)	
直接的、間接的に関連する問題・課題	<ul> <li>(1) 均壊地からの土砂流出,(2)土石流等の土砂災害の発生,(3)自然影((4) 比壊地からの土砂流出,(5) 産業基盤の活出,(6) 3 保業基盤の活出,(6) 3 保業基盤の活出,(6) 3 保業基盤の活出,(6) 3 保養和機能の低下,(3) 3 2 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5</li></ul>	(2)土石治等の土砂災 (2)土石治等の土砂災 (3)砂防施設容電減少 (4) 利水配備の機能等 (13)利水配備の機能等 (5) 海岸環境患 (5) 海岸環境患	(1)出額版文> (1)的數地からの土砂流出, (9)土石流等の土砂災害の発生, (3)自然景観の消失, (4)生物生息原境の変化, (5)産業基盤の流出, (6)渴水緩和機能の低下, (7)洗水凝和機能の低下, (8)砂防電災容量減少 ダム面板> (9)昨本地未端部件水安全度低下, (10)利水容量の機少, (11)原水口の理模, (12)核流設備の機能障害, (13)利水設備の機能降害, (12)核流設備の機能障害, (13)利水設備の機能降害, (24)氾濫成シ (20)配置数> (20)配置数> (20)配置数> (20)配置数。 (20)配置数。 (20)配置数。(20)配置数。(20)加高器を提供。 (20)船舶の前行(模葉上)の支疏, (31)指岸環境患化, (30)縮和の前行(模葉上)の支疏, (31)指岸環境患化, (32)温素模果(の支撑, (33)加高発生時の被害拡大

(令和5年5月23日更新)

事業に関連する 上位計画

諸塚村森林炭素吸収量 活用プロジェクト 諸塚村

巛

行動計画カルテ (計画番号:15)

内 徐

産業課

R

1 Sep

相当

\*

#

継

#

[事業内容、目的]

適正な間段による CO2 吸収の促進と雇用創出。国工保全、水原涵養等森林機能の維持。 村・森林組合・ウッドピア・3 者の所有林を計画的に間伐し、CO2 吸収を強化、クレジット化した 吸収量を売買し、その収入を森林管理費等に充てる。

[事業実施経緯] 1774-00 在第二四五分4	十成20十度~ pfull 4 中皮	【計画期間】	継続
50年10日世,田里安存			
平成23年段:城沉夫庫	平成 23 年度:販売実績 (519,750円)	(〇) 馬盐・・・	
平成 24 年度: 販売実績 (31,500 円)	(31,500円)	禁律(〇)	
平成 25 年度: 販売実績	(1,036,000円)	(〇) 単端・・・	
平成 26 年度:販売実績 (219,200 円)	(219,200円)	(〇) 脚湖・・・	
平成 27 年度: 販売実績 (7,000 円)	(7,000円)	(〇) 単雄・・・	
平成 28 年度: 販売実績 (378,000 円)	(378,000円)	(〇) 與其・・・	
平成 29 年度: 販売実績 (459,000 円)	(459,000円)	(〇) 脚框・・・	
平成 30 年度: 販売実績 (950,400 円)	[ (950,400 円)	(〇) 脚湖・・・	
令和元年度 : 販売実績	: 販売実績 (496,800円)	••••響值(〇)	
令和2年度: 販売実績	[ (555,000 円)	(〇) 場場(	
令和3年度:販売実績	: 販売実績 (1,034,000 円)	・・・ 準備(〇)	
令和4年度:販売実績	: 販売実績 (654,500 円)	••••弊值(〇)	
2169	大戦 (bot,500 17)  (c) (山地茂地 たい (b) (c) (c) (c) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d	76年 (1954年) 17 (1954年) 18 (1954	(3)自然素優の対 機能の低下, リ取水 11の用強。

(令和5年5月23日更新)

(令和5年5月30日)

行動計画カルテ	(計画番号:16)		
華業名	FSC 森林認証制度を 活用した森林管理事業	事業に関連する 上位計画	
事業主体	諸塚村	K	
相当部局	産業課	茶	
[事業内容、目的] 森林の公益的機能の維持のたき な活用できる循環型の森林管理。 環境保全に重点を置いた適正?	の維持のため、環境保全に 1の森林管理。 でいた適正な森林管理や社	事業内容、目的】 森林の公益的機能の維持のため、環境保全に配慮した適正な森林管理と特続可能な森林資源を有効 活用できる循環型の森林管理。 環境保全に重点を置いた適正な森林管理や社会的利益に則した森林経営に努める。将来を見据えた	能な森林資源を有効 る。将来を見据えた
かな育林・収穫の	↑管理経営計画を定め、経済 	確かな青林・収穫の管理経営計画を定め、経済的に持続可能な森林経営に努める。 	
【事業期間】		【計画期間】	継続
[ 事業美加維緯] 平成 23 年度: 森 平成 24 年度: 森		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
平成 25 年度: 森平成 26 年度: 森	平成 25 年度:森林保全暨備事業美績(19,70 平成 26 年度:森林保全整備事業実績(21,61	(19,700,000円)・・・評価(〇)(21,619,600円)・・・評価(〇)	
平成 27 年度: 森	平成 27 年度:森林保全整備事業実績(34,62	(34,621,830円)・・・評価(〇)	
平成28年度: 森		・・評価	
平成 29 年度: 森平成 30 年度: 森	平成 29 年度:森林保全整備事業実績( 8,63 平成 30 年度,春林保全整備事業実績( 5,60	(8,637050 因)・・・韓角(〇)	
令和元年度: 森	_		
令和2年度: 森	: 森林保全整備事業実績 (11,17	(11,176,300 円)・・・評価(〇)	
令和3年度: 森	: 森林保全整備事業実績 (7,90	(〇) 斯雄・・・(1,901,960円)	
令和4年度:森	: 森林保全整備事業実績(8,92	(8,921,250円)・・・評価(〇)	
* (977-97) tala	<ul><li>(1)所藤旭からの土砂浦出,(2)土石濱等の土砂(4)生物生息環境の変化。(5)産業基盤の流出,(7)法水袋和機能の低下,(8)砂防施設容量減少、メル流転入。</li></ul>	災害の発生, (6)渇水緩和#	(3)自然景観の消失, 機能の低下,
直接的、間接的に 関連する 問題・課題	トンカ西戦 > (9)背水池末端部沿水安全 (12)攻縮設備の機能航空 トで道路域>	タイ度級人 (9)許水池未鑑部治水安全度低下, (10)利水容量の減少, (11)原水口の埋地。 (12)数減設備の機能腐治, (13)利水設備の機能腐岩, 下道温減シ	)取水口の増慢。
	(24) 厄艦発生時の被害担人 <河口・海岸領域> (30)船舶の航行(極業上)の	24  記載発生時の複書地大  河口・循岸開城   30  発輸の航行(機業ト)の支艦 (31)福普羅塔黒化	
	(89) 海梁(梅季)の支援(8	(92)海峯(梅峯)の支撑。(93)沪藩発生唐の被害拡大	

管内河川水系の水土保全、水源かん養などの公共性の高い山林に対し、崩壊地等の緑化が実施され (1)崩壊地からの土砂流出, (2)土石流等の土砂災害の発生, (3)自然景観の消失, (9)時水池末端部治水安全度低下。(10)利水熔量の減少、(11)限水口の埋烧。 定住自立图構想 継続 (4)生物生息環境の変化, (5)産業基盤の流出, (6)渇水緩和機能の低下, ・豊かな森林の保全 [計画期間] (12)放施設備の機能廢害, (13)利水設備の機能除害, (30)船舶の航行(操業上)の支障, (31)海岸環境悪化, (32)漁業(操業)の支障, (33)氾濫発生時の被害拡大 (7)洪水緩和機能の低下, (8)砂防施設容量減少 事業に関連する 平成 23 年度: 小丸川水系のみ実績あり・・・・・・評価 (-) 平成24年度:小丸川水系のみ実績あり・・・・・評価 (一) (一) 関雄・・・・・ (一) 脚脚・・・・・ (一) 思雄・・・・・ 平成29年度: 小丸川水系のみ実績あり・・・・・・評価 (一) (一) 題點・・・・・・ (一) 掛雄・・・・・ 上位計画 ・・・・・評価 (一) (一) 則雄・・・・・ (一) 題處・・・・・ (一) 単端・・・・・ 民有林の購入薬剤樹幹注入等により森林の保全が図られる。 K 禁 (24) 厄艦発生時の被害拡大 平成23年度~令和4年度 森林の保全事業 <河口・海岸領域> 農林振興課 美郷町 ・ 薬剤樹酔注入を行う。(松食い虫) 行動計画カルテ (計画番号:17) <ダム循版> <山地領域> <運動調道> 平成25年度:実績なし 平成26年度:実績なし 平成 27 年度:実績なし 平成30年度:実績なし 令和3年度:実績なし 平成28年度:実績なし 合和2年度:実績なし 令和4年度:実績なし 令和元年度 : 実績なし [事業內容、目的] 直接的、間接的に 女 E [事業実施経緯] K 【事業期間】 問題·課題 関連する # 掘 継 继 訓 計 型 #

# (令和5年5月23日更新)

行動計画カルテ	(計画番号:18)			
華業名	カーボンオフセットの 権進事業	掛	事業に関連する上位計画	定住自立圏構想
事業主体	諸塚村	K		
担当常局	産業課	<b>%</b>		
事業均等、目的	事業均容、目的】 林業別係者や耳川広域森林組合、関連企業などと連携しながら、園域の豊富な森林資源を活用し、 環境者のオフセット・クレジット制度の導入を図る。諸塚村等の取り組みについて調査研究を行い、 園域一体となった取り組みとなるよう関係機関との調整を行う。 林地銭材利活用の推進のため木質バイオマス供給施設における本質燃料として林地残材利活用を図る。 ・環境省のオフセット・クレジット (J-VER) 制度の導入。 ・間伐を中心とした森林管理の推進を図る。 ・報覧ペイオマス供給施設における本質燃料として林地残材利活用に対する助成を行う。	どと連移 図る。計図を記録を たの調整 後材利語を の。 の。 の。 の。 はなり の。 はなり の。 はなり の。 はなり。 はなり。 はなり。 はなり、 はなり。 はなり、 はなり、 はなり、 はなり、 はなり、 はなり、 はなり、 はなり、	りながら、圏域 を行う。林地残 を行う。林地残 用を図る。 対入。 は残材利活用に	の豊富な森林資源を活用し、 4について調査研究を行い、 3月活用の推進のため本質 はする助成を行う。
【事業期間】	平成22年度~令和4年度	har	【計画期間】	紫紫
[事業実施経緯] 平成 23 年度: J-	事業実施維綿】 平成 23 年度:J-VER 檢証業務(実績):1,349,576 円・	19,576 H		(〇) 影響・・・・・
平成 24 年度: J-平成 25 年 - J-	平成 54 年度:J-VER 制度計画改定年であり 核証業務を実施していない・・・評価(-) 平成 56 年度:J-VER 格許業務(主線)・984 000円・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	) 検証業	務を実施していた ・・評価(○)	(一) 則想・・・・ほ
※平成22年度~	※平成 22 年度~25 年度で検証業務終了			
平成 26 年度: 5-7	平成 26 年度: J-クレジットへの移行。経費: 0 円	-		
平成 27 年度: 経費:0 円	費:0円			
平成28年度:経費:0円	費:0円			
平成29年度:経費:0円	費:0円			
平成30年度:経費:0円	費:0円			
令和元年度 : 経動	: 経費: 0 円			
令和2年度: 経	: 経費: 0 円			
令和3年度:経	: 経費: 0 円			
令和4年度:経	: 経費:0円・・・J-クレジットへ移行	1-人移行		
	<山地領域> (1)所域地からの土砂流出,(2)土石流等の土砂災害の発生,(3)自然景術 (4)生物生息環境の変化,(5)産業基盤の流出,(6)掲水緩和機能の低下, (7)洪水緩和機能の低下,(8)砂防施設容量減少	, (2)士/ (5)產業 (8)砂防計	5流等の士砂災害 基盤の流出,(6)落 電設容量減少	(山地領域> (1)情報地からの土砂流出,(2)土石流等の土砂災害の発生,(3)自然景観の消失,(4)生物生息環境の変化,(5)産業基盤の流出,(6)掲水緩和機能の低下,(7)沈水緩和機能の低下,(8)砂防施設容量減少
直接的、間接的に 関連する 問題・課題	<ul><li>くびム価減&gt;</li><li>(9)昨火池未端沿台水安全度(下、(10)利水谷県の減少。(11)収水口の組織(12)放流設備の機能障害。(13)利水設備の機能障害。</li></ul>	度低下, (13)利人	(10)利水容量の3 水設備の機能障害	或少, (11)限水口の個陰,
	(17日間後) (2017日間後) (2017日間後) (2017日間後) (2017日 - 海洋圏域) (2018年の城行機器 F)の支線 (31)海洋圏境温水	が を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	81) 海岸螺焰黑化	
	(32)漁業(操業)の支障, (33)氾濫発生時の被害拡大	(8) 沿龍角	8上時の被害拡大	

# (令和4年12月7日更新)

# **	外部人財活用による 集落活動支援事業	** #-	事業に関連する上位計画	宮崎県中山間地域振興計画
華業市体	宮崎県	Æ	・分野(集落の維持 ・施策の体系(第3	・分野(集落の維持・活性化と新たな絆の創造等) ・施策の体系(第3章-第3節-2-(2))
担当常局	中山間·地域政策課	供		
「年業内容、目的」 中山間地域では、 中山間地域では、 手、伝統芸能等の3 このため、中山 又は市町村等から じて中山間地域の3 耳川流域対象市町	非業内容、目的】 中山間地域では、過疎化や高齢化の著しい進行により、集落における草刈り等の共同作業そ 、伝統芸能等の維持・運営を行う担い手の確保が大きな課題となっています。 このため、中山間地域でボランティア活動を行う「中山間盛り上げ隊」を組織し、中山間地 は市町村等からの要請に応じ、集落等の行う各種活動を支援するとともに、これらの支援 で中山間地域の任民と都市住民との交流を推進する販組を実施しています。 耳川流域対象市町村(諸塚村、推集村、美郷町、日向市(旧美々津町、旧岩脇村、旧東郷町))	進行に を行う 行う各利 指値す、 可、 日间、	より、集落における 大きな課題となって 「中山間盛り上げ隊 童活動を支援すると 多取組を実施してい 向市(旧美々津町、い	[
【事業期間】	平成21年度~		【計画期間】	維統
「井業実施総論」 中山同路の上行 中山田地域とつ、 平成 23 年度:諸 平成 24 年度:諸 平成 26 年度:諸 平成 26 年度:諸 平成 26 年度:諸	臣: 书: 回回幾回	(平成 21~23 年度) 11	(21~23年度)	・ 評価 (○) ・ 発価 (○) ・ 評価 (○) ・ 評価 (○)
・外部人財活用に、 平成 28 年度: 諸 平成 29 年度: 諸	か部人和店用による来浴店週又接事業 (中度 28 年度~) 平成 28 年度:諸塚村1回、椎葉村1回、美郷町1回、日向市3回・・・評価(○) 平成 29 年度:諸塚村1回、椎葉村1回、美郷町4回、日向市2回・・・・評価(○)	(平成 28 平度~) 国、美郷町1回、E 美郷町4回、日育	英~) 回、日向市3回・・・ 1、日向市2回・・・	・ 評価 (〇) ・ 評価 (〇)
平成 30 年度:諸 合和元年度:結 合和 2 年度:実績 合和 3 年度:実績	平成 30 年度:諸塚村 4 回、稚紫村 1 回、美郷町 3 回、日 向市 3 回・・・評価(○台和元年度:諸塚村 3 回、稚紫村 1 回、美郷町 1 回、日向市 4 回・・・評価(○)台和 2 年度:実績熊 し・・・・評価(×)合わ 3 年度:実績熊 し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	馬町3回	1, 日向市3回・・・ 日向市4回・・・	· 評価(〇) 評価(〇)
	<山地領域> (1)崩壊地からの土砂流出 ハナ省との直接と対し、	(2)十	石流等の土砂災害の	(1)地域域> (1)地域地からの土砂流出、(2)土石流等の土砂災害の発生、(3)自然景観の消失、 ハル・塩ル・自 電磁 かんかり ランボ 新いかった。 (A) からいまるをものがた。
	東東の変化, 機能の低下,	(8)砂防	(8)砂防施設容量減少(8)砂防施設容量減少	6条下18条目との745下。
直接的、間接的に	<ul><li>イダム額域&gt;</li><li>(9)昨水池末端館台水安全度低下,(10)加水容量の減少。(11)取水口の温流。</li></ul>	提供下	(10)和水容量均減。	2, (11)取水口の網盤。
関連する問題・課題	(12)放流設備の機能障害, (13)和水設備の機能障害, < 価格額数 >	(13)利	本設備の機能障害、	
	(94)氾濫発生時の被害拡大	¥		
	<河口・海岸領域>			
	(30)船舶の航行(操業上)の支障, (31)海岸環境悪化, (20)海紫保線が大士隊 (20)沿海炎な中国の中央社工	)支障,	(31)海岸縣海惠化,	

(令和5年5月31日更新)

行動計画カルテ (計画番号:20)

TOWN IN THE PARTY OF THE PARTY			
事業名	林業労働力	事業に関連する	定住自立圏構想等のも上記
事 業 主 体	(椎葉村) 諸塚村、美郷 町、日向市	内林業担い手育成対策	
担当部局	農林振興課	谷	
林業労働力担い手林業労働力担い手	事業内容、目的】 林業労働力担い手対策として、林業従事者に対する福利原生の助成を行う。 ************************************	対する福利厚生の助成対	
【事業期間】		【計画期間】	11
[事業実施経緯] 平成 23 年度: 2,878 千円	878 千円・・・・・・・		(〇) 単雄・
平成 24 年度: 4,334 千円	334 千円		
平成 25 年度: 4,498 中日平成 26 年度: 4,686 千円	498 千円		(〇) 単端 (〇)
平成 27 年度: 5,536 千円	536 千円・・・・・・・		
平成 28 年度: 6,396 千円			評価 (O)
平成 29 年度: 6,500 千円	500 千円・・・・・・・・・・		・常角(O)
- 一	8.417 年四:		
			(〇) 単版・
令和3年度:22	: 22,187 千円・・・・・・・		・評価(〇)
令和4年度:12	: 12,221 千円・・・・・・		· 評価 (〇)
	<ul><li>&lt; 山地留城&gt;</li><li>(1)的駛地からの土砂流出,(2)土石流等の土砂災害の発生,(3)自然景(4)生物生息環境の変化。(5)産業基盤の流出,(6)温水緩和機能の低下(7)洗水凝和機能の低下,(8)砂防施設容積減少</li></ul>	, (2)土石流等の土砂浜; (5)産業基盤の流出,(6) (8)砂坊施設容量減少	<ul><li>(日)地留城&gt;</li><li>(1)助数地からの土砂流出,(2)土石流等の土砂災害の発生,(3)自然景観の消失。</li><li>(4)生物生息環境の変化。(5)産業基盤の流出,(6)遏水緩和機能の低下,(7)沈水緩和機能の低下,(8)砂防施設容量減少。</li></ul>
直接的、間接的に関連する問題・課題	< 岁五智成> (9)時本治未樂部首本安全度數下,(10)向末等屬の實 (12)乾減設備の機能服務,(13)的本設備の機能服務。 <面質額編>	度度下。(19)利米容量2 (13)利未設備の機能率	·岁五面版》 (0)時本油素維度作水安全應度下,(10)的水等量の減少。(11)股本口の時間。 (12)放流設備の機能原業,(13)的水設備の機能影響。 高高質的。
	(24)沿艦発生時の被害症大<河口・海岸領域>	*	
	(30)給舶の航行(操業上)の支際, (31)海岸環境悪化。	(30)船舶の航行(模業上)の支際, (31)海岸環境悪化	33

(令和5年5月23日更新)

定住自立國構想				継続																		
上位計画			福利厚生の助成を行う。	【阳斯厘米】	24 000 Ft		498,000円			M 000 886	(〇) 脚龍・・・			序值(〇)	Ē	(〇) 単進 (〇)			序值(0)		0 円	A Contract
	E	独	44-5		0.199	日00	は、・・日	0 : 0 H		3KE2).	H		):0FI	:	127.61	H		):0H			器塚):	1
担い手対策事業	椎葉村、(諸塚村) 美郷 町、日向市	産業課	事業内容、目的】 林業労働力担い手対策として、林業従非者に対する福利厚生の助成を行う。	平成 28 年度~合和 4 年度		林業労務共済事業(森林組合):1,400,000 円林業労務災害対策事業(森林組合):1,557,000 円	环菜技術局度化半業(森林組合・ワッドヒア語像):498,000円 社会保険等整備中業(森林組合):6,530,000円・・・・評価(○)	成 24 年度:実績 林業退職金共寄制度加入促進事業(森林組合):0 円	林業労務共済事業(森林組合):1,180,000円	休業労務災害対策事業(森林組合):0円 セ勢は発達事む主要は各体組合・カッドレア業等)・963 000円	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1		林業退職金共済制度加入促進事業(森林組合):0円	株業労務共済事業(森林組合):1,390,000 円・・・評価(○)	林紫芳務災害対策事業(森林組合):0円	作業IX期間及出す来X株が暗由・タットしい間等): 社会保険等整備手業(森林組合):6,860,000円・・		林業退職金共済制度加入促進事業(森林組合):0円	休業労務共済事業(森林組合):1,390,000 円・・・ 評価	林業労務災害対策事業(森林組合):0円	林業技術高度化事業(森林組合・ウッドピア諸塚):0円	to the second se
事 聚 名	事業主体	相当常局	[事業内容、目的] 林業労働力担い]	【事業期間】	[事業実施経緯] 平成 23 年度:実績 林業退職会北済相	林業労務共済] 林業労務災害対	杯聚技術局度( 社会保険等整6	平成24年度:実績林業退職金共済制	林業労務共済。	林業労務災害女 快樂共經点庫	社会保険等整備	平成25年度:実績	林業退職金共活	林業労務共済	林業労務災害女	社会保険等整個	平成 26 年度: 実績	林業退職金共治	林繁労務共済	林業労務災害対	林業技術高度(	A Trans. Astronomy

4版 27 年度: 実績  株業退職企表帝間度加入促進事業(森林組合): 0 円  株業労務実達対策事業(森林組合): 1,358,000 円・・・評価(○)  株業投務高度化事業(森林組合): 0 円   林業技務高度化事業(森林組合): 0 円   社会保険等整備事業(森林組合): 7,328,000 円・・・・・評価(○)	<b>林楽豊職企共済開度加入促進事業(森林組合):0</b> 円 林業貴職企共済開度加入促進事業(森林組合):0円 林業労務失害対策事業(森林組合):1,323,000円・・・・評価(○) 林業労務災害対策事業(森林組合):0円 林業技術高度化事業(森林組合・ウッドピア諸塚):0円 林業技術高度化事業(森林組合・ウッドピア諸塚):0円	平成 29 年度:支續 林業珍職企共済開度加入促進事業(森林組合):0円 林業労務共済事業(森林組合・ウッドビア諸塚):2,258,970円・・・・・評価(○) 林業労務災害対策事業(森林組合):0円 林業技術高度化事業(森林組合):0円 林業技術高度化事業(森林組合・ウッドビア諸塚):0円 林実技術高度化事業(森林組合・ウッドビア諸塚):0円	体薬設職金集活制度加入促進事業(森林組合):0円 林業設職金集活制度加入促進事業(森林組合):0円 林業労務災害対策・業(森林組合):0円 林業技術高度化事業(森林組合・ウッドピア諸塚):0円 社会保険等整備事業(森林組合・ウッドピア諸塚):0円	体薬基機企业済制度加入促進事業(森林組合):0円 林業労務専済事業(森林組合):2,006,000円・・・・・評価(○) 林業労務災害対策事業(森林組合):0円 林業技務高度化事業(森林組合・ウッドピア諸塚):0円 林業技務高度化事業(森林組合・ウッドピア諸塚):0円 社会保険等整備事業(森林組合・ウッドピア諸塚):16,765,000円・・・・評価(○)	今和2年度:実績 林業退職企共済用度加入促進事業(森林組合):0円 株業労務共済事業(森林組合):2,399,000円・・・・・評価(○) 株業労務近害対策事業(森林組合):0円 林業技術高度化事業(森林組合・ウッドピア諸塚):0円 社会保険等整備事業(森林組合・ウッドピア諸塚)・0円	存和3年度;実績 林業退職金共済側度加入促進事業(森林組合):0円 林業労務共済事業(森林組合):2,766,000円・・・・・評価(○) 林業労務災害対策事業(森林組合):0円 林業技術高度化事業(森林組合・ウッドピア諸塚):0円 社会保険等整備事業(森林組合・ウッドピア諸塚・10円 社会保険等整備事業(森林組合・ウッドピア諸塚・杜 <u>英事業体</u> ):18,832,000円・・・評価(○)
--	---	---	---	--	--	--

(令和5年5月30日)

(令和5年6月26日更新)

事業名         林業労働力         事業に関連する           事業主体 性素材、諸塚村、美郷 内 業 1 自向市	林業労働力 担い手対策事業 す、諸塚村、美郷 月向市 農林振興課 として、林業従事者に対	事業に関述する 上位計画 流域林業の基格 対 業現員の各種保 を 支援し林業労働 を する福利厚生の助成を	に関連する 定住自立圏構想 流域林業の基幹的担い手である森林組合等の作 業取員の各種保険料について、掛け金の一部を
事業 主体 所 無 素材、諸	塚村、 <u>集</u> 號 内張興票 林業従事者に対	高域林業の基礎 対 業班員の各種保 を提し林業労働 を を提し林業労働 を を を を を を を を を を を を を	り担い手である森林組合等の作 (料について、掛け金の一部を
1 当 部 局         農本           事業内容、目的】         株業労働力担い手対策として           (事業期間)         平成 23 年           事業実施経緯】	<b>协震興票</b> 、林樂從事者に対	容 ×tない作来の関 ・	「特位の一甲し十七十七年財
事業内容、目的】       林業労働力担い手対策として 事業実施経練】   平成 23 年	林樂從事者に対	する福利厚生の助成を	文法し杯業労働力艦保の一助とするための事業
			٣٥.
事業実施経緯】	平成23年度~令和8年度	[計画期間]	継続
平成23年度:96名分 11,6	11,648 千円助成(実績)	(○) 則減・・・・	
平成24年度:91名分 10,1	10,174 千円助成(実績)	(〇)	
平成 25 年度:93 名分 10,8	10,890 千円助成(実績)	(〇) 學處・・・・	(
平成26年度:87名分 10,4	10,408 千円助成(実績)	(〇) 更施・・・・	(
平成 27 年度:89 名分 10,2	10,218 千円助成(実績)	(〇) 型雄・・・・	(
平成 28 年度:89 名分 10,13	10,184 千円助成(実績)	(〇) 即處・・・・	(
平成29年度:89名分 10,0	10,080 千円助成(実績)	(〇) 則越・・・・	
平成30年度:78名分 9,39	9,390 千円助成(実績)	(〇) 學施・・・・	(
令和元年度: 75名分 9,47	9,470 千円助成 (実績)	(〇) 単進・・・・	
令和2年度:83名分 9,35	9,350 千円助成 (実績)	(〇) 則超・・・・	
令和3年度:77名分 9,564	4千円助成 (実績)	(〇) 思述・・・・	(0
令和4年度:82名分 9,612	2 千円助成 (実績)	(〇) 學雄・・・・	
<ul><li>(1)胎態域(1)胎態域地点(4)生物生息(7)洪水緩率(7)洪水緩率</li></ul>	(山地領域> (1)崩壊地からの土砂流出, (4)生物生息環境の変化, (5) (7)珠木緑和機能の低下, (8)	<ol> <li>(2)土石流等の土砂災害の発生、(3)自然景(5)産業基盤の流出、(6)掲水緩和機能の低下(8)砂防施設容量減少</li> </ol>	:山地領域>(1)舶機地からの土砂流出, (2)土石流等の土砂災害の発生, (3)自然景観の消失, 4)生物生息環境の変化, (5)産業基盤の流出, (6)渇水緩和機能の低下, 7)渋水緩和機能の低下, (8)砂防施設容量減少
的に	一大学の大学の世界	E. E. (10)图本金鲁尔	对处隔板
関連する (50km 水温 水温 水温 水温 水温 水温 (13) 水流設備 間題・課題 < がゴ質属域 >	大道世紀大久大汉大道と編の墓稿高編出。(1	(9)原水の米温品は不久主义以下、(10)和水谷重の場。 (13)放売設備の機能障害,(13)和水設備の機能障害、 (百道係成>	Ky, tijikak kenta.
(24)加騰	(24)氾濫発生時の被害机人		
<河口・希岸領域)(30)船舶の航行(操	岸領域> 5航行(操業上)の支	(河口・海岸領域> (30)船舶の航行(操業上)の支障, (31)海岸環境悪化、	

事業名         林東労働力         事業に関連する         定住自立圏機程           事業主体         目向市         内         在住自立圏機程           担当品         農林水産館 林業水産票         谷         株業水産額 林業水産票         株           日本美周間         単成大産館 林業水産票         株         株         株           日本東日         工川広域森林組合に助成・         評価(○)         評価(○)           平成 25 年度: 耳川広域森林組合に助成・         評価(○)         評価(○)           平成 25 年度: 耳川広域森林組合に助成・         評価(○)         評価(○)           平成 25 年度: 耳川広域森林組合に助成・         評価(○)           平成 26 年度: 耳川広域森林組合に助成・         評価(○)           中級 26 年度: 耳川広域森林組合に助成・         評価(○)           中級 27 年度: 耳川広域森林組合に助成・         評価(○)           今和 2年度: 耳川広域森林組合に助成・         評価(○)           今和 2年度: 耳川広域森林組合に助成・         評価(○)           今和 2年度: 耳川広域森林組合に助成・         評価(○)           今和 4年度: 耳川広域森林組合に助成・         (○)           今和 4年度: 耳川広域森林組合に助成・         (○)           今和 4年度: 耳川広域森林組合に助成・         (○)           今和 4年度: 耳川広域森林組合に助成・         (○)           今和 4年度: 耳川広域森林協合に助成・         (○)           今和 4年度: 耳川広域森林園舎に助成・         (○)           今和 4年度: 国川広域森林園舎に助成・         (○)           今和 4年度: 国川広域森林園舎に助成・         (○)           (○) <t< th=""><th></th><th></th><th></th><th></th></t<>				
部 高 部 高 局 が 目的 1 目	採	林業労働力 担い手対策事業	事業に関連する 上位計画	定住自立圏構想
	業	日向市	K	
3.   1601   3.	湯	農林水産部 林業水産課	<b>黎</b>	
(	【事業内容、目的】 体業労働力担い手	対策として、林業徒事者に	対する福利厚生の助成を行う。	
(4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)	[事業期間]	平成28年度~令和4年度	【開解匣桿】	上黎
年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 1 月 1 月	【事業実施経緯】			
中 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 1 月 1 月 1	平成23年度:耳	広域森林組合に助成・・・		(O) (Q)
中域: 11川 中域: 11川 中	华成24年度: 耳, 空中, 空中, 空中,	広城森林組合に助成・・・		(c) (c)
中 (本 (本 ) 1   1   1   1   1   1   1   1   1   1	平成 29 年度:年,亚市 36 年 4 年	二公製業体組合门別以下: 二字其本材的合了用点:		9, 6
年度: 耳川 年度: 耳川 手度: 耳川 手度: 耳川 手度: 耳川 手度: 耳川 手度: 耳川 手度: 東州 手度: 東州 手度: 東州 手度: 東州 手度: 東州 手度: 東州 手度: 東州 大る	平成27年度: 耳)			6 6
年度:耳川 年度:耳川 千度:耳川 千度:耳川 千度:耳川 千度:耳川 千度:耳川 千度:耳川 千度:耳川 千度:耳川 千度:千葉	平成28年度:耳	広城森林組合に助成・・・		(0)
年度: 耳川	平成29年度:耳)	広城森林組合に助成・・・		(0)
科技 : 耳川 :	平成 30 年度: 耳)	広城森林組合に助成・・・	評価	(0)
11   11   11   11   11   11   11   1		11広域森林組合に助成・・・	評価	(0
F度 : 耳川	**	11広域森林組合に助成・・・		(0)
FL度: 耳川 FL度: 林業 市場 ・	**	広域森林組合に助成・・・		(0
ド度: 林業 開接的に 4 株	43	広域森林組合に助成・・・	計画	(0)
事務的に無難と		業労働力担い手対策事業終了		
する。		〈山地領域〉 (1)前壊地からの上砂流出 (4)生物生息環境の変化。 (7)抹水緩和機能の低下,	, (2)上石流等の上砂災害の発 (5)産業基盤の流出, (6)渇水緩 (8)砂防施設容量減少	生, (3)自然景観の消失 和機能の低下,
V V V	直接的、間接的に 関連する	〈岁五個獎〉 (9)許水圖末端部許水安全 (19)許水圖末端部指水安全	度低下。(10)利水谷量的減少,(13)和水溶量的減少,	(11)成水口の埋突,
(24)氾酷発生時の被害拡大 <河口・海岸領域> (30)納和の維行(楊獎上)の支隆 (31)維岸環境悪化	問題·課題	<蜀夢押定>		
< 可口・海岸領域> (30)総和の船行(44数上)の支騰 (31)海岸環境悪化。		(24)氾濫発生時の被害拡大	12	
Contraction of the contraction o		<河口・海岸領域> (30)船舶の航行(操業上)の	友障, (31)海岸環境悪化,	

# (令和5年5月31日更新)

(令和5年5月23日更新)

			上位計画	第5次推槳村長総合計画
事業主体	(推葉村) 諸塚村、美郷町、日向市	老	森林整備事業	
担当部局	農林振興課	<b>(</b>		
事業内容、目的   本家万森林づくりを推進する といい 大家万森林づくりを推進する とお続口能企森林資源を 全国の これ といい ままり こうしょ しょうしょう しょう といい ままり といい ままり こうしょう しょう といい ままり こうしょう しょう といい ままり こうしょう しょう といい さいしょう しょう といっと しょう といい といい さんしょう しょう といっと しょう といっと しょう といっと しょう といっと しょう といっと しょう といい はんしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	を推進するため、再造、本 林覧版を有効に利活用でき かなっ	kを行う場 らる循環型	場合に対し助成	「事業内容、目的】 林家が森林づくりを推進するため、再造・林を行う場合に対し助成を行う。 環境貢献の高い森林づくりと持続可能な森林資源を有効に利活用できる循環型の森林経営を推進するため造林、下刈り及び 発用化いセニュース 助みなら
※伐槟跡地への再造に努める。	林を行い、木材生産機能系	***	(循環型の林業	※伐採跡地への再造林を行い、 木材生産機能森林として循環型の林業経営を目指すと浜に国土の保全に努める。
[事業期間]			【計画期間】	間】維統
[事業実施経緯] 平成 23 年度:再造林面積	告林面積 120.00ha・・・	:	:	(〇) 単端・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
平成 24 年度: 再造林面積		:		
平成 25 年度: 再造林而積	告林面積 110.90ha・・・			(〇) 则渥·····
平成26年度:再3	: 再造林面積 86.50ha・・・	•		(〇) 単版・・・・・・・
平成 27 年度: 再3	: 再造林面積 104.03ha・・・	•	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	(〇)
平成28年度:再造林面積	皆林而積 112.82ha・・・	•	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	(O) 则道······
平成 29 年度: 再造林面積	告林面積 97.86ha・・・			(〇) 野濃・・・・・・
平成30年度:再造林面積	告林面積 116.47ha・・・	•	• • • • • • •	(O)
令和元年度 : 再道	: 再造林面積 94.63ha・・・	•		(○) 頻減・・・・・・・・・・・・
合和2年度:再近	再造林面積 99.67ha···			(〇) 単本・・・・・・・
令和3年度:再道	: 再造林面積 84.70ha・・・			(〇) 與點·····
令和4年度;再道	再造林面情 77.42ha···			(○) 題哉・・・・・・・
	<日単領域> (1)崩壊地からの主砂流出,(2)土石流等の土砂災害の発生,(3)自然景(4)生物生息環境の変化。(5)産業基盤の流出,(6)渇水線和機能の低下 (7)渋水緩和機能の低下,(8)砂切施設容量減少	H, (2)土 (5)産業 (8)砂防力	, (2)土石流等の土砂災 (5)産業基盤の流出, (6 (8)砂防施設容量減少	(1)地領域> (1)崩壊地からの土砂荒田,(2)土石流等の土砂災害の発生。(3)自然長観の消光。 (4)生物生息漿漿の変化。(5)産業基際の流出。(6)渇水緑和機能の低下。 (7)誂水緑和機能の低下。(8)砂防施設容量減少。
直接的、間接的に	<ダム製稿>	Similar II	TIME IS WELL	The second secon
関連する問題・課題	(3)對水衛大衛衛指水交叉與以下,(10)和水体制の約(13)對水流設備の機能停塞, (13)對水設備の機能停納	(13)利	110年本本 大設備の機能属	(8)所水尚米福港市水安平及收下,(10)和水泽市の資金,(10)次十四年。 (13)放消設備の機能締制,(13)和水設備の機能締制。 (河道鶴藏>
	(24)氾濫発生時の被害拡大	×		
	〈河口・海岸領域〉 (300歌曲の前行(福業上)のも隣 (31)海岸衛培恵小	り支膳。	31)海岸環境思	7.

	世後中学	上位計画		化比目工圖傳送
事業主体	椎葉村、諸塚村) 美郷 町、日向市	Z .		
担当部局	産業課	鉄		
[事業内容、目的]				
林家が森林づくりを推進 りと特続可能な森林資源を 間後における助成を行う。	林家が森林づくりを推進するため、再道林を行う場合に対し助成を行う。環境貢献の高い森林づくりと特続可能な森林資源を有効に利圧用できる循環型の森林経営を推進するため造林、下刈り及び除買後における助成を行う。	・行う場合に対 循環型の森材	し助成を行う。環境 経営を推進するため	貢献の高い森林づく  造林、下刈り及び除
事業期間	平成22年度~令和4年度	-iax	[計画期間]	継続
[事業実施経緯]				
平成23年度:実績	鎮			
森林保全造林(造林等施業者)		: 15,190,300 円	評価(○)	
椎茸原木林保全	策(造林等施業者);	1,010,500 円		
平成24年度: 実績				
森林保全造林 (造林等施業者)		: 17,032,400 円	評価(○)	
椎茸原木林保全	椎茸原木林保全対策 (造林等施業者):	718,000円	評価 (〇)	
平成25年度:実績	鎖			
森林保全造林 (造林等施業者)		: 17,659,800 円	評価(〇)	
椎茸原木林保全	椎茸原木林保全対策(造林等施業者):	604,000 円	評価(〇)	
平成26年度:実績	旗			
森林保全造林 (造林等施業者)		: 17,857,600 円	評価(〇)	
椎茸原木林保全対策	:対策 (造林等施業者):	519,000円	禁値(〇)	
<b>华成27年度:</b> 実績	镇			
森林保全造林 (造林等施業者)		: 21,564,600 円	禁価(○)	
椎茸原木林保全	椎茸原木林保全対策 (造林等施業者):	501,500 円	評価(〇)	
平成28年度:実績	微			
森林保全造林 (造林等施業者)		: 18,568,500 円	評価 (○)	
椎茸原木林保全	椎茸原木林保全対策 (造林等施業者):	430,500 円	評価(〇)	
平成29年度: 実績	3種			
森林保全造林 (造林等施業者)	林等施業者):	21,611,550 円	(〇) 基準	
椎茸原木林保全	椎茸原木林保全対策 (造林等施業者):	265,000 円	評価(〇)	
平成30年度:実績				
森林保全造林 (造林等施業者)		: 15,164,500 円	評価(○)	
	the second of the second of the second of the second of	III wood - oo	1	

	ſ	ī	
	ı		
-			
T.	ı		
+			
4	ı		
4	1		
(F	۱		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı		
	ı	1	
	I	6.	
		彩	
		恒	
	1	1111	
	ı	1	
	ı	11	
		17 11	
		用力	
	١	100	
	ı	4	
		1	
	L		

定住自立圖構想

事業に関連する 上位計画

造林事業

K

無

并

美郷町森林整備補助事業

内 涂

椎葉村、諸塚村、美郷 町、日向市

\*

#

継

農林振興課

E

100 A

訓

型

【事業內容、目的】

町は、森林資源を造成し、国土の保全、水資源のかん養、自然環境の保全、松林害虫切除と労働力の 確保、森林造成推進を図るため森林整備を行う森林所有者に対し、予算の範囲内において植林、下刈、

除間伐、防護柵設置等に補助するものとする。

森林保全造林(造林等施業者) 維普層木林堡全對醫(清林等制			STO ALL	
維苦原大林堡全		: 19,050,000 円	111111111111111111111111111111111111111	評価(〇)
Tald Id all all all all all all all all all al	椎茸原木林保全対策(造林等施業者): 600,000 円	日 000,000 日	評価(〇)	(0)
令和2年度:実績				
森林保全造林 (造林等施業者)	(造林等施業者)	: 14,682,500 円	評価 (〇)	(0)
椎茸原木林保全	椎茸原木林保全対策 (造林等施業者):	: 23,500 円	計	(▽)
令和3年度:実績				
森林保全造林	森林保全造林 (造林等施業者)	: 14,529,000 円	評価	(0)
椎茸原木林保全	椎茸原木林保全対策 (造林等施業者):	: 924,000 円	評価	(0)
令和4年度:実織				
森林保全造林 (造林等施業者)	(造林等施業者)	: 13,914,500 円	計価	(0)
椎茸原木林保全	惟茸原木林保全対策(造林等施業者):	: 594,000 円	評価 (△)	$(\nabla)$
	<ul><li>(1)崩壊地&gt;</li><li>(1)崩壊地からの土砂流出,(2)土石流等の土砂(4)生物生息環境の変化,(5)産業基盤の流出,(7)洗水緩和機能の低下,(8)砂防施設容量減少</li></ul>	v流出, (2)上右流等 2代, (5)准業基盤の 5下, (8)砂防施設等	等の上砂 5流出, 容量減少	<ul><li>(日地館域&gt;</li><li>(1)前壊地&gt;</li><li>(1)前壊地からの土砂流出,(2)土石流等の土砂災害の発生,(3)自然景観の消失,(4)生物生息環境の変化,(5)産業基盤の流出,(6)掲水緩和機能の低下,(7)沈水緩和機能の低下,(8)砂防施設容量減少</li></ul>
直接的, 間接的に	< ダム領域>			
関連する問題・課題	(9)町水池末端第冷水安全度低下, (10)利水容量の減(12)放流設備の機能障害, (13)利水設備の機能障害、/ 声光電影・	(安全度低下, (10) 隋書, (13)和水設(	和水溶調の機能	(9)時水池末端部冷水安全度低下, (10)利水容量の減少, (11)版水口が引設, (12)放流設備の機能障害, (13)利水設備の機能障害, 河洋密解さ
	(24)氾濫発生時の被害拡大	害拡大		
	<河口・海岸領域>			
	(30)船舶の航行(操業上)の支障, (31)海岸環境悪化,	[上] 切支障, (31) 消	洋環境	恶化,

【事業期間】	平成22年度~合和4年度	度一合和	14年度	計畫】	計画期間	継続
[事業実施経緯]						
平成23年度:新植、除間伐	植、除間伐	269ha	269ha (実績) · · · · · · 計価	· · · 評価	(0)	
平成24年度:新植、	植、除間伐	376.1hg	376.1ha (実績)・・・・・	. 評価	(0)	
平成25年度:新植、	植、除間伐	469ha (実績)	(実績)・・・	評価	0	
平成26年度:新植、	植、除間伐	352ha (実績)	(実績)・・・	• • • 評価	(0)	
平成 27 年度:新植、	植、間伐	295ha	295ha (実績)・・・・・	評価	0	
平成28年度:新植、	植、間伐	446ha	446ha (実績)・・・・・	••• 評価	0	
平成29年度:新植、	植、除間伐	399ha,	防護棚 96,048m		(実績)・・・・・	評価(〇)
平成30年度:新植、除間伐	植、除間伐	425ha,	425ha、防護柵 132,000m	00m (実績)		(〇) 聖禮
令和元年度 : 新植、除間伐 364ha、	重、除間伐	364ha,	防護柵 85,000m	)m (実績)・・		評価(〇)
令和2年度:除I	間伐 12	7.34 ha	: 除間伐 127.34 ha 防護柵 9,532 m	1 (実績)・・	(	評価(〇)
合和3年度:新	: 新植、除間伐 314ha、	314ha,	<b>防護柵 67,013m</b>	3m (実績)・		評価(○)
令和4年度:新	: 新植、除間伐 345ha、	345ha,	防護柵 84,957m	7m (見込)		評価(〇)
	<ul><li>(1)崩壊地からの土砂流出(4)生物生息環境の変化,</li><li>(7)洪水緩和機能の低下,</li></ul>	からの上の職権の下極続の下極続の	<ul><li>(口地領域&gt;</li><li>(1)財験地からの上砂流出,(2)上石流等の上砂災害の発生,(3)自然景後(4)生物生息環境の変化,(5)産業基盤の流出,(6)海水総和機能の低下,(7)洪水線和機能の低下,(8)砂防施設容長減少</li></ul>	, (2)上石流等の上砂 (5)産業基盤の流出, (8)砂防施設容量減少	砂災害の発生, (6)掲水緩和 少	<ul><li>(山地領域&gt;</li><li>(1)財験地からの上砂流出,(2)上石流等の上砂災害の発生,(3)自然景観の消失,(4)生物生息環境の変化,(5)産業基盤の流出,(6)掲水穀和機能の低下。(7)洗水緩和機能の低下。(8)砂功施設容量減少</li></ul>
直接的、間接的に	<サム面域>	^				ļ
関連する問題・歌題	(9)原水道水 (12)放流設備 < 河道領域>	発音響の響う人	(9)芹木尚未羅出治水安治原県下,(10)別水浴輪の霧(15)阪店設備の鐵船原知,(13)街水線備の鐵船帰知。     「四道電源)	(10)利水等 水製舗の磁	音を減少。(1)能能等等。	(9)群水淘米溢部治水災全度原下,(10)到水浴響の減少,(11)限水口の型铝。 (12)政活設備の鐵港薩拐,(13)配水製備の鐵指譯岩, (西道院域>
	(34)氾濫発生時の被害拡大	生時の	英害忙人			
	<ul><li>(30) 船船の航行(数(39) 衛祭(福業)の</li></ul>	年度後/教育の第代(権	<ul><li>(80)協組の航行(機業上)の支障, (31)海岸環境悪化。</li><li>(30)治療(編巻)の主管 (33)治療及上院の対策が上げた</li></ul>	(31)海岸縣	商馬化,	

(令和5年6月26日更新)

事 業 名斯 業 主 株	造林事業	本業に関油する	発展を立ちの
#		上位計画	
	目向市	K	
担当部局	農林水産部林業水産課	松	
[事業内容、目的]			
林泳が森林の入り	林家が森林づくりを推進するため、再造林を行う場合に対し助成を行う。螺鎖貢献の高い森林づく - 古希に強さ来来を終せました。皇は日よると発育国で来井の道とは第二ともはます。 いっと ロッero	行う場合に対し助店等種の大学	
りと行続り能な緑体貞原3間伐における助成を行う。	りて行為して余巻の前の名ののでは、これののではいるのでは、これが、これが、これでは、これのできるのでは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	個珠型の液体粒因を	(推進するため道体、下がり及び係
【事業期間】	平成22年度~令和4年度		【計画期間】
[事業実施経緯]			
平成23年度:再	平成23年度:再造林面積(22.9ha)	9 ha)に対して助成。	
茶		~助成。・・・・	(○) 脚櫃 (○)
平成24年度:再	平成 24 年度:再造林面積(10.69ha)	69ha)に対して助成。	
茶	森林づくり活動団体 (4団体)	~則成。	(○) 馬瘧・・・・・
平成25年度:再	: 再造林面積 (4.64ha) に対して助成。	こ対して助成。	
<b>秦</b> 1	森林づくり活動団体(3団体)〜助成。・・	~助成。・・・・	(○) 動種・・・・
平成26年度:再	平成26年度:再造林面積(6.69ha)に対して助成。	こ対して助成。	
秦	森林づくり活動団体(1団体)〜助成。・・	~助成。・・・・	(〇) 學雄・・・・・
平成27年度:再	平成27年度: 再造林面積 (39.87 ha)	に対して助成	
茶	森林づくり活動団体(2団体)	〜助成・・・・	(○) 與雄・・・・・
平成 28 年度: 再造林面積	造林而積 (34.91ha)	に対して助成・・	(〇) 脚岬・・・・・
平成29年度:再造林而積	造林而積 (21.81ha)	に対して助成・・	(〇) 助雄・・・・
平成30年度:再造林面積	造林面積 (12.57ha)	に対して助成・・	(○) 期虚・・・・・
令和元年度 : 再〕	: 再造林面積 (17.81ha)	に対して助成・・	(〇) 静雄・・・・
令和2年度:再3	: 再造林面積 (37.93ha)	に対して助成・・	(〇) 海浦・・・・
令和3年度:再	: 再造林面積 (19.84ha)	に対して助成・・	・評価(〇)
令和4年度:再	: 再造林面積 (24.98ha)	に対して助成・	(〇) 與雄・・・・・・
直接的、開接的に 関連する 問題・課題	<ul> <li>(1)的壁地からの土砂流出。(2)土石流等の土砂災害の発生。(3)自然民(4)生物生息環境の変化。(5)産業基盤の近出。(6)海水緩和機能の低下。(7)法水緩和機能の低下。(8)砂財施設容量減少。</li> <li>(2)放流設備の機能衛生。(13)利水設備の機能解析。(11)取水口の(12)放流設備の機能解析。(13)利水設備の機能解析。</li> <li>(24)危機を生時の機害拡大</li> <li>(24)危機を生時の機害拡大</li> <li>(27)正確認識し、(27)に対象がある。(27)に対象を表現である。(27)に対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対</li></ul>	(2)土石流等の土砂災害 (5)産業基盤の流出,(6)海 (8)砂防施設容量減少 2度底下,(10)利水容量の (13)利水設備の機能解告 た	(山地領域) (1) 南東地小島の土砂流出, (2)土石流等の土砂災害の発生, (3)自然最優の消失, (4)生物生息環境の変化, (5)産業基盤の流出, (6)渇水緩和機能の低下, (7)退水緩和機能の低下, (8)砂防施設容量減少 メム鐵城> (2)股水池末端高治水炎全度低下, (10)利水容量の減少, (11)取水口の程度, (12)放流設備の機能隔害, (13)利水設備の機能降差, (7)12艦達生時の複書拡大 (24)12艦達生時の複書拡大 (20)12高速を出り、海岸領域。 (20)12高速を出り、海岸流域。 (20)12高速を出り、海岸流域。 (20)12高速を出り、海岸流域。 (20)12高速を出り、海岸流域。

(令和4年11月30日更新)

(本) 国 国的)	事業 (開設・拡張)		事業に関連する	The second second	
条		DK)	上位計画	第6次国有林	第6 次国有林野施業実施計画
周 1691	九州森林管理局	同			
	宮崎北部森林管理署業務グループ	字			
● 事業日祝					
●事業目的 森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、各機能の充実と機能間の調整を 図り、適正な森林施業の実施や森林の保全の確保により健全な森林資源の維持造成を推進する。	J機能を総合的A その実施や森林の	nつ高度に発 0保全の確保	揮させるため、 により健全な森	各機能の充実と機能間の調整を :林資源の維持造成を推進する。	機能間の調整を 成を推進する。
●井米内谷 林道の開設は民有林林道との調整を図り、森林整備及び保全の目標の実現のため、森林施業の 効率的な実施に必要なものについて国土の保全、自然環境の保全等の公益的機能に配慮し、計画 的に整備する。林道の拡張は、利用状況及び今後の森林施業の展開等に応じて、簡易舗装、一般 改良等を適切に実施する。	<ul><li>(林道との調整を さものについて ) 拡張は、利用 も</li></ul>	E図り、森林 引土の保全、 代況及び今後	整備及び保全の 自然環境の保全 の森林施業の展	目標の実現のたど 等の公益的機能 開等に応じて、	め、森林施業の に配慮し、計画 简易舗装、一般
[事業期間] 平成2	平成23年度~今和4年度	年度	【計画期間】		業績
[事業実施経緯]	ķ				
平成23年度: 林業専用道	直 新設 34	0 m···		・・・・・評価	(O)
平成24年度:林業専用道	首 新設 7,	8 9 2 m·		即補・・・・・	[ (O)
平成25年度:林業専用道	首 新設 2,	880m·	******	・・・・・神価	(O)
平成 26 年度: 林業専用道	道 新設 40	0 m···		・・・・評価	(O) <u>H</u>
平成 27 年度;林業専用道	首 新設 70	0 m · · ·		明雄・・・・	(O) J
平成28年度: 林業専用道	首 新設 18	0 m···		•••••	(O) H
平成 29 年度: 林業専用道	首 新設 1,	200m.		単述・・・・	(0) 4
平成30年度:林道専用道	首 新設 1,	440m.		評価	(O) I
令和元年度 : 林業専用道	新設 99	0 m····		明温・・・・・	i (O)
合和2年度: 林業専用道	新設	700m···		単述・・・・・	(0)
令和3年度: 林業専用道	新設 26	3 m · · ·		単端・・・・・	(0)
令和4年度:実績無し・・・・				単端・・・・・	(△) ii
(T) (A) (A) (A) (A)	<ul><li>(1) 部域域&gt;</li><li>(1) 部域地からの上砂流出。(2) 上石流等の上砂(1) 部域地からの上砂流出。(4) 生物化島環境の変化。(5) 産業基盤の流出。(7) 洪水緩和機能の低下。(8) 砂切施設容量減少</li></ul>	沙流出, (2)土 於化, (5)產業 於下, (8)砂烷	(山地領域> (山)協壊地からの十砂流出,(2)上石流等の土砂災害の発生, (4)生物年息環境の変化,(5)産業基盤の流出,(6)温水緩和 (7)洪水緩和機能の低下,(8)砂防施設容量減少		(3)自然景観の消失、 8能の低下,
直接的、間接的に「<ケ」	<ゲム領域>				
V	(9)時水池末端部弁7 (12)液流設備の機能 < 河道額據>	(安全度低下 障害, (13)和	(9)時水池未端部冷水安全度低下,(10)利水容量の減(12)放高設備の機能障害,(13)利水設備の機能障害。 近省資本	(9)時水池未端部冷水安全底匝下, (10)利水容量の減少, (11)収水日の到限。 (12)放流設備の機能障害, (13)利水設備の核能障害, - 河路網域>	自の理解。
(54)	(24) 心驚発生時の被害拡大	害拡大			
「夏〉	く河口・海帯艦数>				
(30)	(30)船舶の航行(操業上)の支障,	ミ上)の支障,	(30)船舶の航行(操業上)の支障, (31)海岸環境悪化,	Ĭŗ.	

(令和4年11月25日更新)

(道整備交付金事業) 上位計画 上位計画				l		
(4) 生物 (4) (4) (4) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5	継	田 (道整備	設事業 交付金事業)	#	終に関連する 上位計画	未来みやざき創造プラン
葉境森林部 森林経営課	業出	April 1	自崎県	Z	・分野(産業づくサール・	.0)
(森林基時道開設)、森林管理道開設事業 (森林基時道開設)、森林管理道開設事業 全 県 36.5m/ha (H22:36.2m/ha) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	非	環境森林語		⇔	<ul><li>・施業の各米(C</li></ul>	-2-(2))
事業別別	[事業内容、目的]	- D 7 ···	2. A. T. W. W. W. F. F. F. S.	大 七 七 七	の表別、中へと思えて、記	2十部分
株内路網密度 耳川流域 42.7m/ha (H22:42.4m/ha) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	- 田石 地域 久 血。 林道開設事等	等(森林基幹	ンに入り過ぎまず道開設)、森林	等理道	開いむ交合作型制 開設事業	対面)の。
本内路網密度 耳川流域 42.7m/ha (H22:42.4m/ha) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	[事業期間]					
年川流域 42.7m/ha (H22:42.4m/ha) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	f 業実施経緯】					
全 県 36.5m/ha (H22:36.2m/ha) 耳川流域 43.8m/ha 全 県 36.8m/ha ・・・ 耳川流域 44.2m/ha 全 県 37.7m/ha ・・・ 耳川流域 44.4m/ha 全 県 37.7m/ha ・・・ 耳川流域 44.6m/ha 全 県 37.7m/ha ・・・ 耳川流域 44.6m/ha 全 県 38.4m/ha ・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.4m/ha ・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.7m/ha ・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.7m/ha ・・・ 耳川流域 45.8m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・ は川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・ は日曜時で (3) 中後龍原域少 (11 政権の機能・監察 (3) 神水産権の機能が高。 (11 政権の機能・監察 (3) 神水産権の機能が高。 (11 政権の機能・監察 (31) 神・監・ (31 神・医・ (31 神・医・医・ (31 神・医・ (31 神・医・ (31 神・医・ (31 神・医・医・ (31 神・医・ (31 神・医・ (31 神・	F成23年度: 林	内路網密度	耳川流域 42.7n	ı/ha (F	122:42.4m/ha)	
耳川流域 43.2m/ha 全 県 36.8m/ha・・・・ 耳川流域 43.8m/ha 全 県 37.3m/ha・・・・ 耳川流域 44.2m/ha 全 県 37.5m/ha・・・・ 耳川流域 44.6m/ha 全 県 38.1m/ha・・・・ 耳川流域 44.8m/ha 全 県 38.1m/ha・・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.5m/ha・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.5m/ha・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.5m/ha・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.5m/ha・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha・・・・ は川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha・・・・ は川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha・・・・ は一場東京の変化。(5) 産業基盤の流出。(6) 水資源語 36.5m/ha・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				/ha (H	(22:36.2m/ha)	
耳川流域 43.8m/ha 全 県 37.3m/ha ・・・・ 耳川流域 44.2m/ha 全 県 37.7m/ha ・・・・ 耳川流域 44.4m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・・ 耳川流域 44.8m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・・ 耳川流域 44.8m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.7m/ha ・・・・ 耳川流域 45.8m/ha 全 県 38.9m/ha ・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.9m/ha ・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.9m/ha ・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.9m/ha ・・・・ 正規策 45.6m/ha 全 県 38.9m/ha ・・・・・・・ 東場 66.00 大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	序成24年度: 林	内路網密度	耳川流域 43.2n	ı/ha	全 県 36.8m/ha	・・・評価
耳川流域 44.2m/ha 全 県 37.7m/ha ・・・・ 耳川流域 44.4m/ha 全 県 37.9m/ha ・・・・ 耳川流域 44.6m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.4m/ha ・・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.9m/ha ・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・・ 東州市治水安全度低下, (5) 産業基盤の流出, (6) 水管源源海 26~ 東半県市治水安全度低下, (10)利水冷量の減少。(11 東備の機能等等, (13)利水設備の機能解离。 第2000 機能解离。 第2000 機能解析。(13)利水設備の機能解离。 第2000 機能解析。(13)利水管機能解离。 第41時の減計が、(13)利水管機能解析。 第41時 20.0分階。(31) 排售機能無化。	2成25年度: 林	以内路網密度	耳川流域 43.8n	ı/ha	全 県 37.3m/ha	- 評価
耳川流域 44.4m/ha 全 県 37.9m/ha ・・・・ 耳川流域 44.6m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.4m/ha ・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.7m/ha ・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.7m/ha ・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.7m/ha ・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.9m/ha ・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・・ は川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・・ 正規策第の変化。(5) 産業基盤の流出。(6) 水資源海湾域を今との主砂流出。(5) 産業基盤の流出。(6) 水資源海湾域を今との後下。(3) 利水設備の機能調素。 第4年時の数字が入。 第4年時の数字が入。 第4年時の数字が入。 第4時 成成 と)のも贈。(31) 指 長電台無水。	7成26年度: 林	以内路網密度	耳川流域 44.2n	ı/ha	全 県 37.7m/ha	・・・評価
耳川流域 44.6m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・・ 耳川流域 44.8m/ha 全 県 38.4m/ha ・・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・・ 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.7m/ha ・・・・ 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.7m/ha ・・・・ 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・・ 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・・ はいらの土砂流出,(9)土石流等の土砂災害の発生。 なうとは最適の変化。(5)産業基盤の流出,(6)水資源語 数据の低下,(8)砂坊施設容量減少 を受傷の検売障害,(13)利水産量の減出。(6)水資源語 数本の検売機器。 なるとは、(13)利水産量の減少。(11)を単純の減少。(11)を単純の域とからの場合に、(3)利水産産費組の機能の高。 なる場合に、(40)も増、(31)が、20.4年の場合に、(41)利水が高度が高。	元成27年度: 林	内路網密度	耳川流域 44.4m	ı/ha		• · · 評価
耳川流域 44.8m/ha 全 県 38.4m/ha・・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.6m/ha・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.5m/ha・・・・ 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.9m/ha・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.9m/ha・・・・ は川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha・・・・ は川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha・・・・ ないらいたいには、(3) 砂防温設容量減少(5) 水陰海流 を能の低下、(3) 砂防温設容量減少(11) 実備の機能関率。 を程序の数字に、(13) 利水設備の機能関率。 を発展域 > 20.3 利水設備の機能関率。 なが行 極速 トのも層。(31) 淋 結構性 性 とのも は 20.3 対 は 20.3 対 20	元成28年度: 林	內路網密度	耳川流域 44.6m	y/ha	全 県 38.1m/ha	••• 評価
耳川流域 45.1m/ha 全 県 88.6m/ha・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.7m/ha・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.7m/ha・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.9m/ha・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha・・・・ は一島環境の変化。(5) 産業基盤の流出。(6) 水管源源消数性の低下。(8) 砂防施設容量減少 を単原の低下。(8) 砂防施設容量減少。(11 支備の機能障害。(13) 利水設備の機能障害。 第26年時の被害性入	z成 29 年度: 材	内路網密度	耳川流域 44.8n	ı/ha	全 県 38.4m/ha	評価
体内路網密度 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.7m/ha・・・・ 林内路網密度 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.9m/ha・・・・ 春内路網密度 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.9m/ha・・・・ 事業実施中  <山地飯域>  (1) 崩壊地からの土砂流出,(2) 土石流等の土砂災害の発生, 朱. (3) 生物性息環境の変化,(5) 産業基盤の流出,(6) 水資源語 (7) 保水機能の低下,(8) 砂防施設容量減少  < 夕ム領域> (9) 町水電井端店潜水安全度低下,(10) 利水溶量の減少(11) (12) 放流設備の機能停害,(13) 利水設備の機能廣塞, (12) 放流設備の機能停害,(13) 利水設備の機能廣塞, (12) 放流設備の機能停害,(13) 利水設備の機能廣塞, (21) 起電発生時の機管拡大。 (21) 直衛発生時の機能機能。 (23) 配高発生時の機能機能。 (24) 直衛発生時の機能機能。 (24) 直衛発生時の機能機能。 (25) 心傷密性の機能機能。 (26) 心傷密性の機能機能。 (27) 心傷密性の機能機能。	z成 30 年度: 材	s内路網密度	耳川流域 45.1n	ı/ha		・ 評価
林内路網密度 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.9m/ha・・・・ 事業実施中 事業実施中 <ul> <li>&lt;川地原域&gt;</li> <li>(1) 前級地からの土砂流出、(2) 土石流等の土砂災害の発生、失、</li> <li>(4) 生物生息環境の変化、(5) 産業基盤の流出、(6) 水資源商(7) 保水機能の低下、(8) 砂防施設容量減少。</li> <li>(2) 財水池主場消治水安全度低下。(10) 削水容量の減少(11) 核元。(12) 核元。(13) 削水設備の機能解棄、</li> <li>(21) 化電発生時の機管時下、(13) 削水設備の機能解棄、</li> <li>(24) 化電発生時の機管は大</li> <li>(24) 化電発生時の数差地大</li> <li>(20) 約40の銀行(協業と)の支援。(31) 推農體格無、</li> <li>(30) 終編の銀行(協業と)の支援。(31) 推農體格無化。</li> </ul>	5和元年度: 林	内路網密度	耳川流域 45.3m	ı/ha		事端.
体内路網密度 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha・・・・・ 事業実施中 <山地飯城> (1) 崩壊地からの土砂流出,(2) 土石流等の土砂災害の発生, 失, (3) 生物生息環境の変化,(5) 産業基盤の流出,(6) 水資源涵 (7) 保水機能の低下,(8) 砂防船設容量減少 <ダム偏減、 (9) 市水恒末端距台水安全度低下,(10) 利水存職の減少。(11 (12) 放流設備の機能障害,(13) 利水設備の機能解毒, (24) 化艦発生時の戦害地入 <河口・海岸領域> (24) 化艦発生時の数害地入 <河口・海岸領域>	5和2年度:材	內路網密度	耳川流域 45.4m	/ha		• 評価
事業実施中 <加地領域> (1) 崩壊地からの土砂流出, (2) 土石流等の土砂災害の発生, 失, (4) 生物生息環境の変化, (5) 産業基盤の流出, (6) 水資源消(7) 保水機能の低下, (8) 砂防船設容量減少。 < ダム偏減。 (9) 貯水池未製店台水安全度低下, (10) 利水存曜の減少。(11) (位流設備の機能障害, (13) 和水設備の機能解毒, (13) 和水設備の機能解毒, < 何直確处。 (24) 把監発生時の戦害地入。< 可一、 布井領域と (33) 和東設備の機能解毒, < 可一、 布井領域と (34) 和東設備の機能解毒, < (34) 和電発生時の数害地入。(34) 和東設備の機能解毒, < (34) 和電発生時の数害地入。(35) 和東設備の機能解毒, < (34) 和電発生時の数害地入。(35) 利本設備の機能解毒, < (34) 和電発生時の数害地入。(35) 利本設備の機能解毒, < (34) 和電発性の数害性の数害性の数害性の数害性の数害性の数害性の数害性の数害性の数害性の数害	5和3年度: 材	内路網密度	耳川流域 45.6n	ı/ha		•••群便
<ul> <li>〈山地飯城〉</li> <li>(1) 崩壊地からの土砂流出,(2) 土石流等の土砂災害の発生,朱.</li> <li>(4) 生物 生息環境の変化,(5) 産業基盤の流出,(6) 水資源部消(7) 保水機能の低下,(8) 砂坊施設容量減少。</li> <li>(7) 保水機能の低下,(8) 砂坊施設容量減少。</li> <li>(12) 放流設備の機能障害,(13) 利水設備の機能障害,(12) 机流流管偏端等。</li> <li>(12) 放流設備の機能障害,(13) 利水設備の機能障害,</li> <li>(12) 放流設備の機能障害,(23) 利水設備の機能障害,</li> <li>(12) 心理管域域、(33) 和水設備の機能障害,</li> <li>(20) 心理管域域、(33) 海岸總督無水、(30) 条件の場合</li> </ul>		※実施中				
(4) 生物生息環境の変化。(5) 年業基盤の流出。(6) 水管源源等 (4) 生物生息環境の変化。(5) 産業基盤の流出。(6) 水管源源等 (7) 保水機能の低下。(8) 砂防施設容量減少 < 夕ム(((を)) 下水電井場部冷水安全度低下。(10) 利水が最の減少。(11) (12) 放流設備の機能障害。(13) 利水設備の機能障害。 < 同じ適度。 < 「「日本経過度」。(13) 利水設備の機能障害。 < 「「日本経過度」。(13) 利水設備の機能障害。(14) 和水設備の機力。(11) (15) 和水設備の機能障害。(13) 和水設備の機能障害。(13) 和、経費の機力。(13) 和、経費の機力。(14) (15) 和、企業を開展。(13) 和、企業を用度。(13) 和、企業を用度。		く 正地領域	日 新	(6)	の物件の数件の十	
, , , , , , , ,		(1) 四级社	Hall Trace. VE	1	1. 中間 すい 上の火	
,		(4) 生物年(5) 61 4 44	追職境の変化、	(5) 維	業基盤の流出,(6)	水資源涵養機能の低下,
		くなる信仰	2 HE VALLE   ' (0) III	を記る相	以中里成少	
<阿西線域> (24) 沿艦発生時の被害拡入 <阿口・梅岸領域> (80) 発売の維育 (48数 F.) のラ脇 (31) 海影響治悪化	継続的に及り組む課題	(9) 時內名也(12) 陸湖河	北端部治水安全J P価の縁帯幅制	年13)年	(10)を大量の場合を関する。	表少。(11) 取水口の埋没。
(24)犯職発生時の被害犯人 <阿口・海岸領域> (8の発情の維育・興業ト)の支藤 (31)海影響治悪化		<阿通館内	<2			
<ul><li>〈阿口・海岸優岐〉</li><li>(31)海県最西馬小(34)海県最西県小(34)海県最高西県小</li></ul>		(24) 汇船系	管生時の被害拡大			
くののがはおけていませんというとしているというないというないというないというないというないというないというないという		<河口・角(30)船舶の	岸領域>  う航行(操業上)の	大職,	(31) 海岸環境悪化	

(令和4年11月25日更新)

平 業 名	改)	改良事業	掛	事業に関連する 上位計画	未来みやざき創造プラン	削造プラン
事業主体	-,0[]	国崎県	内	<ul><li>・分野 (産業づくり)</li><li>・施策の体系 (C-2-(2))</li></ul>	< 9)	
担当部局	環境森林部	3 森林経営課	劵			
【事業内容、目的】 山村地域交通のネ	】 ネットワーク(	化及び適切な森林	<b>木整備</b>	事業内容、目的】 山村地域交通のネットワーク化及び適切な森林整備に必要な林道網を整備する。	整備する。	
【事業期間】						
事業実施経緯						
平成23年度:林内路網密度	木内路網密度	耳川流域 42.7m/ha (H22:42.4m/ha)	/ha (F	(22:42.4m/ha)	(〇) 助越・・・・	0
		全 県 36.5m	/ha (H	県 36.5m/ha (H22:36.2m/ha)		
平成24年度:林内路網密度	木内路網密度	耳川流域 43.2m/ha	/ha	全 県 36.8m/ha	) 単端・・・・	(0)
平成 25 年度: 林内路網密度	k内路網密度	耳川流域 43.8m/ha	ı/ha	全 県 37.3m/ha	) 思想・・・・	(0)
平成 26 年度:林内路網密度	木内路網絡度	耳川流域 44.2m/ha	ı/ha	全 県 37.7m/ha	) 単雄・・・・	(0)
平成 27 年度: 林内路網密度	木内路網密度	耳川流域 44.4m/ha	/ha	全 県 37.9m/ha	)) 助越・・・・	(0)
平成28年度:林内路網密度	木内路網密度	耳川流域 44.6m/ha	/ha	全 県 38.1m/ha	) 男越・・・・	(0)
平成 29 年度:林内路網密度	木内路網密度	耳川流域 44.8m/ha	ı/ha	全 県 38.4m/ha	) 則處・・・・	(0)
平成30年度:林内路網密度	林内路網密度	耳川流域 45.1m/ha	/ha	全 県 38.6m/ha	) 與雄・・・・	(0)
令和 元年度: 林内路網密度	<b>h</b> 内路網密度	耳川流域 45.3m/ha	/ha	全 県 38.7m/ha	) 財祖 (	(0)
合和2年度:林内路網密度	本内路網密度	耳川流域 45.4m/ha	/ha	全 県 38.9m/ha	) 単雄・・・・	(0)
令和3年度:林内路網密度	k内路網密度	耳川流域 45.6m/ha	/ha	全 県 39.0m/ha	() 即起・・・・	(O)
令和4年度:事業実施中	等実施中					
	<山地領域> (1) 前襲地か	(1) 前襲地からの土砂流出,		(2)上石術等の上砂災害の発生, (3)自然景観の消	書の発生, (3) 自然	然景観の消
	大,		4 14	And the second of the second o	AN about the manager of the	+ 51.4
	(7)保水極	<ul><li>(4) 生物生記録場の後に、(5) 追案基盤の高(7) 保水機能の低下、(8) 砂防施設容量減少</li></ul>	(5) 地の	(a) 框業基礎の低口, (b) 水貝原商装機能の以下, 砂防施設容量減少	<b>小</b> 其原商按懷尼	OW P.
二十八月 青安 赤珍	<英国選>	٨				
取り組む課題	(12) 按新記	末端部台水安全B t備の機能障害,	芝低下, (13)系	(8) 菲木園赤端部治水安全優低下。 (10) 耐水発暖の魔少。 (11) 駅水口の埋泥。 (13) 坂端設備の機能履筆。 (13) 阿水設備の機能障害。	减少, (11)取水门	1四堆役,
	<宮道館製>	^				
	(24) 江麓祭	(24) 氾濫発生時の被害拡入				
	<河口・海岸領域> (40) 参加の銀行(国	研御類>	拉	(何日・海岸領域) (40) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	ż	
	(30) 和日月日(	2.4011(数米工)の	X型,	X库, (31) 律序级结形包,	î	

(令和4年11月25日更新)

事業					
業主体         宮崎県         内・治野(産業づくり)           当 南 局 環境森林高 春林経営課         容           (業内容、目的1         (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	継	舗装事業	#	裳に関連する 上位計画	未来みやざき創造プラン
当 部 局	業	宣齡県	€	・分野 (産業づ・ ・施策の体系 (0	$\langle \psi \rangle$ (-2- $\langle 2 \rangle$ )
目的]	新		쑞		
本内路網密度 耳川流域 42.7m/ha (H22:42.4m/ha) を	#業内容、目的」 11村地域交通の	】 ネットワーク化及び適切な森	林整備	に必要な林道網を	整備する。
本内路網密度 耳川流域 42.7m/ha (H22:42.4m/ha) ***  (本	事業期間				
年 県 36.5m/ha (H22:42.4m/ha) を	事業実施経緯】				
全 県 36.5m/ha (H22:36.2m/ha)  耳川流域 43.5m/ha 全 県 36.8m/ha ・・・・ 耳川流域 44.2m/ha 全 県 37.3m/ha ・・・・ 耳川流域 44.5m/ha 全 県 37.5m/ha ・・・・ 耳川流域 44.8m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・ 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・ 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・ 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・・ 正息環境の変化、(5)産業基盤の流出、(6)水資源消 8能の低下、(8)破防施設容量減少 水学端が冷水安全度低下、(10)利水容量の池川、(6)水資源消 8能の低下、(8)破防施設容量減少。 水学端が冷水安全度低下、(10)利水容量の減少。(11) 水学端が冷水安全度低下、(13)利水砂幅の機能回達。	平成23年度:本		m/ha (F	122:42.4m/ha)	4
耳川流域 43.2m/ha 全 県 36.8m/ha ・・・・ 耳川流域 43.8m/ha 全 県 37.3m/ha ・・・・ 耳川流域 44.8m/ha 全 県 37.3m/ha ・・・ 耳川流域 44.8m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・ 耳川流域 44.8m/ha 全 県 38.4m/ha ・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・・ 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・ 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・・ は川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・・ は一場 20.0元 上砂流出 (3) 主有流等の上砂災害の産生、 をからの上砂流出 (3) 主有流等の上砂災害の産生、 ないちが高が存在全性低下。(10) 利水容量の流出、(6) 水資源 38.8m/ha ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			n/ha (H	[22:36.2m/ha)	
耳川流域 43.8m/ha 全 県 37.3m/ha ・・・・ 耳川流域 44.2m/ha 全 県 37.7m/ha ・・・・ 耳川流域 44.6m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・ エ川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・ エルジの上砂流出、(2)上石流等の上砂災害の発生、(3)産業基盤の流出、(6)水資源海 8歳の低下、(8)砂防施設容量減少。 とは端流音水安全度低下、(10)利水容量の減少。 とは端に下、(13)利水配価の機能開業。(13)利水配価の機能開業。(13)利水配価の機能開業。	平成24年度:本		m/ha	全 県 36.8m/ha	••••蔣仁(〇)
耳川流域 44.2m/ha 全 県 37.7m/ha ・・・・ 耳川流域 44.5m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・・ 耳川流域 44.6m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・・ は川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・・ 上息炭焼の変化。(5)産業基盤の流出。(6)水資流路 200元で下。(8)砂防施設容量減少を、。 は本端治治水安全度低下。(10)利水容量の減少。(11)発売の後継の機能解素・(13)利水配価の機能解素・(13)利水配価の機能解素・(13)利水配価の機能解素・(13)利水配価の機能解素・(13)利水配価の機能解素・(13)	平成25年度:本		m/ha	全 県 37.3m/ha	(〇)
耳川流域 44.4m/ha 全 県 37.9m/ha ・・・・ 耳川流域 44.6m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・・ 耳川流域 44.8m/ha 全 県 38.4m/ha ・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・ 尾環境の変化、(5)産業基盤の流出、(6)水資源消 数能の低下、(8)破防施設容量減少水準に設備の低下、(8)破防施設容量減少水準に移動の変化、(10)利水容量が少水準に設備の機能解素、(13)利水酸酶の機能解素、(13)利水酸酶の機能解素、(13)利水酸酶の機能解素、(13)利水酸酶の機能解素、(14)	平成26年度:本		m/ha		••••郭循(〇)
耳川流域 44.6m/ha 全 県 38.1m/ha ・・・・ 耳川流域 44.8m/ha 全 県 38.4m/ha ・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.5m/ha ・・・ 耳川流域 45.5m/ha 全 県 38.7m/ha ・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha ・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・ 国川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・ は端 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・ は 45.6m/ha と 4	平成 27 年度:本		m/ha		(〇) 歩雄・・・
耳川流域 44.8m/ha 全 県 38.4m/ha ・・・・ 耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.6m/ha・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.7m/ha・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha・・・・ 起からの土砂流田, (2)土石流等の土砂災害の発生、 と2.5歳 20 土砂流田, (3) 産業基盤の流出, (6) 水資源額 整地の低下, (8) 砂防施設容量減少 大端 20 大砂流 (10) 利水容量の減少。(11) 水端 20 後継 20 後間 20 位 20	平成28年度:本		n/ha		(〇) 媽祖 (〇)
耳川流域 45.1m/ha 全 県 38.6m/ha・・・・ 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.7m/ha・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha・・・・ 耳川流域 45.6m/ha 全 県 38.0m/ha・・・・ 東ラー 東ラー 東ラー 東ラー 大温線第の変化、(5) 産業基盤の流出、(6) 水資源 変捷の低下、(8) 砂防施設容量減少 東ラー 大温線消治水安全度低下、(10) 利水容量の減少。(11 数準の機能療養、(13) 利水設備の機能障害。	平成29年度:本		m/ha		(〇) 馬捷・・・・
林内路網密度 耳川流域 45.3m/ha 全 県 38.7m/ha・・・・ 林内路網密度 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.9m/ha・・・・・ 事業実施中 < 山地領域> (1) 前級地からの土砂流出, (2) 土石流等の土砂災害の発生。 失. (4) 生物生息環境の変化。(5) 産業基盤の流出, (6) 水資源網 (7) 保水機能の低下, (8) 砂防施設容量減少 < ダム航域。 < ダム航域。 < (12) 核赤酸能の低下, (8) 砂防施設容量減少。 (12) 核赤酸酸の低下, (13) 利米発費の減少。 (12) 核赤酸性の機能解析。 (13) 利米設備の機能解析。 (13) 核赤酸酯の機能解析。 (13) 利米設備の機能解析。 (13) 核赤酸酯の機能解析。 (13) 利米設備の機能解析。 (14) 利米設備の機能解析。 (14) 利米設備の機能解析。 (15) 核赤溶解の機能解析。 (15) 核赤溶解の機能解析。 (15) 核赤溶解的機能解析。 (15) 核赤溶解的機能解析。 (15) 核赤溶解的機能解析。 (15) 核赤溶解的 (15) 核形成的	平成30年度:本		n/ha		(〇) 與盐····
林内路網密度 耳川流域 45.4m/ha 全 県 38.9m/ha・・・・ 事業実施中 く山地領域> (1) 前域地からの上砂流出,(2) 土石流等の上砂災害の発生、 失,(4) 生物生息環境の変化。(5) 産業基盤の流出,(6) 水資源額 (7) 保水機能の低下,(8) 砂防施設容量減少 <ダム航域> (9) 貯水池未端常治水安全建低下,(10) 削水容量の減少。(11) (12) 核流裂体の機能解析,(13) 利水設備の機能解析。(11) (12) 核流裂体の機能解析,(13) 利水設備の機能解析。(11) (13) 核流裂体の機能解析。(13) 利水設備の機能解析。(11)	合和元年度: 机		n/ha		(〇) 歩徒・・・・
体内路網密度 耳川流域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha・・・・ 事業実施中 <山地領域> (1) 崩壊地からの土砂流出, (2) 土石流等の土砂災害の発生, 長, (4) 生物生息環境の変化。(5) 産業基盤の流出, (6) 水資源約 (7) 保水機能の低下, (8) 砂防施設容量減少 <ダム資域> (9) 貯水池未端常治水安全度低下, (10) 利水容量の減少。(11) (12) 核流裂体の機能解析, (13) 利水設備の機能解析。	合和2年度:本		n/ha		
事業実施中 <加増領域> (1) 崩壊地からの上砂流出, (2) 土石流等の上砂災害の発生, 失, (4) 化物生息環境の変化, (5) 産業基盤の流出, (6) 水資源額 (7) 展水機能の低下, (8) 砂防施設容量減少 < 岁ム節域> (9) 貯水池末端沿治水安全度低下, (10) 利水容量の減少, (11) (12) 核流穀塘の機能解表, (13) 利水設備の機能解素,	合和3年度:本		n/ha		(○) 期便(○)
<ul> <li>(1) 前級地からの土砂流出,(2) 土石流等の土砂災害の発生,失,</li> <li>(4) 生物生息環境の変化。(5) 産業基盤の流出,(6) 水資源額(7) 保水機能の低下,(8) 砂防施設容量減少</li> <li>(4) 生物域や</li> <li>(5) 資業基盤の流出,(10) 水資源額(10) 保水機能の低下,(8) 砂防施設容量減少</li> <li>(6) 野水池末端等冷水安全度低下,(10) 利水容費の減少。(11) 板流設備の機能障害,(13) 利水設備の機能障害,</li> <li>(13) 板流設備の機能障害,(13) 利水設備の機能障害,</li> <li>(13) 極流設備の機能障害,</li> </ul>	<b>育和 4 年度</b> : 事	军業実施中			
		<山地領域> (1) 崩壊地からの土砂流田	(2)	土石流等の土砂災	学の発生, (3)自然景観の消
		失, (4) 生物生息環境の変化. (7) 保本機能の低下, (8)	(5) 准	Ħ	(6) 水資源摘養機能の低下,
(12)农间以第2)农用政治、(10)的企业、政治中心、政治中心、公司、政治等人	継続的に 取り組む課題	〈罗人道版〉 (9) 貯水池未鑑総治水安全 (19) 房本池未鑑総治水安全	英低下	(10)担長徐晴乃三十十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	成少. (11) 欧本口 25则投,
Section of the		(12) 吹加X 量)機器四音。 <河道部域>	Total		
(34) 记着 84年第6版制表人/道口・淮洞鑑賞>		(24) 治療院生命の報心技人 <対コ・希腊鑑賞>	5		
(30)船舶の航行(操業上)の支障, (31)海岸環境悪化,		(30) 整体の音作(海線上)の	のお降		
		70(14) (14) 12 14(0) 14(14) (15)	3411		

(令和4年11月25日更新)

事業名	林道専用	林道専用道整備事業	許	事業に関連する上位計画	未来みやざき創造プラ	創造プラン
事 業 主 体	(m	宮崎県	K	・分野 (産業づくり) ・ 施策の体系 (C-2-(2))	( 9)	
祖当部	環境森林部	森林経営課	蓉			
[事業内容、目的] 外率的办券林幅3		事業内容、目的】 効率的か <i>本</i> 林临業に不可欠た簡易で士士が路細を整備する。	を終め	語する		
が十四 まれた ・ 林楽 専用 道開設 ・ 森林 作楽 道開設	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		9	0 6		
【事業期間】						
[事業実施経緯]						
平成23年度:林内路網密度	<b>k内路網密度</b>	耳川流域 42.7m/ha (H22:42.4m/ha)	/ha (H	(22:42.4m/ha)	9世。	0
		全 県 36.5m	ha (H	県 36.5m/ha (H22:36.2m/ha)		
平成24年度:林内路網密度	k内路網密度	耳川流域 43.2m/ha	/ha	全 県 36.8m/ha	更越•••	0
平成25年度:林内路網密度	木內路網密度	耳川流域 43.8m/ha	/ha	全 県 37.3m/ha	则, 些	(0)
平成26年度:林内路網密度	水内路網密度	耳川流域 44.2m/ha	/ha	全 県 87.7m/ha	9世。	0
平成 27 年度: 林内路網密度	水内路網密度	耳川流域 44.4m/ha	/ha	全 県 37.9m/ha	・・・・評価	(0)
平成 28 年度:林内路網密度	k内路網密度	耳川流域 44.6m/ha	/ha	全 県 38.1m/ha	単端・・・・	(0)
平成 29 年度:林内路網密度	k内路網密度	耳川流域 44.8m/ha	/ha	全 県 38.4m/ha	・・・・評価	(0)
平成30年度:林内路網密度	林内路網密度	耳川流域 45.1m/ha	/ha	全 県 38.6m/ha	・・・・評価	(0)
令和 元年度:林内路網密度	k内路網密度	耳川流域 45.3m/ha	/ha	全 県 38.7m/ha	・・・・評価	(0)
令和2年度:林内路網密度	k内路網密度	耳川流域 45.4m/ha	/ha	全 県 38.9m/ha	即起・・・・	(0)
合和3年度:林内路網密度	的路網密度	耳川流域 45.6m/ha	/ha	全 県 39.0m/ha	・・・評価	(0)
合和 4 年度:事業実施中	f業実施中					
	< 山地領域> (1) 崩壊地か 生	>からの上砂浦出,	(2)	山地領域> (1) 崩壊地からの上砂流出, (2) 上石清等の上砂災害の発生。 も		(3)自然景礁の消
	(4) 年物生(7) 保水機	(4)生物生息環境の変化, (5)産業基盤の流出, (7)保水機能の低下, (8)砂肪施設容量減少	5) 産業	<b>炎基艦の流出,(6)</b> 没容量減少	(6) 水資源滷養機能の低下,	の低下,
継続的に 取り組む課題	<ul><li>7 公衛城</li><li>(9) 貯水池未</li><li>(12) 松浦港</li></ul>	> 長端部済水安全 (偏の機能障害,	(13)种	< 岁么廢城> (9) 貯水池未端部治水安全度低下, (10)利水溶射の減少。(11) 版水口の開稅, (12) 附清數層の機能障害, (13) 利水穀櫃の機能曝光。	减少, (11) 版本	103個後。
	(24) 化酶溶化酶的不适应,循环的一个适应,循膀络化酶的	、河道間吸 ~ (24) 化電発生時の被害拡大 がゴロ・雑巻館誌~				
	(30) 船舶の(32) 海業(	業上の	支障,	支障, (31) 海岸環境患化, (33) 氾濫拳 化 時の 被害並大	.; *	

# (令和4年11月25日更新)

		県単林道事業	+	事業に関連する上位計画	未来みやざき創造プ	き創造プラン
事 業 主 体	柳	宮崎県	图	(産業) (産業)	3< 9) (C-2-(2))	
担当部局	環境森林部	3. 森林経営課	쑞			
<ul><li>事業内容、目的】</li><li>林道・作業道等の</li></ul>	開設・改良	・舗装等を行うこ	77	事業内容、目的】 林道・作業道等の開設・改良・舗装等を行うことにより地域路網の機能を強化するとともに、	を強化すると	ともに、森林を
有効に活用し地域活性化を図る上で重要な林道等を整備し め林業所得の向上と山村地域の生活環境等の改善に資する ・県単林道網絡合整備事業:山村整備作業路開設、 林 安や福豊豊富、林岡泉本	性化を図る   山村地域の   整備事業:	上で重要な林道等を整備 生活環境等の改善に資す 山村整備作業路開設, 安や施設設置、株道保全	浴整 等二衛一 開設, 格音保	有効に活用し地域活性化を図る上で重要な林道等を整備し、林業生産活動の促進と生活の利便性等を高め株業所得の向上と山村地域の生活環境等の改善に管する。 ・原単林道網総合整備事業:山村整備作業路開設。 林道・作業路等改良。 林道・作業路等舗装。 安や維設設置、林道保や	助の促進と生活 攻良, 林道・	と生活の利便性等を高 林道・作業路等舗装,
・森林路網整備加速化事業 ・環境配慮型路網機能強化事業 ・森林路網ストック活用緊急整備事業	J速化事業 J機能強化事 ウ活用緊急	業 整備事業				
[事業期間]						
[事業実施経緯]						
平成 23 年度: 林内路網密度	内路網密度	耳川流域 42.7m/ha (H22:42.4m/ha)	/ha (H	(22:42.4m/ha)	・・・評価	(0)
		全 県 36.5 m	ha (H	県 36.5m/ha (H22:36.2m/ha)		
平成24年度: 林	: 林内路網密度	耳川流域 43.2m/ha	/ha	全 県 36.8m/ha	明述・・・・	0
平成25年度: 林	: 林内路網密度	耳川流域 43.8m/ha	/ha	全 県 37.3m/ha	評価	(0)
平成26年度: 林	: 林内路網密度	耳川流域 44.2m/ha	/ha	全 県 37.7m/ha	男権・・・・	(0)
平成 27 年度: 林	: 林内路網密度	耳川流域 44.4m/ha	/ha	全 県 37.9m/ha	即越•••	0
平成28年度:林内路網密度	內路網密度	耳川流域 44.6m/ha	/ha	全 県 38.1m/ha	9世・・・・	0
平成29年度: 林	: 林内路網密度	耳川流域 44.8m/ha	/ha	全 県 38.4m/ha	即述・・・・	(0)
平成30年度:林内路網密度	内路網密度	耳川流域 45.1m/ha	/ha	全 県 38.6m/ha	即越・・・・	(0)
令和 元年度:林内路網密度	内路網密度	耳川流域 45.3m/ha	/ha	全 県 38.7m/ha	単端・・・・	(0)
令和2年度:林内路網密度	内路網密度	耳川流域 45.4m/ha	/ha	全 県 38.9m/ha	単雄・・・・	(0)
令和3年度:林内路網密度	内路網密度	耳川流域 45.6m/ha	/ha	全 県 39.0m/ha	評価	(0)
合和 4 年度:事	: 事業実施中					
	<山地領域> (1) 崩壊地か	(山地領域> (1) 崩壊地からの上砂浦出,		(2) 七石流等の土砂災害の発生,		(3)自然景観の消
	人; (4) 生物牛 (7) 保水機	島環境の変化、 能の低下, (8)	(5) 能夠	(5)産業基盤の流出, (6)水資源涵養機能の低下, 炒防施設容量減少	水資源涵養機能	能の低下,
継続的に 取り組む課題	(9) 昨水池 (12) 按流滑	大温電池水気や点 大温の機能原址。	(13)和	<ul><li>(タム商級&gt;</li><li>(9)野水池水温帯治水安全度低下、(10)阿水浴県の減少、(11)取水口の研究(12)放流設備の機能原告。(13)利水設備の機能原告。</li></ul>	减少, (11)取水	いい地位。
	<ul><li>(24) 記載発生時の (24) 記載発生時の く注口・海票鑑算</li></ul>	製害加 人				

(令和4年11月30日更新)

(市位4年11月20日史制)	Г	I de seu con		44	(中位4年11月30日更新)
	行動計画カルア (計画番号:28)	(計画番号:28)			
事業に関連する 未来みやざき創造プラン 上位計画	*************************************	治山事業	事業に関連する上位計画	第6次国	第6次国有林野施業実施計画
内       ・分野(産業づくり)         ・施策の体系 (G-2·(2))	華 ※ 計 体	国 九州森林管理局	K		
経営課 容	担当部局	宮崎北部森林管理署治山グルーフ	体		
等を行うことにより地域路網の機能を強化するとともに、 森林を西水道院を 帳信 - 林紫生帝活師の出筆 ケモの利価社院を 選	事業内容、目的   本業日的   本業日的   本業日的   本業日的   本業日的   大				
XXOTA TO THE TO THE TANK THE TO THE TANK THE TA		ネース 森林の維持造成を通じて、II地に起因する災害から国民の生命財産を保全するとともに、水資	る災害から国民の生命	財産を保全	するとともに、水資
蘭作業將開設、「林道・作業路等收良、「林道・作業路等開装 段設置,林道保全		顔のかん養、生活環境の保全形成を図る。 事業内容 - I- IE 品味財 ユギコー 具本の異常な布殊を1・7.5.8 添かりが声略 I- 地が岩田敷橋士ス	サート、ス高まちつら	神阪川寺かん	年日整備十六
ä	[事業期間]	平成 23 年度~令和 4 年度	【題類厘程】		※終
2	[事業実施経緯]				
格 49 7.m/h.c (H99249 4.m/h.c)	平成 23 年度:保安林整備事業 平成 24 年度:防災林造成事業		本数調整伐 52.36ha を実施・・・・・・・・評価 植栽工 0.25ha を実施、復旧治山事業を実施・・評価	···· 事業を実施・	・評価(〇) ・評価(〇)
	平成 25 年度:保安林整備事業		本数調整伐 40.92ha を実施・・・・・	*****	
b数 43.2m/ha 全 导 36.8m/ha ····幹価 (○) c数 43.8m/ha 全 导 37.3m/ha ····幹価 (○)	平成 26 年度: 限安林整備事業		後旧治山事業を実行 本数調整伐 20.90ha を実施・・・ 後田治山 弗塞を定行	:	計価 (〇)
b域 44.2m/ha 全 県 37.7m/ha ・・・・ 評価 (○)	平成 27 年度:保安林整備事業		本数調整伐 19.62ha を実施・・・・	•	・評価(〇)
c城 44.4m/ha 全県 37.5m/ha ····評価(○)	平成 28 年度: 保安林整備事業		覧を実行 ・・		評価
	平成 29 年度:保安林整備事業 平成 30 年度:保安林整備事業	安林整備事業 復田治山事業を実行 安林整備事業 復田治山工事を実行			・ 評価 (○) ・ 評価 (○)
	合和元年度 : 復日	合和元年度 :後旧治山上事を実行 ・・・・・・・	:	(〇) 脚龍・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· 評価 (O)
全 E 38 7m/ha · · · · 禁任	令和2年度: 実績	: 英嶺無し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	********		(▽) ⊎媸・・・・・
全県38.9m/ha ・・・・評価	令和3年度:後I	: 後日治山工事を実行 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評価 (45mm/s) in that 45% / / / / / / / / / / / / / / / / / / /			・評価 (O)
域 45.6m/ha 全 県 39.0m/ha ・・・・ 評価 (○)		Trituta + ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** *	.cona, むユーュョ) (2)七石濱等の上夢》	後害の発生。	・ IT   (三)   (3)自然最優の消失。
士砂流出, (2) 七石流等の土砂災害の発生, (3) 自然景観の消		(4)生物生息環境の変化,(5)産業基盤の流出,(6)満水緩和機能の低下,(2)洪水緩和機能の低下,(8)砂切施設容量減少	(5)産業基盤の流出,(6)砂防施設容量減少	6)渴水緩和機	能の低下,
の変化, (5) 産業基盤の流出, (6) 水資源涵養機能の低下, 下, (8) 砂防施設容量減少	直接的、間接的に関連する	<岁少版域> (9)貯水准永端部治水安全度低下,(10)利水容量の減少,(11)取水口の埋法。	度低下, (10)利水溶量	の減少。(11	)取水口の埋炭,
(11) 四枚口の組織と、(10) 日本発電の調か、(11) 四枚口の組織、 網層部、(13) を大穀艦の義指層師、	問題・課題	(12)及高麗龍の秦龍麗岩。(13)如水景倫の磯龍扁岩、木直道龍展>	(13)和水数値の機能	No.	
被害抗人		(24)沿艦発生時の被害拡大<河口・海岸領域>	,		
> 数数数上)の支障, (31)海岸環境悪化, のも隆 (33)池業発生時の砂宝地ナ		<ul><li>(30)船舶の航行(操業 F.)の支障, (31)海岸環境悪化。</li><li>(32)漁業(操業)の支障, (33)氾濫発生時の被害拡大</li></ul>	支障, (31)権岸環境忠 3)氾濫発生時の被害並	光光	
マンス中に (55) 15間 20 上になって次 ロガゴン					

# (令和4年12月12日更新)

(令和4年12月12日更新)

3102			中中	田舎と田井ナン	
事業名	山地沿山事業	事業	* -		未来みやざき創造プラン
事業主体	古崎県	mir	K	<ul><li>・分野 (産業づくり)</li><li>・施策の体系 (G-2-(2))</li></ul>	((
担当部局	環境森林部	自然環境課	体		
[專業內容、目的] 森林の維持造成を通じて、山埠養、生活環境の保全形成を図る。 後、生活環境の保全形成を図る。 ・復旧治口事業 :山腹崩壊・予防治山事業 :山腹崩壊	1 を通じて、山地に起因する災害から国民の5 全形成を図る。 ・山腹崩壊地、はず山、荒廃渓流などの ・山腹崩壊危険地、はず山移行地、侵差 荒廃危険山地の崩壊等を未然に防止。	起因する災害 はげ山、清 険地、はげ山、清 地の崩壊等を	語から国 語の漢語 1巻行路 2米然に	事業内容、目的】 、生活環境の保全形成を固じて、山地に起因する災害から国民の生命財産を保全すると、 、生活環境の保全形成を図る。 ・後日治口事業 :山腹崩壊地、はげ山、常路渓流などの常藤山地を復日整備 ・予防治口事業 :山腹崩壊危険地、はげ山移行地、侵食などにより荒廃のき 売焼危険山地の崩壊等を未然に防止。	ともに、 ざしのあ
・水源地域整備事業 ・水土保全治山事業	<ul><li>事業:水源かん養機能 おける荒廃地、</li><li>事業:□地災害危険地 での森林整備、</li></ul>	核語や上砂道 地、結路森材 険地の集中し 舗、結落地の	作出機 本を総合 かた と の の 日 年 の の 日 年	: 水源かん養機能や上砂流出機能等の保安林の機能回復を図るため、 おける清路地、岩路森林を総合的に整備。 : 11地災害危険地の集中した地域や水土保全機能の高度発補が重要と での森林整備、売磨地の復日等を総合的に実施。	: 水源かん養機能や上砂流出機能等の保安林の機能回復を図るため、水源地域における消磨地、端路森林を総合的に整備。 に111地災害危険地の集中した地域や水土保全機能の高度発揮が重要とされる地域での森林整備、荒廃地の復日等を総合的に実施。
[事業期間]				【計画期間】	継続
[事業実施経緯]					
4成 23 年度: 犯	平成23年度:復旧治山5箇所、7	水源地域整備事業2箇所·	事業2[	窗所・・・・・・・	辨值 (〇)
5成24年度: 1	平成24年度:後旧治山3箇所、7	水源地域整備事業7箇所·	本業7	窗所 · · · · ·	(〇) 単端・・・・・
平成 25 年度: 0	: 復旧拾山4箇所、7	水源地域整備事業7箇所·	事業7	• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	(〇) 単端・・・・・
平成26年度: 0	: 復旧拾山8箇所、7	水源地域整備事業2箇所、	事業2	箇所、水土保全治山事業6箇所	業6箇所・評価(〇)
平成 27 年度: 後	: 後旧拾山5箇所、7	水源地域整備事業2箇所、	事業26	箇所、水土保全治山事業4	業4箇所・評価(O)
7成28年度:	平成28年度:復旧治山4箇所、7	水上保全治山事業4箇所。	事業4		(〇) 與雄・・・・・・
成 29 年度: 和	平成29年度:後旧治山5箇所、7	水土保全拾山事業1箇所、	事業11	箇所、水源地域整備專業2	業2箇所・評価(〇)
5成30年度: 犯	平成30年度:復旧拾山5箇所、7	水源地域整備事業2億所・・・	事業26	箇所・・・・・・	(〇) 野雄・・・・・
7和元年度: 8	今和元年度 :復旧治山7箇所、水源地城整備事業2箇所・	、源地域整備	事業2	窗所・・・・・・	(○) 퇻點・・・・
和2年度:復旧浴	1山13 箇所、予防治山	3箇所、水源地	域整備事	含和2年度 : 復日治山13 箇所、予防治山3 箇所、水源地域整備事業3 箇所、水土保全治山事業3 箇所・	§3 箇所・・・・評価 (O)
和3年度:復旧浴	四3箇所、予防治山1	箇所、水源地均	<b>於整備事業</b>	11 箇所、水上保全治山事業	含和3年度 : 復用治山3 箇所、予防治山1 箇所、水源地域整備事業 1 箇所、水土保全治山事業 1 箇所・・・・・ 評価(O)
<b>令和4年度:</b>	: 復旧治山3箇所、	产防治山1箇	所、水	予防治山1箇所、水土保全治山事業1箇所・・	(〇) 単編・・・・・
	<ul><li>&lt;山地領域&gt;</li><li>(1)崩壊地からの土砂流出,(2)土石流等の土砂(4)生物生息環境の変化,(5)産業基盤の流出,(7)法本総有機能の低下,(8)砂財施設容量減少</li></ul>	の土砂浦出, 境の変化, () 能の低下, ()	(2)土7 5)産業基 8)砂防塩	: 山地間域> (1)間域地からの土砂流出,(2)七石流等の土砂災害の発生, (4)生物生息環境の変化,(5)産業基盤の流出,(6)掲水総和 (7)洗水総和機能の低下,(8)砂防施設容量減少	<ul><li>災害の発生,(3)自然景劇の消失,</li><li>(6)掲水緩和機能の低下,</li></ul>
直接的、間接的に 関連する 問題・課題	V - V	部析水安全的	其低 F. (13)利利	<ul><li>ジム価減&gt;</li><li>ジル(の減)</li><li>(9)所水油未満部台水安全度低下,(10)利水容量の減少。(11)形水口の判例、(12)約流設備の機能障害,(13)約水設備の機能障害, 両品面減&gt;</li></ul>	(11)形成(1704)[25]
	(24) 石榴笼牛 市の被害加入 <河口・ 権岸領域>	作の被指揮人 (域>			
	(つの) 部人用力の行うのう	THE WELLTON	dense /e	(のの) のは、 かんか 一年 のの 1 人の 一年 の 1 人の 一年 の 1 人の 1 年 日 日 1 人の 1 年 日 1 人の 1 人の 1 年 日 1 人の 1	the supergraph of the state of

THE PART OF THE PA				
事業名	地すべり防止対策事業	事業に関連する るす画		未来みやざき創造プラン
事業主体	国略県	· 分野 内 · 施策o	<ul><li>・分野 (産業づくり)</li><li>・ 施策の体系 (C-2-(2))</li></ul>	
担当部局	環境森林部 自然環境課	体		
「事業内容、目的】 地すべり等防止社	事業内容、目的】 地すべり等防止法の規定に基づき、農林水産大臣が指定した地すべり防止区域内の地すべりを防止	大臣が指定した	也すべり防止区	域内の地すべりを防止
、 県民の生命・東・地下べり防止事	し、県民の生命・財産や生活環境の保全を図る。 ・地すべり防止事業 (農林大臣が指定した地すべり防止区域内の地すべりを防止)	ナペリ防止区域	ちの地すべりを	坊止)
【事業期間】	平成19年度~		【計画期間】	短期
[事業実施経緯]				
平成23年度:地	平成 23 年度:地すべり防止事業1箇所実施(諸塚村家代)・・・・・・評価	(諸塚村家代),	・・・・評価	(0)
平成24年度:	(H23年度完了)			
平成25年度:該	平成 25 年度:該当箇所なし(地滑り防止区域指定 5 ha 以上が事業対象)・・評価(一)	沿定5ha以上	5年業対象)・	・評価 (一)
平成26年度:該当箇所なし	当箇所なし・・評価(一)			
平成 27 年度:該	平成 27 年度: 該当箇所なし・・評価(一)			
平成28年度:該	平成 28 年度:該当箇所なし・・評価(一)			
平成29年度:該	平成 29 年度:該当箇所なし・・評価(一)			
平成30年度:該	平成30年度:該当箇所なし・・評価(一)			
令和元年度:地	: 地すべり防止事業1箇所実施(	(諸塚村中尾),	(〇) 単志・・・・	(0)
令和2年度:地·	: 地すべり防止事業1箇所実施(	(諸塚村中尾),	評価	(0)
令和3年度:地	: 地すべり防止事業1箇所実施(	(諸塚村中尾),	••••評価	(0)
令和4年度:地	: 地すべり防止事業1箇所実施(	(諸塚村中尾) :	•••• 評価	(0)
- HE		, (2)上石流等の上砂 (5)産業基盤の活出, (8)砂防施設容量減少 度低下, (10)利水率 (13)利水設備の機能	右流等の上砂災害の発生 基盤の流山, (6)掲水緩利 施設容量減少 (10)利水容量の減少。 (水設備の機能障害,	災害の発生, (3)自然景観の消失, (6)掲水緩和機能の低下, <u>2の減少, (11)IIU水口の埋後,</u> 3部者,

# (令和4年12月12日更新)

事業名	県単治山事業	事業に関連する 上位計画	未来みやざき創造プラン
事 業 主 体	宫崎県	・分野 (産業づくり) 内 ・施策の体系 (C-2-(	· 分野 (産業づくり) ・施策の体系 (C-2-(2))
相当部局	環境森林部(自然環境課	徐	
【事業内容、目的】 森林の維持管理を	・通じて、山地に超困する災害	ぎから県民の生命・	事業内容、目的】 森林の維持管理を通じて、山地に起因する災害から県民の生命・財産を呆全し、水資源の涵養、生活
ぎの保全・形成 <sup>条</sup> 臨時県単治山 <sup>3</sup>	環境の保全・形成等を図るとともに、被災林地及び荒磨危険地に渓間工、山腹工等を施行。 ・臨時県単治山事業(県単治山事業)	ひで荒廃危険地に浮	3
集客防災総合計 治山計画調査 治山施設機能回	· 集落防災総合治山事業 (県単治山事業) 治山計画調查 (県単治山事業) · 治山施設機能回復事業 (県単治山事業)		
The Modern		1	100 to 10
TH WYMIHI		1 2	THE TABLE
[事業実施経緯] 平成 23 年度: 治 平成 24 年度: 集	井業実施経緯】 平成 23 年度:治山施設機能回復事業 1 箇所実施・・・・・評価(○) 平成 24 年度:集落防炎総合治山事業 1 箇所、治山施設機能回復事業 1 箇所実施・・	施・・・・・評	・評価(○) 回復事業1箇所実施・・・評価(○)
平成 25 年度:治平成 26 年度:治	平成 25 年度:治山施設機能回復事業1箇所実施・ 近時 96 年度: 福季在※終入公司事業1億所。		が (〇) を (〇) を (〇)
平成 27 年度:集	:集落防災総合治山事業3箇所·		
心 28年度:該	平成 28 年度:該当箇所なし・・・・・・・		評価(一)
平成29年度:集	:集落防災総合治山事業2箇所・		評価(〇)
12.0	: 該当箇所なし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		繁価 (-)
	: 集務的決縮合治口事業2箇所・・・	(〇) 專語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	:果路乃次統の治旦事業1個庁、治口計画監付り国庁・・・計畫() きおき (※タンパー事事・発出) パーを正置者 アダゴー 書手・発出	治口計画調角9周)	(〇) 事論 (〇)
〒443年後 :東 令和4年度 :臨時	: 來答の火熱中治口事業 2 國內、行口計單調查 3 國內,・・・計劃 (〇):臨時県単治口事業 1 箇所、集落防災総合治口事業 2 箇所、治口計画調查 1 0 箇所・	后川計画調宜 3 国 総合治山事業 2 箇所、	
	<ul><li>&lt;山地領域&gt;</li><li>(1)時級地からの土砂流出。(2)上石流等の土砂災害の発生。(3)自然景(4)生物生息環境の変化。(5)産業基盤の活出。(6)海水緩和機能の低下(7)洪水緩和機能の低下。(8)砂防塩殻容量減少</li></ul>	(2)上石瓶等の土(2)産業基盤の浦出,8)砂防施設容量減5	(山地領域> (1)崩壊地からの十砂流出,(2)上石流等の土砂災害の発生,(3)自然景観の消失, (4)生物生息環境の変化。(5)産業基盤の流出,(6)褐水緩和機能の低下, (7)洪水線和機能の低下,(8)砂防施設容量減少
直接的、間接的に 関連する 問題・課題	タム価級> (9)昨水油未開配冶水安土取低下, (10)和水容晶の減 (12)放電設備の鐵能障害, (13)包水設備の鐵語障害。 <阿迪路線>	変低下, (10)利水器 (13)利水設備の機)	ダム循環> (4) 政権政権の機能障害。 (12)政権政権の機能障害。 (13)対決政権の機能障害。 (13)対決政権の機能障害。
	(24)过槽整件時の販売地人<百口・補売鑑賞>		
	(30)格胎の航行(操業上)の支障,	支障, (31)海岸環境悪化,	题化,

(令和4年12月12日更新)

事 業 名	県単補助治山事業	業事	事業に関連する 上位計画	未来みやざき創造ブラン
事 業 主 体	宮崎県	*	<ul><li>・分野(産業づくり)</li><li>・施策の体系(C-2-(2))</li></ul>	y) -2-(2))
相当部局	環境森林部 自然環境課	茶		
[事業内容、目的] 森林の維持造成を	事業内容、目的】 森林の維特造成を通じて、山地に起因する災害から国民の生命財産を保全するとともに、水資源の瀬	野から国	民の生命財産を使	4全するとともに、水資源
養、生活環境の保全形成を図る。 ・県単集落防災事業 ・自然が	形成を図る。 業 ・自然災害防止治山事業	****	・いきいき山村集落機能強化事業	<b>%能強化事業</b>
<ul><li>山村集落防災機能強化事業</li></ul>		ら山村集	・暮らしを守る山村集落環境整備事業	
[事業期間]			【計画期間】	継続
[事業実施経緯]				
平成23年度: い	平成 23 年度:いきいき山村集落機能強化事業2 箇所・・・・・・・・・評価(〇)	22箇所		(〇) 更満・・・・
平成24年度:県	平成 24 年度: 県単集落防災2箇所、自然災害防止治山1箇所、いきいき山村集落2箇所・・・評価(③)	山1箇所、	いきいき山村集落20	簡所・・・準備(◎)
平成25年度:県	平成 25 年度:県単集落防災1箇所、いきいき山村集落機能強化事業1箇所・・・・評価 (〇)	山村集	落機能強化事業1	箇所・・・評価(○)
平成 26 年度: 県	平成26年度:県単集落防災1箇所、山村集落防災機能強化2箇所・・・・・・評価	防災機	能強化2箇所・・	(〇) 學粒・・・・・
平成27年度:県	平成 27 年度:県単集落防災1箇所、自然災害防止治山1箇所、山村集落防災機能強化1箇所・・・評価 (○)	山1箇所,	山村集落防災機能強	化1箇所・・・評価(○)
平成28年度:県	平成 28 年度;県単集落防災1箇所、山村集落防災機能強化1箇所・	15次機	<b>能強化1箇所・・</b>	(〇) 題誌・・
平成29年度:県	平成29年度:県草集塔防災1箇所、山村集落定住環境整備1箇所・・	;定住環	竟整備1箇所・・	・・評価(〇)
平成30年度:県	平成 30 年度:県単集落防災1箇所、山村集落定住環境整備2箇所・・・・評価 (○)	定住環	竟整備2箇所・・	· · 郭循(O)
令和元年度 : 自约	令和元年度 :自然災害防止治山1箇所、山村集落定住環境整備3箇所・・評価(○)	集落定任	主環境整備3箇所	・・評価(〇)
	:春らしを守る山村集落環境整備事業2箇所、自然災害防止治山事業1箇所・・・評価(〇)	英2箇所,	自然災害防止治山	事業1箇所・・・評価(○)
	:県埠集落防災事業1箇所、暑らしを守る山村集落環境整備事業2箇所・・・評価 (〇)	生る正	可果洛環境整備事業	(2 箇所・・・評価(の)
令和4年度:県頭	:県単集落防災事業2箇所、自然災害防止治山事業1箇所、暮らしを守る山村集落環境 事産主事・終売:・毎年(○)	災害防1	L.治山事業 1 箇所	、暮らしを守る山村集落環
	<ul> <li>(1)崩壊地からの上砂流出,(2)上石清等の上砂災害の発生,(3)自然景準(4)生物によるの上砂流化,(6)産業基盤の流出,(6)溶水緩和機能の低下,(7)は上砂砂にはなるのが正さ、(5)がは光きがをしまから、(5)を対し、(5)を対して、(5)がは上きがあります。</li> </ul>	(2)上子(2)库案者(2)库案者(2)	. (2)上石流等の上砂災害 (5)産業基盤の流出,(6)渇 (colour-beans electric	(1)地域域> (1)地域域> (1)地域地からの上砂流出,(2)上石流等の上砂災害の発生,(3)自然景観の消失, (4)七物生息源鏡の変化,(5)産業基盤の流出,(6)渇水緩和機能の低下, (4)上海金香味味みんにエー(A)が出た事か。自まれ
直接的、間接的に 関連する 四郎・無略	編即的本安全 語の機能障害。	更低下, (13)利用	(10)利水容量の腐れ数値に割	4少, (11)股东口心埋没,
101/00 TAND	<河道原族> (24)氾濫発生時の被害組入			
	<ul><li>(30)福船の航行(機業上)の支際, (31)海岸環境悪化, (30)333年424 またましました。 (30)334年424 またまします。 (30)334年424 またまします。</li></ul>	支障, (5	00支騰, (31)海岸環境惡化,	

# (令和4年11月18日更新)

行動計画カルテ (計画番号:34) 地すべり対策事業

(計画番号:33) 砂防事等 砂防事等 (社会資本整備総合 業) 県土整備部 県土整備部 (告対策を指進し、 持谷川 4 異施・ 有谷川 2 美施・ を67川 2 異施・ を67川 2 大村谷 (1) 所域地がふる (1) 所域地がある (1) が域地がある (1) が域地がある (1) が域地がある (1) が域地がある (1) が域本機能 (1) が域地がある (1) が成が過か地域は (1) がはないる (1) が成が過かが (1) が成が (1) が成	砂防事業 社会資本整備総合交付金事 事業に関連する 未来みやざき創造プラン 業)	<ul><li>・分野 (へらしんべり)</li><li>・ 施策の体殊 (B·4・2))</li></ul>	<b>第</b> 部 砂防္ 卒	[事業内容、目的] 近年における集中豪雨の多発化に伴う人的被害の増大等に対応するため、ハード・ソフトが一体となった総合的な上砂災害対策を推進し、安全安心な県民生活の職保を図る。 [事業期間] 継続	年度 23 年度 : 山須原谷川栗施、榎本谷川蝦成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
事業名 (社会 業) 担当 部 局			局具土整備部	目的】 る集中豪雨の多発4 上砂災害対策を推注 1	<b>多华华霞霞霞明明近见思</b>

# (令和4年11月18日更新)

地寸へり対策事業 (社会資本整備総合交付金事 業) 上位計画	宮崎県     内       ・施策の体系 (C・2・(2))	県土整備部 砂防課 答	<ul><li>【事業内容、目的】</li><li>近年における集中豪雨の多発化に伴う人的被害の増大等に対応するため、ハード・ソフトが一体となった総合的な上砂災害対策を推進し、安全安心な県民生活の確保を図る。</li></ul>	【開稅恒卡】		野遊地区開始、島戸地区実施、合鴫地区概成・・・・・・	平成 24 年度:鹿野遊・島戸地区実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	平成 25 年度:鹿野遊・島戸地区実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	平成 26 年度: 鹿野遊・島戸地区実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	平成 27 年度: 鹿野遊・島戸地区実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	平成 28 年度:鹿野遊地区実施、島戸地区概成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	野遊地区実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	野遊地区実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	:鹿野遊地区実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				<ul> <li>(4)市援地からの土砂流出,(2)上石流等の土砂災害の発生,(3)自然景観の消失,(4)生物生息環境の変化,(5)産業基盤の流出,(6)遏水緩和機能の低下,(7)排水緩和機能の低下,(7)排水緩和機能の低下,(8)砂防施設容量減少。タム電域&gt;&gt; メー電域&gt;&gt; 「12)放流設備の機能に害,(13)中水整備の機能障害,(13)中水整備の機能障害,(13)中水整備の機能障害,(13)市水整備の機能障害。</li> <li>(24)心離発生場の被害拡大</li> <li>(24)心離発生場の被害拡大</li> <li>(25)治療・シーンを備。(31)海岸環境悪化。</li> </ul>
操業名	事業主体	担当部局	[事業内容、目的] 近年における集中 った総合的な上砂多	【事業期間】	【事業実施経緯】	平成23年度:鹿野遊地区開始、	平成24年度: 贈	平成25年度: 鹿	平成26年度: 鹿	平成27年度: 農	平成28年度: 康	平成 29 年度: 鹿野遊地区実施:	平成30年度: 鹿野遊地区実施。	令和元年度:鹿	令和2年度:	令和3年度:	令和4年度:	直接的、開接的に 関連する 問題・課題

(令和4年11月18日更新)

(令和4年12月16日更新)

11到日 回 ハレノ	(回) (回) (回)		
禁	急傾斜地崩壕対策事業 (社会資本整備総合交付金事 業)	事業に関連する 上位計画	未来みやざき創造プラン
事業主体	宮崎県	・分野 (産業づくり) 内 ・施策の体系 (C-2-(	分野 (海業ムペセ) 精験の体派 (C・2・2.2.)
担当部局	県土整備部 砂防課	茶	
「事業内容、目的」 近年における集中 った総合的な上砂災	「事業内容、目的」 近年における集中豪雨の多発化に伴う人的被害の増大等に対応するため、 った総合的な土砂災害対策を推進し、安全安心な県民生活の確保を図る。	り増大等に対応するた 3民生活の確保を図る	め、ハード・ソフトが一体とな
【事業期間】		【計画期間】	間】
[事業実施経緯] 平成 23 年度:下A	事業実施経緯]  平成 28 年度: 下八峽・小原井地区実施・・・・		(〇) 無縄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
平成 24 年度:下 小平成 25 年度:尾前	平成 24 年度:下八峡,小原井地区美施 ······	1	(〇) 事権・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
平成26年度:上植	平成 26 年度:上椎葉地区開始、尾前・鳥川・小原井地区実施	草井地区実施・・・	
平成 27 年度:鳥川	平成 27 年度:鳥川・上椎葉地区実施、尾前・小原井地区概成	雨井地区概成・・・	
平成 28 年度: 上札 平成 29 年度: 上八	平成 28 年度:上権築地区実施、鳥川地区構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<ul><li>等權助区開始、上權</li></ul>	· · · · · · · · · 郭省(○) ※班文學反 · · · · · 評価(○)
平成30年度:上八	平成30年度:上八峡・八重の平・松の平下・針金橋地区実施	☆橋地区実施・・・	単端・・・・
令和元年度:上八	合和元年度:上八岐・八重の平・松の平下・針金橋地区実施・・	橋地区実施・・・	(〇) 典雄・・・・・・・・・・・・
令和2年度: 岩宮-	令和2年度;者宮-1地区開始、上八峽・八重の平・松の平下・針金橋地区実施・	-・松の平下・針金橋	
合和3年度:小街	令和3年度:小雀陰地区開始、上八峽・八重の平・松の平下・針金橋・老宮-1 地区実施・評価へなったは、 ギルルは間は、 むのおす・ 単帝・・・・ 本勢を叫びらな	・松の平下・針金橋上巻の平下・半金橋	・岩宮-1 地区実施・評価(〇)
17年4年後,馬中	144十段:元中350四紀、公グ十十・石当-1・小田屋550大馬。 上代 4. 大重の平・針合	者一1・4/10時間と表施、 上八峡・八重の平・針金橋地区機成・・・	地区機成・・・・・評価(〇)
	<ul><li>(1) 団地領域&gt;</li><li>(1) 団機セからの土砂流出,(2)土石流等の土砂災害の発生,(3)自然最後(4)生物生息環境の変化、(5)産業基盤の流出、(6)固水緩和機能の低下,(7)洗水緩和機能の低下,(8)砂防値設容量減少</li></ul>	2)土石流等の土砂災? 窒素基盤の流出,(6) 砂防施設容量減少	(3)自然景観の消養能の低下,
直接的、間接的に 関連する 問題・課題	〈夕太衛城〉 (9)除水池末端部治水安全度低下,(10)和水容量の減少,(11)股水口の型喪 (12)放流設備の機能障害,(13)利水設備の機能障害, <が高端地域。	5下, (10)利水容量の 3)利水設備の機能院	藏少,(11)股水口の埋没。 <sup>新</sup> ,
	(24)记儒発生時の被害机人		
	<河口・海岸領域> (30)船舶の航行(操業上)の支障,(31)海岸環境悪化,	章, (31)海岸環境悪爪	

九州電力株式会社 経営計画 (9)貯水池未端部治水安全度低下, (10)利水溶量少减少, (11)股水口の制造, (12)放流設備の機能部等, (13)利水設備の機能障害, (14)生物生星環境の変化。 (15)生物生息空間の連続性過略 短期 (単位:袋) 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ○ダム通砂運用に伴う護岸・河岸部の安全性を確保するための補強工事の実施 大内原: ダム~石峠橋の延長1.6km 区間 (右岸側)、石峠がクランド前面 (左岸側) 【計画期間】 事業に関連する 袋秸捨石設置 (大内原)\*4) 上位計画 (900袋製作) 22,200 8,800 4,100 7,300 1,600 400 0 0 0 0 0 0 K 蔡 平成20年度~平成28年度 貯水池内護岸補強工事 耳川水力整備事務所 山須原、西郷: 必要に応じ対策を実施 九州電力(株) 行動計画カルテ (計画番号:36) <川道館域> へが原所 / 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成29年度 平成30年度 平成23年度 令和元年度 令和2年度 合和3年度 合和4年度 11/12 [事業内容、目的] 直接的、間接的に E \* [事業実施経緯] 【事業期間】 \$P 問題·課題 関連する 智 #1 継 継 भा 卅 型 **\*** 

(令和4年12月16日更新)

(令和5年5月30日更新)

等 型 紙 知			4 TMG1 TMG1 TMG1 4 TMG1 TMG1 TMG1 TMG1 TMG1 TMG1 TMG1 TMG1	上位計画		九川電力株式が付	在 整吊計画
भ्रा	**************************************	九州電力(株)	7(株)	<b>K</b>			
	神	耳川水力整備事務所	葡事務所	*			
[事業内容、 〇治水安全国	、目的】 :面の早期確	「	を考慮した貯力	(池上砂移動	1の実施(平別	3.20年度~令	和3年度)
山須原:	諸塚中心 火 A直上流	諸塚中心部付近の堆積土砂の収除き(計画高水位を満足する)パが) アパ直上流部の推積土砂の湖内移動/攻除き(プーストプッショ中の環境面の影響低減)	砂の取除き (音の調内移動/取影	+画高水位を: iき (ファーストブ	酒足するバル ラッシュ時の環境	一下平   「一平	[~平成 28 年度] (低減)
西鄉:		   「小直上流語の堆積土砂の湖内移動/取除さ(ソテーストアラッシュ時の環境面の影響伝递)	の湖内移動/取影	<b>科を(77-3</b> 内)	アッシュ時の環境	「~令、 何の影響低減)	[~令和3年度] 氐域)
大內原:		下~」    (東海県海の国際語のは1.7577.575)   現場のの実施(プレストプラット語の環境の国際場合のは、アストプラットには1.752度からには1.752度からには1.752度からには1.752度が1.752度が1.752度が1.752度を1.752度が1.752度を1.752度が1.752度が1.752度が1.752度が1.752度が1.752度が1.752度が1.752度が1.752度を1.752	おける覆砂の乳	き施(ファーストブ	ラッシュ時の環境	[~平] 面の影響低減) [~平]	~平成 28 年度  氐域) [~平成 28 年度]
[事業期間]		平成 20 年度~令和 3 年度	~令和3年度		【計画期間】		短期
							(単位: m3)
		湖内移	湖内移動/取除き		100 may 100 ma	覆砂	
F	器塚中心部	出須原が.4 商上統部	A 西郷がA 直上統部	ma	大内原9.4	ma.	計量
平成23年度	2,000	4,000		6,000	J.	1	0
平成24年度	2,000	Į.	2,000	4,000	Ĭ.	(	0
平成25年度	22,000	I	8,000	30,000	13,000	13,000	0
平成26年度	51,000	1		51,000	21,000	21,000	0
平成27年度	53,000	1	1	53,000	42,000	42,000	0
平成28年度	12,000	1	23,000	35,000	32,000	3,2000	0
平成29年度	0	1	0	0	0	0	0
平成30年度	0	0	0	0	0	0	0
合和元年度	0	0	0	0	0	0	Ö
合和2年度	0	15,000	0	0	0	0	0
合和3年度	0	0	0	0	0	0	0
合和4年度	0	0	0	0	0	0	0
掛	142,000	19,000	33,000	179,000	108,000	108,000	Ò
[事業実施経緯]	経緯						
直接的、間接的に	X	<友妻強減> (9)作本西表鑑信等水液化療傷下,(10)但水容量の減少,(11)股本中の組織。	55500000000000000000000000000000000000	下, (10)和州	大容量の減少、	(11)版水口砂	湖(茶)
6 111							

九州電力株式会社 経営計画 ・山須原ダム:魚道内の堆積土砂他取除工事を含む · 大内原ダム: 放水口流水壁茶引き上げ工事を含む ・括弧内はシンフルに貯水池内流水魔芥引き上げ屋 (処理量: m³) 0 0 0 00 0 0 0 0 0 0 維統 1,843 1,489 1,938 2,149 1,494 4,444 1,163 919 3,507 784 894 096 21,340 ・発電所取水口等に流木塵芥が漂着し、水路閉塞による発電支障防止を図るため 11,420 1,016 1,374 2.510 1,460 490 904 大内原 590 627 694 627 240 888 [計画期間] 529 118 12 14 20 88 84 22 22 (30)船舶の航行(操業上)の支障, (31)海岸環境悪化, (32)漁業(操業)の支障, (33)氾濫発生時の被害拡 西鄉 事業に関連する 上位計画 10 10 108 ・発電所取水口等に漂着した流木塵芥を取除き、処理を実施 39 10 20 17 61 63 17 436 山須原 4. 4 K 容 117 125 320 0 33 141 298 諸塚 (12) 按点设備の機能解析。(1) (貯水池内流木塵芥引き上 宮崎支柱 目向土木保修所 (24)亿藏条生時の被事拡大 発電設備保全事業 ※塚原7、4自動除整機設置時期 九州電力(株) 0 0 0 0 0 0 011 155 塚原 <河口・海岸領域> 行動計画カルテ (計画番号:38) E 昭和29年度\*~ <関連記憶> <タイ活躍> 2,425 岩屋戸 819 150 88 182 152 645 200 49 67 39 26 4,738 上椎薬 1.510 910 30 215 270 126 172 315 447 205 142 396 直接的、間接的に [事業内容、目的] IE \* [事業実施経緯] [事業期間] 問題·課題 関連する # 毙 ●事業目的 ●事業内容 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成29年度 平成27年度 平成28年度 継 平成23年度 平成30年度 合和元年度 令和2年度 合和3年度 合和4年度 訓 11/12 料 # 型

(令和4年12月16日更新)

計作

ダム通砂操作の 技術的検討

・ダム下流仮設備の撤去を実施 西鄉ダム改造工事

・既設コンパート - 部権去(2回目)を実施、新設コンパート(2回目)を打設

平成29年度

山須原ダム改造工事

0

·周辺整備を支施 (H30,8% A改造工事竣工)

・新設大型ゲート設置(1円)、原設ケートの復旧(2円)を実施 ・上流仮緒切の一部散去を実施

平成30年度

0

0

·女人通砂運用美麗(台風8号、10号) ·台風8号、10号之8、10時分類

・上流仮緒切の一常権去を実施 ・通路橋下部工を実施

令和 元年度

員会 HB1/3)

砂の効果が見込めないと判断し途中

九州電力株式会社 経資計画		母 当 印 加	11		ダム通砂操作の 技術的検討	0	・ダム通砂の位置-5/7と日標の明 縮化 (第1回耳)/水系メス通砂 技術総計委 〇 最会・12-4/23)	・向口の安全の観点からずが通動時 の具体的な操作方法を検討 第2回耳 水系ダル運砂技術権軟業員 会・超写法	・刊」II原境・和水の観点からず A通 砂味の具体的な操作方法を検討 (第5回刊 II本系グス通節技術検討委員 後・20(12)	・下流2岁人連携面彰二年与影響、 モニタリンが計画を検討 (第4回以下水系汐人通影技術検討委員 後・2052)	・武樂) 連用計画等を検討 (第5回月) 小木糸メム通砂技術権料委員
Taca I		実路的実施 たて実施する (3 的 9m 切下げる	【計画期間】		ダムが		・ダム通砂の( 離化 (第1回耳//水系/ 量会・12247.23)	・首川の安全の観点からタリ の具体的な操作方法を検討 (第2回耳川水系ダム運砂技術 会・短8/12)	・河川環境・F 砂町の具体的な (第3回3川水系 会・126/12)	・下流2岁ム連携通砂に1 モニタリング計画を検討 (第4回耳)1水系グム通砂技 会・28/2	· 試驗運用計画等を検討 (第5回耳)  水系ダム通砂数
事業に関連する 上位計画	» 2-	計価を踏まえた。 A改造工事を併行 後、越流天端を3 後、越流天端を8	29年度~		西郷ダム改造工事		・ダム上下液位設工事の実施、1. 液溶締切及び医設分ートを設置 ・財政分ート権主, 既設コンクリートー部搬去を実施	・既成コンクリートー部様式を実施、着設コンクリートを打設	・新設コンケリート打改、新設ケート設置を表施	・ダム上流板締切の・部機表を実施	別の権法を実施
運用(・大内原)	5(株)	用事的別 ・大内原作 JA するためのダ リ央2 門を撤去	和3年度~、 京ダム:平成。		西郷ダ		・ダム上下流仮設工事の実施、 流段締切及び仮設ゲートを設置 ・既設ゲート権主、既設コンクトートの審社と支施	・取扱コンクリートー部様立施、着設コンクリートを打裂	・新設コンクリート設置を実施	・ダム上流仮雑	・ダムト流位締切の報去を実施
ダム通砂運用 (山須原・西郷・大内原)* A)	九州電力(株)	日 当 印 四 4 7114人752階事事的別 「事業内容、目的】  ○ダム通砂運用の実施(山須原・西郷・大内原がム) ・総合土砂管理に関する技術検討会による検証・評価を踏まえた段階的実施 (米山須原、西郷ダムの通砂機能を付加するためのダム改造工事を併行して実殖する。 「平月山須原・既設がブルゲート8 門のうち、中央2 門を撤去後、越流天端を約 9m 切下げて、西 郷・既設・ラ・ゲート8 門のうち、中央4 門を撤去後、越流天端を約 4m 切下げて、西 郷・既設・ラ・ゲート8 門のうち、中央4 門を撤去後、越流天端を約 4m 切下げて、	山須原ダム:令和3年度~、 西郷ダム・大内原ダム:平成29年度~		山須原ダム改造工事	- 青工(投工: 事の実施	· 岁厶七下游饭跌工事の奖练、上消饭薪切免战雨	・ダム上流仮補り及び仮設ケート 全設置、ダムド流仮設工事を実施	ガルと海板落凹 (支保工及び海水 鉄路カパー) を設置	・既成ゲート権去、陳政昭体コンタリート・部級共を共権	・既設コンクリート - 部機去(1回 11)を実施、新設コンクリート(1回
<b>※</b> 名	<b>并</b> 章	日 当 時 四 [本業内容、目的]  ○夕 ム 通砂運用の実施・総合土砂管理に関 ※山須原、西郷ダム、山須原、既設がブルブ 西 瀬・既設・デザ・西	[事業期間]	施経緯】	山須原5	・ダム改造工年青工・ダム上下南仮設工事の実施	・ガム上下流角板雑型を設置	・ダム上流仮きを設置、ダム	・ダム上流仮絡の (支保護カバー) を設置	・現設ゲート撤去、臨	・既設=ンク 日)を実施、新
<b>#</b>	<ul><li>申</li><li>古</li><li>※</li><li>※</li></ul>	中業内3   中業内3   ・総合   ※山須馬   田須原:	(事業	[事業実施経緯]		平成 23年度	平4次 24年度	平成 25年度	平成26年度	平成 27年度	平成 98年底

・上流位成地の販力を実施         ・ダム部の実施片果の分析、評価           2年度         ・ダム部の実施は果の分析、評価           ・周辺整備を実施中         ・ダム部の連用支施行施の契           ・周辺整備を実施中         ・ダム部の適用支施計画検           ・同型整備を実施中         ・ケ船中度のタム部の接触を関           ・同型整備を実施         ・ケ船の運用の実施中           ・存和中性のタム語の技術を申申         ・存和中性のタム語の技術を申申           ・存和中性のタム語の技術を申申         ・存和中性のタム語の技術を申申           ・存和中性のタム語の技術はでの方に、評価         ・イム語の支援指定の扱いを           ・存和年度のタム語の技術はなの方に、評価         ・イム語の支援指定の方式面が支援計画検           4年度         ・イト語によのタム語の技術はを持続           14年度         ・イト語の支援計画検           14年度         ・イト語の支援制度の分点面が支援計画検           14年度         ・イト語の方法           14年度         ・イト語のする           14年度         ・イト語のする           14年度         ・イト語のする           14年度         ・イト語のする           14年度         ・イト語のする           14年度         ・イト語の支援指定の方法           14年度         ・イト語の支援指定の方法           14年度         ・イト語の支援指定の方法           14年度         ・イト語を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を		權表念実施 各実施	W/4 4	
· 周辺整備を実施中 ・ 通路橋 上部工を実施中 ・ 周辺整備を実施	·周辺整備を実 ・通路橋上部工		· 女人通過型用の装備,在風口等分 · 女人通過學集結果の分布, 評価 · 介書34年度の女人通信英雄計画像 計《第2017日 · 本条女人通母技術所計算 員会 EX/3)	.0
· 周辺整備を支援	西 藝	<b>全装敞中</b>	· 女人面的原因用某能信件服务等) · 行服 9 号气法,降图 50 90 次(面形 50 ) 然果 50 以 5. 60 50 大 2	O
	- 周辺整備を実 合和 4年度		· 对人通砂運用技能(台版14号) · 对人通砂支能结果心分析, 評価 · 个和5年度心外人通份支援計画報 [計(第11回刊]) · 公面分歧游戏的数 異会, 你公子完了	O

(令和5年2月27日更新)

行動計画カルテ (計画番号:41)

事業:日向市、諸塚村)

名

業

法

宮崎県

\*

44

継

肼

県土整備部 河川課

器

M

型

[事業内容、目的] 河床掘削、護岸、宅地嵩上げ、輪中堤

事業実施経緯 [事業期間]

**	広域河川改修事業		
4	(社会資本整備総合交付金 事業:日向市)	事業に関連する 上位計画	未来みやざき創造プラン
業士	宮崎県	・分野 (くらしがくり) 内 ・施策の体系 (B-4-(2))	しづくり) $(B-4-(2))$
景 第 局	県土整備部 河川課	쑞	
等是、護岸、福梁、特殊堪 築是、護岸、福澤、特殊堪	**************************************		
[事業期間]	平成20年度~合和7年度	【計画期間】	短期
[事業実施経緯] 平成 23 年度: 樋	事業実施務線】 平成 23 年度:福門(中野原地区)築堤、橋梁(羽坂地区)工事を実施・・評価	羽坂地区)工事を実施	(〇) 忠孝・・」
·成 24 年度: 橋	平成 24 年度:橋梁(羽坂地区)工事を実施・・・・・・・・		
7成 25 年度:橋37年 6年 7年 8年	平成 55 年度:橋梁(羽坂地区)、築堤(鶴野内地区) 工事を実施です。6. 作事: 年幹 田(鶴町市 場で) 丁事士 中華	M区) 工事を実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(〇) 単端・・
- 成 26 年後:特3 - 成 27 年度:特3	平成 76 年段:特殊塔(戲對內地区)上中分类櫃・・平成 27 年度:特殊堤(鶲野内地区)工事を実施・・		
战 28年度:情報	平成28年度:情報基盤(出口地区)工事を実施・・		(〇) 単端・・
7成29年度:特	平成 29 年度:特殊堤(中野原地区)工事を実施・・		・・評価 (〇)
5成30年度:築時	平成30年度:築堤、樋門(鶴の内地区) 工事を実施・	実施・・・・・・・	・・評価 (○)
	: 築堤、護岸、樋門(鶴の内地区)工事を実施	工事を実施・・・・	・・評価(〇)
	: 護岸(鶴の内地区)工事を実施・・		(〇) 無減・・
	:護岸(鶴の内地区) 工事を実施・・		・・評価(○)
合和4年度 : 築場	:築堤(白浜地区)工事を実施・・・		•••韓甸(〇)
直接的、間接的に関連する問題・課題	《明清福場》 (20)福州の不安定化。(31)幾片の基礎部の報災。(23)股。(23)格水安全度低下。(24)担需発生時の報告机大く利口・海岸領域> (29)治水安全度低下。(30)鉛油の航行(機業上)の支障	(91)適岸の基礎部の戦災。(93)版水の不安定化 (24)社需発生時の複字根大 (30)航海の航行(操業上)の支廉	3)版水の不安定化。 支際

(令和5年2月27日更新) 未来みやざき創造プラン 短期 ・分野 (くらしづくり) ・施策の体系 (B-4-(2)) [計画期間] 事業に関連する 上位計画 K 於 (社会資本整備総合交付金 土地利用一体型水防災事業 平成20年度~合和7年度

6		()	0)	0)	0)	)	)	(	)	
9		0	0	0	0	0	0	0	0	
・・評価		. 評価	• · 評価	• • 評価	. 評価	評価	評価	評価	• 評価	<ul> <li>2 少面與&gt;</li> <li>(9)貯水地末端部の育水安全度低下 河道面域&gt;</li> <li>(20)精脚の不安定化,(21)適岸の基礎財の構造。(22)取木の不安定化。</li> <li>(23)貯水安全度低下,(24)氾酷発生時の構造成束。</li> <li>(25)拾水安全度低下</li> <li>(26)拾水安全度低下</li> </ul>
			•							· ·
								3.	•	*
•		í á								3
						•		-3	•	-12
141		141		•					•	
加		河								56
Till 124		171							•	7. 2
抽		P4				0				製 盤
LI I	1	1		il nor	100					※ 半
0		2		摇	理	の補償及び工事を実施	の補償及び工事を実施	の補償及び工事を実施	の補償及び工事を実施	·罗小蘭嘎> (9)的水池未漏船の含水安全度低下 河道蘭爐> (20)筋脚の水安定化。(21)聽岸の基體部の喉咙。 (23)的水安全度低下。(24)氾濫発生時の報刊化水 (29)治水安全度低下
-		9		學	#K	#	実	*	1	雑号
X		X		が	491	499	4/4	杨	441	卷 查
图	THE P			1	THE PARTY	1	=	111	-	<b>光</b> 等 引
维		想		×	Z	1	34	24	34	<b>国</b>
日子	3	1		2	X	22	23	23	2	<b>樹 </b>
)	1			ton	\$E.	3	4	200	SHIT!	4 運長
理		押	(型)	4	4	4	1	4	100	# 5 5
養		英	封	10	2	1	1	0	の神	* 00
禁		7	A)	-	9					E SIL A K
			-	1×1	X	1×1	(幸脇地区)	[X]	[x]	<ul> <li>(9)的水池末端部の育水安全度低下 同道蘭城&gt;</li> <li>(20)條期の不安定化。(21)聽情の基 (23)竹水安全度低下。(34)氾濫発生 (39)拾水安全度低下。</li> </ul>
X X	X	1	X	墨	型	콮	型	코	포	国
型		型	型	163	器	12	中	題	田田	人意人 冬 朝 都 研
壇		聖	虚	##	##	1	144	##	#	戦 12 歳 8 後 種 安
8		8	##	-	)	~	0	0	0	(9)貯水池末 (9)貯水池末 (20)騰脚の水 (23)貯水安全 (河口・龍岸 (29)拾水安全
後		海	~	1	1	+	to	7	7	4. 型海羅衛口器
田		思	K	4	1	1	11	-14	44	★ 書 記 器 庫 66
701		met r	100	砸	娅	挜	班	廸	逦	A a A a a A a
野		語	1	素	素	型	型	型	型	
平成 26 年度:築堤 (恵後の崎地区)、特殊堤 (立総地区)の工事を実施・・		平成 27 年度:築堤 (恵後の崎地区)、特殊堤 (立縫地区) の工事を実施・	平成 28 年度:建物調查(幸臨地区)を実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	平成 29 年度: 宅地嵩上げ(幸脇地区)の補償及び工事を実施	平成30年度:宅地嵩上げ(幸脇地区)の補償及び工事を実施・・・	: 宅地嵩上げ(幸脇地区)	: 宅地嵩上げ	令和3年度:宅地嵩上げ(幸脇地区)	令和4年度:宅地嵩上げ(幸脇地区)	1.2
14.0		they	14.0	14.0	Shot.	• •				名画
西		出	刑	140	111	令和元年度	合和2年度	坐	当	炎的、間接が 関連する 問題・課題
4		the Car	3	9	4	日	#	#	#	臣 卡 普
26		22	22	23	3	IK	0)	3	4	的、間接関連する問題・課題
裕		出	坐	坐	松	早	怪	平	平	光 展 票
1		1	1	1	1	AP.	4F	<b>₹</b> □	<b>4</b> =	直接的、問接的に関連する問題・課題
										怛

(令和5年2月27日更新)

(令和5年2月28日更新)

県車目然災害防止 ・ 事業に関連する ・ ボボみやざき創造ブラン ・ (河川改良事業含む)	・分野 (くらしづくり)   ・ 塩策の体系 (B・4・2)	備第 河川縣 绛	繁煌禮岸等を実施する。	[計画期間]	(柳原川)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(田口川、迫野内川)、護岸補修工(秦の木原川)・・・・・ 評価(○)	(月川河口)、徳芹補修工(小原井川)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(臼野め川、精谷川、間溝川)、畿岸補修工(白野め川、間溝川)・・・	(C) 野橋・・ (C) 野橋・・	<b>  </b>	••• 非価	(母谷川) 土砂除去 (坪谷川、迫野内川、椎谷川)・・・・・・ 評価 (○) (ほ谷川) 土地(****・(F川)		(耳川、好谷川)、土砂除去(耳川) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	: 護岸上 (坪谷川)、土砂除去 (耳川、坪谷川、椎谷川)、宅地嵩上工 (椎谷川)・・・・ 評価 (○)	<ul> <li>(口地額域&gt;</li> <li>(1) (1) 海道線域&gt;</li> <li>(20) (2</li></ul>
河河		県土整備部	去、河積の拡		上砂除去(柳		上砂除去 (追上砂除去 (追	用/ 年物版中	築堤工 (坪谷				: 護岸工 (耳川,	雙岸工 () 序谷)	V - V V
事業名	事業主体	担当部局	<ul><li>(目 的)</li><li>河川堆積物の除去、河積の拡大、</li></ul>	[事業期間]	[事業実施経緯] 平成23年度:上砂除去	平成24年度:土砂除去	平成 25 年度:土砂除去平成 26 年度:土砂除去	万余 97 在降。	平成28年度:築堤工	平成29年度:護岸工	平成30年度:築堤工			令和4年度:劃	直接的、間接的に 関連する 問題・課題

自治会等が実施する一定規模以上の河川の草刈りや河川管理用通路の穴ぼこ補修に対し報奨金を交 付し、地域の人々の河川での活動を活発にし、地域の活性化につなげるとともに、公民協働による河 未来みやざき創造プラン 継続 平成 24年度:草刈面積18,576㎡ (延ペ23,281㎡) (2団体)・・・評価(○) 平成25年度: 草刈面積18,576㎡ (延べ23,281㎡) (2団体)・・・評価(○) 281㎡) (2団体)・・・評価(〇) 平成 27 年度: 草刈面積 4 6, 2 3 0 ㎡ (延べ6 4, 7 5 2 ㎡) (3 団体)・・・評価(〇) 平成28年度: 草刈面積46,230㎡ (延ぺ64,752㎡) (4団体)・・・評価(○)平成29年度: 草刈面積50,609㎡ (延ぺ69,131㎡) (5団体)・・・評価(○) 平成30年度: 草刈面積46,045㎡ (延べ64,567㎡)(4団体)・・・評価(○) 令和元年度 :草刈面積46,045㎡ (延べ64,567㎡)(4団体)・・・評価 (〇) 令和2年度;草刈面積46,045㎡(延べ64,567㎡)(4団体)・・・評価(○) 令和3年度 : 草刈面積46,045㎡ (延べ64,567㎡) (4団体)・・・評価(○)令和4年度 : 草刈面積55,944㎡ (延べ74,466㎡) (5団体)・・・評価(○) (17)利川景観の変化。(18)生息生育環境の変化。(28)治水支含更低下 ・施策の体系 (B-2-(2)) ・分野 (くらしづくり) 【計画期間】 川管理の推進と河川管理のコスト縮減を図ることを目的としている。 事業に関連する 上位計画 平成26年度:草刈面積18,576㎡(延~23, 平成23年度:耳川流域では未実施・・・評価 (一) K 容 河川バートナーシップ 県土整備部 河川課 行動計画カルテ (計画番号:44) 宮崎県 平成17年度~ 直接的、間接的に \* 【事業実施経緯】 【事業期間】 問題·課題 関連する # 點 继 業 釽 + 型 神

_
更新
更
Щ
28
Щ
2
#
2
(令和
t

行動計画カルテ	(計画番号:45)			
中 蔡 名	「ふるさとの川・海」 愛護ボランティア	非業に関連する 上位計画		未来みやざき創造ブラン
事 斃 主 体	国邮票	・分野(くら 内 ・施築の体系	(くらしろくり) 5体系 (B·4·2))	
阿爾斯爾	県土整備部(河川県)港湾票	終		
「事業内容、目的」 河川・要護ボランテ 等の支援を行うことに	1) ・ンティア活動に対し、市町村と連携して、必 ・とにより、水辺環境の維持向上を推進すると	B勝して、必要な ・推進するととも	必要な管機材の支給・貸与、 とともに、河川・海岸利用者	財の支給・貸与、傷害保険加入 河川・海岸利用者の水辺環境に
対する関心とモラルの向上を図る	ルの向上を図る。			
【事業期間】	平成23年度~合和2年度	[計画期間]	19191	維統
【事業実施経緯】	本事業の支援を受けた団体のう	24	に関連する実績	耳川水系に関連する実績は下配のとおり。
平成 23 年度:	3団体 延べ145名・・・・・・・ [耳川水系耳川] ・尾向地区渓谷祭り実行委員会(権集村) ・発顔敷谷漁業協同組合(日向市)・・・・・ ・(株)石垣 九州支店(日向市東郷町)・・・・・	: !!!	・評価 (〇) 7 8 8 6 5 8 2 8	
平成 24 年度:	2団体 延べ183名・・・・・・ [ 耳川水系耳川] ・尾向地区渓谷祭り実行委員会(権権村) [ 耳川水系道の内川] ・道の内医ほ民(日向市)・	: 1 :	·評価 (O) 18名 65名	
平成 25 年度:	3団体 延へ2.3.1名	: 111	· 第 (O) 8 8 0 8 6 0 8 0 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8 1 8	
平成 26 年度:	耳川木奈耳川    尾向地区渓谷祭り支行委員会(柳   発動機管漁業協同組合(日向市)   全部機管漁業協同組合(日向市)   「耳川木奈却の内川    近り内区住民(日向市)   1月川木系庫名川  1月川木系原名川  1月川木系原名川  1月町木系原名川  1月町木系原名川  1月町木系原名川  1月町木系原名川  1月町木系原名  1月両市)   1月町木系原名  1月両市)   1月町本	<b>E集村</b> ) ····1	· 聖事 (○) 108 618 908 228	
心成 27 年度:	2団体 延べ175名・・・・・ [耳川水系耳川]・尾向地区浸谷祭り実行委員会(推業村) [耳川水系近の内川] ・道の内区住民(川向市)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		·郭丽(〇) 85名 90名	
<b>心成 28 年度</b> :	2 団体 延べ190名・・・・ 【耳川水系耳川】 ・尾向地区渓谷祭り実行委員会 【耳川水系迫の内川】 ・道の内区ほ民(川向市)・・・・・	(椎葉村) … 9	·評価 (O) 97名 93名	

(0)		ô	6						
・評価(	100名43名93名	··韓 70名 40名 38名	·100名 · · 評価(〇) 70名 40名	80名	・ 第 3 5 8 8 8 8 9 0 8 9 0 8	8 年 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	84 8 9 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	高高化	地扩大
団体 延べ236名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	きり実行委員会(権業村)・・・ 整協同組合(日向市)・・・・・・ リリ】 日向市)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 団体	1市)	<ul><li>【4川水系追の内川】</li><li>・追の内区住民(日向市)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>	30体 延べ206名・・・・・・・・・ 「耳川水系耳川」 「尾向公民館(稚葉村)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34年 - 第4249名 [耳川水系耳川] 「尾向公民館 (推集村)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 団体 延々2 5 3 名 【耳川水系耳川】 ・尾向公民館(雌葉村)・・・ ・余瀬度が高楽協同組合(日向市)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<ul><li>(17)両別課の変化。(18)年息年行制課の登信</li><li>(百7)両日・海岸領域&gt;</li><li>(30)発売の転行(機業上)の支減。(31)海岸環境悪化。</li></ul>	大学権の指示を表示した。 大学権の指示を表示した。 大学者の指令権の指令を表示した。 大学者の指令権の対象を表示した。 大学者のものものものものものものものものものものものものものものものものものものも
平成 29 年度: 3 団体		平成30年度:4	令和元年度:4B	7	令和2年度: 4団体 [月] ·尼 ·余 · 美 · 其 [月]	今和3年度:4団体 [耳] - 尾原 - 金倉 - 金倉 - 大倉 - 大倉 - 大倉 - 1月]	合和4年度:4日	直接的、間接的に 関連する 問題・課題	Annual Canal

(令和4年12月13日更新)

事 祭 名	日向市河川環境モニター制度	本業に関連する上位計画	
数 主 体	日向市	K	
回始馬	市民環境部環境政策課	谷	
(中業内容、目的) 市民と市が一体と (1) 地域の河川の (2) 河川殿瀬島地 としての酒場 (3) 市の企画する (4) 河川殿瀬キニ ◆韓幹として「日	<ul> <li>事業内容、目的1</li> <li>市民と市が一体となった河川に対する愛護意識の高揚と市民と市が一体となった河川に対する愛護意識の高級と行う 地川愛護思想の普及啓発、河川原境に関する市談へとしての活動 市の活動 市の海線 市川原境に関する商力(4) 市川原地をの大めの構しに対する協力(4) 同川環境モーター会議への出席及び活動状況の報告を持たして、「日南市河川環境モーター・設置整備」添付</li> </ul>	<ul> <li>事業的祭、目的】</li> <li>市民と市が一体となった河川に対する愛護意識の高揚と河川浄化の促進を図る</li> <li>(1) 地域の河川の現状や汚濁状況の監視及び市への連絡</li> <li>(2) 河川愛護思想の普及母発、河川環境に関する相談への対応等の地域の河川環境保全のリーダとしての活動</li> <li>(3) 市の企画中を河川浄化等のための催しに対する協力</li> <li>河川環境モニダー会議への出版及び活動状況の報告</li> <li>(4) 河川環境モニダー会議への出版及び活動状況の報告</li> <li>◆資料とし、「日尚市河川環境モニダー会議への出版及で活動状況の報告</li> </ul>	保全のリーゲー
[事業期間]	平成8年10月~		継続
[事業実施経緯] 日向市河川環境モ (①旧東郷橋上消	事業実施経緯】 目向市河川環境モニター13 人のうち、耳川水系担当モニター5人 (①旧東海橋上流、②旧東海橋下流から鳥川、③美幸内水面管理区域、 一	区城、	①余濱版谷內水面管理区
域、GPF存用) 2成28年度: 河 : 河 (最 94年度: 河	現、9年4月11 平成 23 年度:河川県境モニター泰騰 (期間 2年) 『河川県境チェック表による河川の 『河川県境チェック表による河川の 『東常水館の機由(第里時)※耳 『中本の4 年前:「岡県寺 本一本本の第四版(『日)	なびモニター会議開催(4月) 状況報告(毎月1回1年間) 川木系からの報告は無し・・	(一) 则挺・・
可,数十 5. 英 面。 面。 更,	+ KK 24 十後:6/11 株乳でーン - 左縁配曲 : 河川県境チェック表による河に成立 - 25 年度:河川島増モニター会議開催 ( )	状況報告(毎月1回1年間)・・	·評価 (〇)
: 河川環境チェック 平成 26 年度: 河川環境モニター	環境チェック表による河川の   環境モニター会議開催 (5月)	: 河川霖境チェック表による河川の状況報告 (毎月1回1年間)・・・ 河川粟境モニター会議開催 (5月)	
: 海 : 27 年度: 河	: 河川環境チェック表による河川の 平成 27 年度:河川環境モニター会議開催 (5月)	: 河川環境チェック表による河川の状況報告(毎月1回1年間)・・・評価河川環境モニター会議開催(5月)	(〇) 學點
には、10世界地である。 河川県地子エッルのより8 年度・河川県地子エッ	: 河川環境チェック表による河川の状況集告 近川 標準エーター今楽開催 (18)	河川の状況報告(毎月1回1年間)・・・評価(/ 1 目)	評価(〇)
14. 女子 67. A	カ表による 一会楽団の	A)   の状況報告(毎月1回1年間)・・・   B)	評価(〇)
ナル 29 十尺 : 西川 議境チェック : 西川 環境チェック 平成 30 年度: 西川 環境モニター		状況報告(毎月1回1年間)・	(〇) 期湖・・
は: 金田市田舎	: 河川環境チェック表による河川の : 河川環境チェック表による河川の : 河川震館キニター会議開催 (4日)	: 河川環境チェック America : 河川環境チェック America : 河川環境チェック 表記 (4月) 回1年間)・・・評価 : 河川震路キェター会業国像 (4月)	評価 (〇)
	環境チェック表による河    環境チェック表による河   環境モニター会議は、新男	・ コールのファイン できない できない アール・デー できない アール にはない アール には できない アール になった アール には できない アール できない アール はない アール	評価(〇)
	川環境チェック表による河		評価(〇)
7和3年度:例 : 剤 合和4年度: 剤	: 利川県境チェックー芸術は、新生 : 河川環境チェック表による河 : 河川環境モニター会議は、新生 : 河川環境チェック表による河	: 四川森境・ニター 云線は、新空コロケ際等数人の正空を像し、暗電ぶし。 : 河川環境チェック表による河川の状況線は、依日 1回1 中間)・・評価 : 河川環境チェック表による河川の状況線は、依日 1回1 年間)・・評価 : 河川環境チェック表による河川の状況報告 (毎月 1回1 年間)・・評価	罪(0) (0) (1) (1) (1) (2)
直接的、間接的に	< 向面衝域> (17)向用景輔の憲化、(18)本港生作環境の要代	生息生育課籍の変化	
関連する開題・課題	< 同日・海岸倒破> (30)船舶の航行(操業上)の支障, (31)海岸環境悪化。	支障, (31)海岸環境悪化,	

(令和4年1月13日更新)

未来みやざき創造プラン

事業に関連する 上位計画

未来に残そう! ふるさとの きれいな川づくり推進事業

₩.

綵

行動計画カルテ (計画番号:47)

班 內	事 業 主 体   宮崎県、市町村   内
環境政策課	担当部局 古町村環境衛林部 各
対する愛護意識の高揚と河川浄化の促進を図る tRの監視及び市への連絡 河川環境に関する相談への対応等の地域の河川環境保全のリーダー	「事業内容、目的」 本県の美しい川・きれいな水を守り、未来へつないで行くためには、県民一人ひとりが主体となって地域の水環境保全に取り組む必要がある。このため県民やNPOと協働して、多くの県民が水辺環
つための様しに対する協力 出席及び否慮状況の報告 モニター設置要権」添け	・ 施調査やイベント等により身近な木環境にあれるう機会を増やし、水辺の環境について関心を高めることで木螺境保全への実践活動につなげる。 ・ マロ学年や中心に木辺環境指標を使った木辺環境調査の等及を図め。
月~ 【計画期間】 維総	※本調査は、耳川流域のみを対象とする。
19 ち、耳川水系担当モニター5人 17流から鳥川、②美幸内水面管理区域、①余瀬原谷内水面管理区 一委職(均間2年)及びモニター会議開催(4月) ク表による河川の状況報告(毎月1回1年間)	下皮 23 年~24 年 ふっさどの水辺ふれめい指導事業 平成 25 年~26 年 年り着てよう「ふるさとの水辺」指進事業 平成 27 年~29 年 未来につなぐ水資源・水漿瘡の保全推進勢落事業 平成 30 年~令和 2年 美しい「みやざきの水辺」を未来につなく脅塞事業 会和 3 年~会和 5 年 未来に残そう」ふるさとのき払いな出るくり推進事業
近光時春   ※4川/木糸からの東台行祟し・・・・評価(一)   七条線開催   (1997年)	[李紫順間] 平成23年度~ [計画期間] 構織
ク表によるPD/10分表を発音(毎月1回1年回)・・・計画(○) ク表による (D) (の状況報告(毎月1回1年間)・・・評価(○) 一会議開催(5月) ク表による河川の状況報告(毎月1回1年間)・・・評価(○)	[事業実施経緯] 平成 23 年度: 華陽小(8 名) 東郷学園(25 名) 田野区(33 名) 諸塚中(22 名)・・評価(○) 平成 24 年度:東郷学園(15 名) 田野区(12 名) 諸塚中(21 名)・・評価(○) 平成 25 年度・幸临小(4 名)
ク表による河川の状況執告 (毎月1回1年間)・・・評価 (〇) -会畿開催 (4月) ク表による河川の状況報告 (毎月1回1年間)・・・評価 (〇)	東郷学園(28名) 諸様中(19名) 田代小(35名) 権薬小(36名)・・評価(○)平成 26年度:東郷学園(30名)・・評価(○)
- 会議開催(4月) 少 表による河川の状況報告(毎月1回1年間)・・・評価(○) - 会議開催(4月) - 会議開催(6月) 回1年間)・・・評価(○)	
ク表による河川の状況報告(毎月1回1年間)・・・評価(○) →金線は、新盟コロナ	平成 30 年度:東鄉学國(18 名) · 松居小(11 名)· · 評価(〇) 令和元年度 :東鄉学國(19 名)· · 評価(〇) 令和2年度 : 東總学國(19 名)· · 評価(〇)
が表による河川の状況が大のエキュのこ、 Fill は、 C) ク表による河川の状況略号 ( 毎月 1日 年間)・・・評価( C) 一会議は、新型コロナ感染拡大防止を考慮し、 開催なし。 ク表による河川の状況報号( 64月 1回 1年間)・・・評価( C)	: 東郷学園(13名)・・評価 : 東郷学園(11名)・・評価
Wの変化、(18)生息生育類症の変化 資質成> 近行(検案上)の支庫, (31)海岸環境悪化。 業)の支障, (33)氾濫発生時の被害拡大	(47)両川泉観の変化。(18)生息生青環境の変化 関連する 問題・課題

(令和5年2月27日更新)

(令和5年2月20日更新)

事業名	身近な水辺モニター	事業に関連する	未来みやざき創造プラン
** **		上位計画	
	宣婚県	・分野 (くらしづくり) ・ 指策の存派 (B-2-(2))	·づくり) (B-2-(2))
相当部局	県土整備部 河川親	鉄	
[日 的]			
地域の方々に「身」 見交換を行うことを「	に「身近な水辺のモニター」を奏 ことを目的とする。これにより、	嘱し、県による多自然) 河川工事完了後どのよ	地域の方々に「身近な木辺のモニター」を奏嘱し、県による多自然川づくりに必要な現地調査や、意交後を行うことを目的とする。これにより、河川工事完了後とのように変化しているのか追跡調査が
可能となり、今後のf (調査事項:川底 (i 出, 魚,	今後の前川工事の改善点や両川環境の状況把推が可能となる。川底(河床)変化(土)の堆積・深掘れ)、完成施設と周辺の一地、魚、鳥の生息状況、水質調査)	境の状況把据が可能と7 深掘れ), 完成施設と周)	「能となり、今後の河川工事の改善点や河川環境の状況把程が可能となる。 (調査事項:川底(河床)変化(土)の堆積・深細れ)、完成施設と周辺の調和、植物の生息状況、昆虫、魚、魚の生息状況、水質調査)
【事業期間】	平成20年度~	【計画期間】	間】継続
[事業実施経緯]			
平成 23 年度:柳原川	[川 (諸塚中学校)・・・		(〇) 與誌・・・・・・・
平成24年度:柳原川	(諸塚中学校)、	耳川 (東郷学園、椎葉小学校)	(〇) 斯雄・・・・・(
平成 25 年度:柳原川	(諸塚中学校)、	耳川(東郷学園、田代小学校、	田代小学校、推奨小学校)・・評価(〇)
平成 26 年度:柳原川	[1] (諸塚中学校)・・・・・	*****	(〇) 媽雄(〇)
平成 27 年度: 耳川	(東郷学園)、田代川(耳川フェスティバル)・・	川フェスティバル)・・	(〇) 単雄・・・・・・・
平成28年度:柳原	: 柳原川 (諸塚中学校)、耳川 (東郷学園、田代小学校、樵奠小学校)	東郷学園、田代小学校、	、権養小学校)・・評価(〇)
平成29年度:耳川(東郷学園、	(東郷学園、権葉小学校)		(〇) 與處・・・・・・・
平成30年度:耳川	(東郷学園、松尾小学校)		(〇)
令和元年度 : 小川	: 小川川 (耳川フェスティバル)	*******	(〇) 単誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
令和2年度:耳川	: 耳川 (東郷学園) ・・・・	*******	(〇) 與此・・・・・・・
合和3年度:実施なし	(th)	*********	(一) 與點·····
合和4年度:実施	実施なし・・・・・		(一) 単誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
直接的、問接的に	< 河道商庫 (17)河川県Mの変化。(18)	18)生息生香環境の変化	
関連する			
問題·課題			
同題 : 咪起			

事業名	The state of the s	(St. ( H   H ) H)	
事業主体 耳川広境森林組合 内 「事業主体」 「五川流域森林・林楽 経 (中葉な内容、相称) 「中葉とかく権政地流低による災害等の未然防止対策として植栽木済地の発生抑制を図るため、 (本葉目的 (本葉目的) (本葉目的) (本葉目的) (中面) (中面) (本葉母の道にな管理を推進する。 (中面) (中面) (本葉母の道にな管理を推進する。 (中面) (中面) (中面) (中面) (中面) (中面) (中面) (中面)	鳅	皆伐現場パトロール	事業に関連する上位計画
担当 部 局	業	耳川広域森林組合	K
【】	新	耳川流域森林・林業 活性化センター	俠
事業実施務約  3回/月 (年約40回) [計画期間]   (計画期間]   (計事業期間   3回/月 (年約40回)   (計事業期間   3回/月 (年約40回)   (計算   3回/月 (年約40回)   (計算   3回/月 (年   4	「	と地売店による災害等の未然 1-ルしながら、立木投探力 計算を行い、森林の適正な管 素材生産事業協同組合・森 本格にある技術品権出の有	5止対策として植栽未済地の発生抑制を図るため、 たの指導・監視等を行い、環境に配慮した投媒方法 里を推進する。 (和合が一体となり、耳川流域を年間40回ほどバ 氏、撤出現場の状況等をチェックしながら、作業者・
- 莱莱莱莱莱莱莱莱娜整个和阿尔伯有一样要求 	[事業期間]	3回/月 (年約40回)	[計画期] 継続
<b>莱莱莱莱莱莱莱娜莱娜内第向第向点向第</b>	【事業実施経緯】		
2	平永天 加 23 年 度: 権	8回、諸塚村1	見述・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
<b>莱莱莱莱湖英都市和印第</b> 印刷	平成24年度:權	6回、諸塚村	
<b>莱莱莱湘连维那有有有有有有数的美女子,</b>	平成25年度:權	7回、諸塚村	更起・・・・・・・・・・
樊 櫱 翔 豬 菊 南 南 南 南 南 高 高 南 南 南 南 南 南 南 南 南 南 南 南	平成26年度:權	6回、諸塚村	••••••
*************************************	平成27年度:権	3回、器核村	<b>単端・・・・・・・・・・</b>
業 總 整 向 額 向 旗 向 稿 一		5回、指殊灯、2回、北郷区	=====================================
数据问题问题问证问题 *******************************	5414	5回、緒塚村9回、岩塚村	
\$ 但 類 但 数 但 就 但 数		5回、緒塚村 6 9回 7 9回	3回,
整 包 搬 信 点 但 整		2 回 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	- 01
但 整 但 项 但 整		3回、北部区	Victor Ed Lacks
新 但 城 但 整	24	2回、椎葉村 4	美郷町西郷区
三点 色 盆	5	2 3 国、北郷区	2-1 db5 2m 4m db5 7-
[巨鐵	行和3年度; 口(今和3年度)	有某名	4回、米巻町四巻区 ・関紙(C)
香 《	(1)相 5 十 1.4 万明 合和 4 年度 : 日)	推集村	5回、美灣町西鄉区
V V V	性	10回、北郷区	•••   評価 (〇)
V V		<ul><li>(1)所襲地からの土砂流出</li><li>(4)生物生息環境の変化</li></ul>	(2)土石浦等の土砂災害の落生, (3)自然景観の消失 5)産業基盤の流出, (6)褐水線和機能の低下,
- V	直接的、間接的に	(7)疾水液和酸脂の粒下, ベダム信息/	8)砂奶地被谷莊溪少
V V	関連する	(9)町米価米温等治水安全(18)投資設備の機能商品。	芝低下,(10)利水涂膏の減少,(11)原水口の口景, 113)利水穀酯の緩緩簡率
<ul><li>(30)結組の施行(模案上)の支際, (31)結岸螺境悪化。</li></ul>	問題・課題		
		<河口・海岸領域> (30)船舶の航行(操業上)の	支障, (31)衛岸環境悪化,

(令和5年5月31日更新)

(令和5年5月31日更新)

# 2 2 4 推集村 総 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
(計画番号:

椎葉村漁業協同組合事業計画 令和4年度 : 釣り体験数室 (不土野小)・放流体験数室 (大河内小)・・・・・評価(O) 椎葉村長期総合計画 平成26年度: 釣り体験教室(推薬小)・放流体験教室(松尾小)・・・・・評価(○) 平成 27 年度: 釣り体験教室 (不土野小)・放流体験教室 (大河内小)・・・・評価(○) 平成 28 年度: 釣り体験教室(尾向小)・放流体験教室(不上野小)・・・・評価(○) 平成29年度: 釣り体験教室(松尾小)・放流体験教室(大河内小)・・・・評価(○) 平成30年度:釣り体験数室 (大河内小)・放流体験教室 (椎葉小)・・・・評価(○) 平成 23 年度: 釣り体験教室(松尾小)・放流体験教室(小崎小)・・・・・評価(○) 平成 24 年度: 釣り体験教室 (大河内小)・放流体験教室 (不土野小)・・・・評価(○) 平成 25 年度: 約19 体験教室 (小崎小)・放流体験教室 (尾向小)・・・・・評価(〇) 令和元年度 : 釣り体験教室(小崎小)・放流体験教室(不土野小)・・・・・評価(○) 令和2年度: 約り体験数室(椎葉小)・放流体験数室(尾向小)・・・・評価(○) 村内の小中学校を巡回して河川での釣り教室や稚魚放流の体験学習を実施。 [計画期間] ・釣り体験教室 放流体験教室 (17)河川岛温め愛仁, (18)生型生育環境の空間 事業に関連する 上位計画 合和3年度 : 放流体験教室(松尾小)・・・・・評価(○) 小中学生を対象に河川環境保全の意識を育てる体験事業。 K \* (15)生物生星空間の連續生態制 振興活動実践事業 権薬村河川流域 農林振興課 椎葉村 行動計画カルテ (計画番号:51) - 別別間に 直接的、間接的に 事業内容、目的 女 事業実施経緯】 R [事業期間] 問題·課題 関連する 報 # 継 相当 業

継続

(令和5年6月26日更新)

事 教 名 事 教 生 体 担 当 部 局 但 当 部 局 内水面の水底資金 人口小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小	焦貝類放流事業 自向市	<b>中</b> 云	李楽に関連する 上位計画 9		
を 主 体 衛 局 内容、目的] 面の水産管	Half	75			事業名
ら 部 局内を、目的 内容、目的 前の水産資利 本本金券が高	and the Linds do the disk to the ann				事 業 莊 体
内容、目的】 而の水産資料	農林水壓部林寨水壓跌	蓉			和当館局
年での大田の米の町の	事業内容、目的】 内水面の水産資源の保護・増殖を図る。 各内水面漁業協同組合が、耳川のそれぞれの管理区域内において、アユ、 魚・稚カニを放流。	管理区外	RMC 2517, 72, 574	ウナギ、モクズガニの稚	【非業内容、目在 河川の環境保 各内水面漁業
(中楽期間)	平成 23 年度~今和 4 年度		【計画規則】	2000年	【事業集團】
[事業実施経緯] 平成 23 年度:ア	事業実施経緯】 平成 23 年度:アコ 286kg、ウナギ 140kg、モクズガニ 290kg、ヤマメ 1,000 尾を放流…評価(○)	E 7 X H	三290kg、ヤマメ 1,000 尾	を放流…評価 (〇)	平成23年度:
平成 24 年度:アコ468kg、 平成 25 年度:アコ465kg、	ユ468kg、ウナギ40kg、モ ユ465kg、ウナギ105kg、モ	カズガニ	ウナギ 40kg、モクズガニ 260kg を放蕩…評価(〇) ウナギ 105kg、モクズガニ 280kg を放瀉…評価(〇)		平成 24 年度:
平成 26 年度: アニ 581 kg、 平成 97 年度: アニ 466 kg		モクズ	ウナギ 77.2 kg、モクズガニ 335 kgを放流…評価(〇) ウナギ 991 kg・キクズガニ 310 kgを防流…課価(〇)	00	平成25年度:
平成28年度: アユ477 ㎏,		モクズナ		0 0	平成 26 年度:
平成 29 年度: アユ 488 kg,		モクズオ	ウナギ 394 ㎏、モクズガニ 370 ㎏を放流…評価(C	(0)	
平成30年度: アコ469kg,		モクズナ	ウナギ 339 ㎏、モクズガニ 275 ㎏を放流…評価 (〇)	0)	平成 27 年度:
令和元年度:ア	: 72 622 kg, 7+ # 519 kg, 4	モクズカ	ウナギ 519 ㎏、モクズガニ 395 ㎏を放流…評価(○)	(0	<b>F成28年度</b> :
令和2年度:ア	: 7 = 464 kg, 7+ # 519 kg, 4	モクズカ	ウナギ 519 kg、モクズガニ 405 kgを放流…評価 (〇)	()	<b>"成 29 年度:</b>
合和3年度:ア	:アユ 706 ㎏、ウナギ 265 ㎏、モクズガニ 415 ㎏を放流…評価	モクズカ	(二 415 ㎏を放流…評価(○)	0)	平成30年度:
合和4年度:ア	: アコ 532 kg、ウナギ 534 kg、モクズガニ 410 kgを放満…評価	モクズナ	/ □ 410 kgを放流…評価(○)	3)	<b>令和元年度</b> :
	マタム前級> U5)生物生配空間の適能性運順	THE REAL PROPERTY.			合和2年度: 合和3年度:
直接的、間接的に 関連する mmの・mm	<ul><li>(1.6) 所・別の音楽</li><li>(1.9) 加・別の音楽</li></ul>	MITTER	- 四百面報 >> (Gの付加額ものを使、G7)四日該親の変化。(G8)生成生 (F2)権の工作 (G9)権・調の再集	Am-IL	令和4年度:
HAVE . H					直接的、開接的
					関連する

(令和5年6月26日更新) :河川敷草刈 (2ヶ所)、河川清掃 (2)、漁場改良 (1)、不法投棄監視 (1)、アユ産卵 :河川敷草刈 (1ヶ所)、河川清掃 (1)、漁場改良 (1)、不法投棄監視 (1)、アユ産卵 : 河川敷草刈 (2ヶ所)、河川清掃 (2)、漁場改良 (2)、不法投棄監視 (2)、アユ産卵 :河川敷草刈 (2ヶ所)、河川清掃 (2)、漁場改良 (2)、不法投棄監視 (2)、アユ産卵 維約 後協同組合が耳川のそれぞれの管理区域内において、漁場やアコ産卵場を整備。 :河川敷草xi (2ヶ所)、河川清掃 (2)、アユ産卵場造成 (1) ……評価(〇) :河川敷草刈 (2ヶ所)、河川清掃 (2)、アユ産卵場造成 (1) ……評価(〇) :河川敷草刈 (1ヶ所)、河川清掃 (1)、アユ産卵場造成 (1) ……評価(〇) :河川敷草刈 (1ヶ所)、河川清掃 (2)、アユ産卵場造成 (1) ……評価(○) : 河川敷草刈 (2ヶ所)、河川清掃 (2)、アユ産卵場造成 (1) ……評価 (〇) :河川敷草刈 (2ヶ所)、河川清掃 (2)、アユ産卵場造成 (1) ……評価 (〇) :河川敷草刈 (2ヶ所)、河川清掃 (2)、アユ産卵場造成 (1) ……評価 (〇) (16)付着海路の変化。(17)利用条線の変化。(18)生息化胃期地の変化。 (18)所・割の割失。 【計画期間】 事業に関連する 上位計画 (15)生物生是空間の直径性虚断 K 茶 平成 23 年度~令和4年度 場治成(1) ·····郭佰(〇) 場造成 (1) ……評価 (〇) 場造成 (1) ……所備 (0) 場造成(2) ……評価(〇) 增養殖場整備事業 農林水産部林業水産課 日向市 テ (計画番号:53) へ所道館版》 民全及び資源保護 5115 的 \*

(令和5年5月23日更新)

(令和5年5月30日)

令和3年度 : 実績 アユ:501kg、ウナギ: 99kg、ヤマメ;59,000尾(稚魚)、250kg (成魚)・・評価(□) アユ:505kg、ウナギ: 99kg、ヤマメ:59,000 尾 (権魚)、250kg (成魚)・・評価 (〇) 令和4年度 : 実績 アユ: 443kg、ウナギ: 99kg、ヤマメ: 67,000 尾 (稚魚)、250kg (成魚)・・評価 (○) アユ:558kg、ウナギ: 90 kg、ヤマメ:61,000 尾(稚魚)250kg(成魚)・・評価(〇) ウナギ: 95kg、ヤマメ:61,000屋(雑魚)210kg (成魚)・・評価 (〇) アユ:577kg、ウナギ: 90 kg、ヤマメ:61,000 尾 (稚魚) 250kg (成魚)・・評価 (〇) アユ:260kg、ウナギ: 74kg、ヤマメ: 61,000 尾 (権魚)、 0kg (成魚)・・評価 (〇) アユ:605kg、ウナギ: 99kg、ヤマメ:61,000 尾(稚魚)、250kg(岐魚)・・評価(○) ウナギ:112kg、ヤマメ:61,000 尾 (権魚) 250kg (成魚)・・評価 (○) アユ:427kg、ウナギ:116kg、ヤマメ:69,280 尾(権魚)180kg(成魚)・・評価(○) ウナギ:110kg、ヤマメ:82,000 尾 (稚魚) 180kg (成魚)・・評価 (〇) ウナギ:110kg、ヤマメ:76,000 尾 (稚魚) 250kg (成魚)・・評価 (〇) 諸塚村内全域の耳川水系の河川において、アユ、ウナギ、ヤマメ稚魚、ヤマメ成魚を放流する。 継続 (16)仕着権権の変化。(17)再川県麓の変化。(18)生息生育農康の変化。 各河川へ稚魚を放流し、地域住民へ河川愛護の意識向上、及び内水面資源の確保 [計画期]] 事業に関連する 上位計画 \* K (15)生物生息空間の連続性運動 諸塚村放流事業 諸塚村産業課 (19) 順・副の消失 行動計画カルテ (計画番号:54) 7 = : 427kg, 7 = : 500kg. 7 = : 559kg. 7 = : 549kg. 人類罪河里人 合和2年度:実績 平成26年度:実績 平成29年度: 案績 平成30年度: 実績 平成 23 年度: 実績 平成24年度:実績 平成 25 年度:実績 平成 27 年度: 実績 平成 28 年度: 実績 令和元年度 : 実績 直接的、間接的に [事業内容、目的] A [事業実施経緯] 好 問題・課題 事業期間 関連十5 能 # 継 業 汌 曲 拼 型

平成 23 年度: おいかわ 13 ㎡、うなぎ 165kg、あゆ 808kg、やまめ 31,000 尾、にじます 3,750 尾、 平成 24 年度: おいかわ 13 ㎡、あゆ 325kg、やまめ 5,000 尾、にじます 3,750 尾、かに150kg 令和2年度:おいかわ16㎡、うなぎ106㎏、あゆ590,3㎏、やまめ29,000尾、かに110㎏ 平成 26 年度: おいかわ 11 ㎡、うなぎ 99kg、あゆ 676.3kg、やまめ 30,000 尾、かに 135kg F成 28 年度: おいかわ 10 ㎡,うなぎ 74.5kg、あゆ 644kg、やまめ 30,000 尾、かに 130kg : おいかわ 16 ㎡、うなぎ 106kg、あゆ 611kg、やまめ 29,000 尾、かに 110kg 継続 平成 27 年度: おいかわ 10 ㎡、うなぎ 121kg、あゆ 643kg、やまめ 30,953 尾、かに 135kg 令和元年度 : うなぎ 106 ㎏、あゆ 533 ㎏、やまめ 30,000 尾、かに 110 ㎏・・・評価 (○) : おいかわ 16 ㎡、うなぎ 73kg、あゆ 503kg、やまめ 33,000 尾、かに 110kg F成30年度: おいかわ10㎡、うなぎ67㎏、あゆ641㎏、やまめ30,000尾、かに130㎏ 平成 29 年度: おいかわ 10 ㎡、うなぎ 75kg、あゆ 623kg、やまめ 30,000 尾、かに 130kg 平成 25 年度: おいかわ 13 ㎡、うなぎ 11kg、あゆ 803kg、やまめ 140kg・・・評価(〇) (16)付春瀬町の変化、(17)河川県風の変化、(18)生息生育環境の変化。 [計画期間] 事業に関連する 上位計画 かに50kg、ふな2,000 尾・・・評価(〇) アユ、ニジマス、カニ、ウナギ、ヤマメ稚魚の放流 K \* (15)生物生息空間の運輸性護則 河川美化、監視活動、魚族資源の保護繁殖 耳川放流事業 (14)者・別の明条 農林振興課 行動計画カルテ (計画番号:55) (〇) 脚湖・・・ (〇) 脚準・・・ (〇) 脚端・・・ ~ 阿指龍城 (〇) 思想 . . . (〇) 聖湖・・・ (〇) 脚橋・・・ (〇) 聖雄・・・ (〇) 即温・・・ (〇) 與此・・・ 直接的、間接的に [事業内容、目的] \* [事業実施経緯] N 問題·課題 【事業期間】 令和3年度 関連する # 無 合和4年度 継 汌 継 型 \*

(令和4年12月2日更新)

** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	AND MINISH SELECT	The second second second second		The Part of the Pa
※ 第	対策事業	中来に関題する上位計画	ANTEN I	未来みやざき創造プラン
能	省崎県藻場干高等保全地域協議会	・ 分野・ 施策	<ul><li>・分野 (産業づくり)</li><li>・ 指策の体系 (C-2・(3))</li></ul>	
200	農政水産部漁業管理縣			
「事業内容、目的」 沿岸資源の維持 業を活用し、保全が ・水産多面的機能	事業内容、目的】 沿岸資源の維持容養のためには重要な機能を持つ藻場・干調・サンゴ機などについて、国の支援事業を括用し、保全活動を拡大し、その機能の維持回復を図る。 ・水産多面的機能発揮対策「水産業・漁村の持つ多面的な機能の発揮」にかかる活動費の補助・水産多面的機能発揮対策「水産業・漁村の持つ多面的な機能の発揮」にかかる活動費の補助	重要な機能を持つ機場・干涸 その機能の維持回復を図る。 深・流村の持つ多面的な機能	・サンゴ艦などにく	かて、国の支援事
【事業期間】	令和3年度~合和7年度		[計画期間]	雑続
「事業実施経緯」				
3年度:本場の保	平成 53 年度:本県沿岸における薬場 53.3ha、干鶏 14.5ha、薬場・干潟 12.4ha、サンゴ礁 5.0 ha の保全活動を実施・・・評価(○)	平潤 14.5ha, ≬ (○)	8場・干潟 12.4ha、	サンゴ側 5.0 ha
4年度:本場の保	収成 24 年度:本県沿岸における薬場 53.3ha、干剤 の保全活動を実施・・・・評価(○)	干渴 14.5ha, 》 〇)	干渴 14.5ha、蒸場・干潟 12.4ha、(〇)	サンゴ艦 5.0 ha
平成 25 年度:本明	: 本県沿岸における藤場 83.5ha、千鶚 14.0ha、サンゴ礁 5.0ha の保全活動を実施・・・・評価(〇)	干溫 14.0ha、步	- シゴ値 5.0ha の保	全活動を実施
6年度:本県	平成 56 年度:本県沿岸における鎌揚 96:9pa、干濁 14.0ba、サンゴ棚 5.0pa の保全活動を実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	干酪 14.0ha、+	トンゴ礁 5.0ha の保	全活動を実施
7年度:本県	平成 57 年度:本県沿岸における義揚 101.9ha、干湯 14.0ha、サンゴ硼 5.0ha の保全活動を実施・・・・・評価(〇)	干渴 14.0ha、	サンゴ側 5.0ha の役	全活動を実施
8年度:本場	平成 28 年度: 本県沿岸における薬場 32.7ha、・・・評価(〇)	干渴 9.7ha、サ	干割 9.7ha、サンゴ伽 8.0ha の保全活動を実施	活動を実施
9年度;本場	平成 29 年度:本県沿岸における養場 32.7ha、・・・・評価 (〇)	干高 9.7ha、步	サンゴ礁 8.0ha の保全活動を実施	活動を実施
0年度:本県	38.6ha、	干沙 9.7ha、サ	サンゴ職 8.0ha の保全活動を実施	活動を実施
· 各和证年度,本息》	・・・・評価(O) 本原が設けがける構造3413ha	平 18 9 7hs 中	野班を留所を含まれて出版を表示という。 Shan Solat Shan Shan Shan Shan Shan Shan Shan Shan	法国本法語
	· · · · · 享信 (〇)			
年度:本県	令和2年度:本県沿岸における藤場32.84ha、	干息 9.7ha、サ	サンゴ側 8.0ha の保全活動を実施	活動を実施
	(〇) 吳雄・・・			
年度:本肌	合和3年度:本県沿岸における凝場 44.34ha、	干周 9.7ha、 步	サンゴ礁 31.0ha の保全活動を実施	全活動を実施
	・・・弊価 (〇)			
年度:本県	合和4年度:本県沿岸における藍場 44.34ha、干潟 9.7ha、		サンゴ職 31.0ha の保全活動を実施	全活動を実施
	(〇) 脚湖 (〇)			
直接的、間接的に 関連する 問題・課題	〈可口・海岸衛成〉 (25)生物生息環境の姿化,(31)海岸環境悪化 ・平成 24 年度までは、国交付金事業(定額補助)に、監費を上乗せして補助していたが、平成 26 年度からは、国交付金のみによる補助となった。 ・平成 25 年度からは、上記事業主体へ目から直接補助している。	(31)海岸環境患 付金事業(定額 51式、国交付金の 事業主体へ国か	<ul><li>C・(31)海岸環境悪化</li><li>国交付金事業(定額補助)に、原費を上乗せして補助 むからは、国交付金のみによる補助となった。 上記事業主体へ関から直接補助している。</li></ul>	2乗せして補助しった。

整 名		H = (20 JI)	電影・開発する	
	內水面漁業振興対策事業	事業に 上位		未来みやざき創造プラン
<b>本</b>	治學局	Z	<ul><li>・分野(高業ろくり)</li><li>・福策の体殊(0-2-(3))</li></ul>	
超	農政水產部 木產政策課	麥		
【事業目的、内容】 漁業生産の場、別 意職が高まっている を目的とする。 ・内水面実施調 ・県民参加型の分	[	均機能を有 資活動を行 改置等、産	有する内水面域におい、 行い、 健全な内水面脈 発明床造成) の推進等	て、県民の環境保全のろくりに寄与すること
事業期間	令和2年度~合和6年度		[計画期]]	維統
事業実施経緯				
年度: 道	:			
F.发:周 年度: 違	平成 24 年度:雁郭珠造成面積 500 面・・・。 环战 25 年度:確卵床造成面積 500 面・・・	が (の) が (の)		
平度: 産	:			
平度; 建	平成 27 年度;産卵床造成面積 700 ㎡・・・評	評価(〇)		
F度: 違	平成 28 年度:産卵床造成面積 700 ㎡・・・評	・評価(〇)		
年度: 産	平成 29 年度: 産卵床造成面積 700 ㎡・・・評	・評価(0)		
年度: 確		評価(〇)		
		・評価(〇)		
守和2年度: 個会和3年度, 衛	:唯邦床造成面積 1,380 ㎡・・・・帝府床等時面刺 1,380 ㎡・・・	(〇) 學能・		
		対面(〇)		
3年度:	※平成23年度:河川流域振興活動実践事業			
4年~小	平成24年~平成29年度:內水面資源保護活動実践事業	活動実践事	教	
0年~9	平成 30 年~今和元年度:内水面漁業活性化計画権進事業 令和 2 年度~: みやざきの内水面資源回復推進事業	(計画推進) 推進事業	12 ※	
直接的、間接的に関連する	<河道領域> (16)付着藻類の変化,(17)河川景観の変化。(18)生息生育環境の変化。 (19)逝・淵の消失	河川景観の	变化, (18)生息生育	環境の変化。
問題・課題				

(令和4年12月13日更新)

(令和5年2月27日更新)

59)	海岸漂着物等地域対策 事業に関連する 未来みやざき創造プラン 推進事業 上位計画	- 分野 (くらしろくり) - 施寮の体派 (B4-(2))	(利用) 港級	· ·	【事業均容、目的】 台風等により漂着した満木等を迅速に処理し、海洋汚染防止と港湾区域内の安全対策に資することを 目的に、県内の港湾区域内に漂着した流木等の処理(集積、運搬、塘却)を行う。		英~ 【計画期間】		3実績なし)・・・・・・・・・評価(一)		(処理実績なし)・・・・・・・・・・・・・評価 (一) (質問事等な))・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		(処理実績なし)・・・・・・・・・評価 (一)	(処理実績なし)・・・・・・・・・評価 (-)	(〇) 馬恭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	[英績なし)・・・・・・・・ 評価 (-)	実績なし)・・・・・・・・評価(-)	実績なし)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ # ### (一)	(27)規水空間の減少。(28)港浴 (30)船舶の航行(操業上)の支属
行動計画カルテ (計画番号:59)	事 業 名 維持誤者	事 業 主 体	担 当 部 局 県土整備部		[事業均容、目的] 台風等により漂着した流木等 目的に、県内の港湾区域内に漂流		【事業期間】 平成21年度~	【事業実施経緯】	平成 23 年度:実績なし(処理実績なし)		平成 25 年度:実績なし(処理 平成 26 年度・実績なり(処理	平成 26 年度: 美楓なし(処理 平成 27 年度: 実績なし(処理	平成28年度:実績なし(処理	平成29年度:実績なし(処理	平成 30 年度: 15 m3······	合和元年度 :実績なし (処理実績なし)・	令和2年度 :実績なし (処理実績なし)・	令和3年度:実績なし(処理実績なし)・ へかった曲: 2000-10(中部中)	> 2104
	未来みやざき創造ブラン	レづくり) (B-4-(2))		した流水、土砂等を迅速に除去		清	(-)	(-)	<u> </u>				( <del>-</del> )	(-)	<u>(</u> -)	(0)	(0)		
	事業に関連する 未来みやざき創造プラン 上位計画	- 分野 (くらしろくり) - 施策の体系 (B-4-2)	25	取水口付近に堆積した流水、土砂等を迅速に除去		(計画期間) 継続	• • • • · · · ] 評価	哪裡・・・・	単純・・・・・	単雄・・・・・	は、・・・・神色	単雄・・・・・	・・・・・・・						
(計画番号:58)			企業局 容	事業内容、目的】 台風等の異常出水により、企業局が管理している取水口付近に堆積した流水、土砂等を迅速に除去	し、工業用用水の安定供給を図る。					単雄・・・・・		更加		-	今和2年度:取水口での堆積土砂除去実績なし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	:取水口にて堆積土砂及び流木の除去を実施・・評価(〇)	: 取水口にて堆積土砂及び流木の除去を実施・・評価(〇)	<河道領域> (32)取水の水安定化	

	未来みやざき創造プラン	$5 < \emptyset$ ) $-4 - (2)$ )	
	事業に関連する 上位計画	<ul><li>・分野(くらしづくり)</li><li>・ 施築の体系 (B·4-(2))</li></ul>	3
行動計画カルテ (計画番号:59)	海岸漂着物等地域对策 推進事業	宮崎県	県土整備部 河川課(港湾)
カルテ	名	主体	留 場
画	黙	**	細

點

(令和5年5月18日更新)

事業に関連する

行動計画カルテ (計画番号:60)

事業実施経緯] 平成 23 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・・評価(一) 平成 25 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・・評価(一) 平成 25 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・・評価(一) 平成 26 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・・評価(一) 平成 27 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・・評価(一) 平成 28 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・評価(一) 平成 29 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・評価(一) 平成 29 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・評価(一) 平成 29 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・評価(一)	
成 23 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・・評価(一) 成 24 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・・評価(一) 成 25 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・・評価(一) 成 26 年度: 177m3	
平成 24 年度:該当なし (処理実績なし)・・・・ 評価 (一) 平成 25 年度:該当なし (処理実績なし)・・・・ 評価 (一) 平成 26 年度:177m3 撤去 ・・・・・ 評価 (〇) 平成 28 年度:200m3 撤去 ・・・・ 評価 (一) 平成 29 年度:該当なし (処理実績なし)・・・・ 評価 (一) 平成 29 年度:該当なし (処理実績なし)・・・・ 評価 (一) ※管理者で処理した流本等はながったが、地元住民により処理した流本 平成 30 年度:50 ㎡様去	
平成 25 年度:該当なし (処理実績なし)・・・・評価 (一) 平成 26 年度: 177m3	
成 26 年度: 177m3 撤去 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
成 27 年度:該当なし(処理実績なし)・・・・・評価(一) 成 28 年度:400m3 横去 ・・・・評価(○) 成 29 年度:該当なし(処理実績なし)・・・・評価(一) 管理者で処理した流木等はなかったが、地元住民により処理した流木 成 30 年度:50 ㎡模去	
成 28 年度: 400m3 撤去・・・・・評価(○) 成 29 年度: 該当なし(処理実績なし)・・・・評価(一) 管理者で処理した流木等はなかったが、地元住民により処理した流木 成 30 年度: 50 ㎡概去	
成 39 年度:該当なし(処理実績なし)・・・・評価(-) 管理者で処理した流木等はなかったが、地元住民により処理した治木 成 30 年度:50 正模去	
管理者で処理した流木等はなかったが、地元住民により処理した流木 域 30 年度:50 ㎡権去	
成 30 年度: 50 ㎡ 撤去 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	あり(数量は不明)。
令和元年度 :該当なし (処理実績なし)・・・・・評価 (一)	
※管理者で処理した流木等はなかったが、地元住民により処理した流木等あり(数量は不明)	あり (数量は不明)
令和2年度 : 該当なし(処理実績なし)・・・・・評価(一)	
今和3年度:165 ma撤去 ・・・・・ 評価(O)	
令和4年度:該当なし(処理実績なし)・・・・評価(○)	

事業 主体	声略県	・分野 (くらしづくり) 内 ・施策の体系 (B-4-(2))	(くらしづくり) 0体系 (B·4·2))
担当部局	県土整備部 港湾票	傑	
[事業内容、目的] ・航路波渫:土砂等によ 渫を行う。 ・ 海岸保全区域内の養汚	事業内容、目的】 ・航路波牒:土砂等による航路の埋塞に対し、安全な船舶の通行を確保するため必要に応じ航路の浚 溝を行う。 ・ ・ ・	全な船舶の通行を開	保するため必要に応じ航路の
【事業期間】		[計画期間]	即
【事業実施経緯】			
平成23年度:該当なし(航路	平成 23 年度:該当なし (航路等への支障なし)・・・ エキュアル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(一) 堪恭・・・・・・	
十八人 24 十八文 : 6	女保の大道はし 一部	1 2 H 2 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	子 見 数 在 22 年 二 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	航路、市地にしいた(は、水深の調査を行いる数に応いて級楽等による維持省里を行むる方に、もた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の調査を行い必要に応じ、	こて淡深等による維持治理を、 用(一)
平成 25 年度: 沪	回実施 (V=1.		(0)
平成26年度: 沪	平成 26 年度: 泊地の浚渫を1 同実施 (V=1,600m3)・・・		
平成27年度: ②	平成 27 年度:凌渫の実績なし・・・・		
	(一)		
平成28年度: 消	平成 28 年度:消地の浚渫を1 回実施 (V=10,815m3)・	[5m3]···· 評価 (○)	(〇)
3	(災害後旧事業 V=10,365m3, 県単事業	引車事業 V=450m3)	)※余堀 4,558m3 を含む
平成29年度:後谍の実績なし		•••••	( )
平成30年度: 2	平成 30 年度:波珠の実績なし・・・・・・・・	即趙・・・・・・・・	( ) <u> </u>
令和元年度: 8	合和元年度:浚渫の実績なし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		( <u> </u> )
令和2年度;消	: 泊地の浚渫を1回実施 (V=3,016m3)・		評価(〇)
**	※余堀 1,264m3 を含む		
令和3年度:該	: 淡渫の実績なし・・・・・・・・ 評価 (-)	(一) 脚雄・・	
令和4年度;消	: 泊地の浚渫を実施 (V=22,082m3)	3) 災害復旧事業・・	・・ 評価 (〇)
直接的、間接的に 関連する 問題・課題	<ul><li>(1)指域地からの土砂(1)指域地からの土砂(26)防災機能の低下、(29)治水安全度低下,(82)治薬機業の膨胀(82)治薬機等の対象</li></ul>	作出 (27)親水空間の減少, (28)港湾施設の埋没, (30)船舶の航行(線業上)の支障, , (33)氾濫発生時の被害拡大	港湾施設の埋役, 友際, 大

### 8.5 評価・改善委員会での指摘事項と対応 (第1回~第12回)

第1回 評価・改善委員会での指摘事項と対応

華		資料②P. 4参照			資料⑤7.32参照	資料⑤P. 41参照	資料@P. 11参照	
2 女 巧	〇仏殿、城陽方向、立ち仏殿の目印を平面図に整理する。 〇1月にとりまとめて関係者へ配が済み。	<ul> <li>○田水後に実施するモニタリング項目のうち、ダム通砂運用に関連した環境調査項目 (1. 水質 (海域), 2. 河床材料, 3. 底質, 7. 底生動物。8. 付着業額 に関する対象出水 規模や実施するタイミングについて整理した。</li> <li>・対象出水 : <u>台域性出水</u>で、かつ、<u>山須原ダムの端入最</u>が300m/%を超える出水</li> <li>・タイミング: 1回目)ダムゲートからの放満停止後、<u>戸川で安全に行業できることを確認</u> (※) したうえで迅速に実施 ※河川で安全に関係できると判断する日皇では整備、※河川で安全に保護できると判断する日皇では整備、※が河川で安全に保護できると判断する日皇では整備、水が300m以下 なお、上記基準にてモニタリングを開始するが、状況に応じて順が約00次ドレでいく。</li> <li>○田林後に実施する写験機がの外象出水規模よ上記と同じ基準とし、実施するタイミングは又下のとおりとする。</li> <li>・19. ダム流水道路状況 (九州電力実施): 出水ビーン時 (諸塚科)、出水ビーン後 (九州電力)</li> <li>・20. 洪本等流下状況 (九州電力表施): 出水ビーン時 (諸塚科)、出水ビーン後 (九州電力)</li> <li>・22. 海岸影響状況 (日向土水事務所実施) : オメゲートからの放着停止後、2~3日以内を目気に実施</li> <li>・22. 海岸影響状況 (日向土水事務所実施) : オメゲートからの放着停止後、2~3日以内を目気に実施</li> </ul>	○付着漆類の調査は出水後の2回であり、ダメージの回復過程を押さえるのは困難であるため、インパケトを評価する内容に変更する。 資料③ P.8の説明の修正:「減少~回復過程を把握」⇒「減少~回復の <u>変化量</u> を把握」	〇 資料⑤P.8,9の表に「通砂運用による想定シナリオ」の欄を追加し、現時点で想定される具体的変化を記載	○耳川と柳原川の合流点を追加	○森林管理署、森林組合のストロール結果についてのヒアリング提出資料の中で定点写真を提出して頂く。 ○食害簡別面積の衛退写英級調については、下記理由により実施が困難。 ・食害対象懲所数が点在しかつ膨大であり、また衛星写真では親地が食害による親地の強いが判別できない。	<ul><li>○発園协模商所については、場所ダム直下流付近において景橋地路がポイントとして定点写試機到を実施しており、合わせて併機状況の経年変化を評価する。</li><li>また、九州電力により場所ダム直下流については、衛星写真を使って物色面積の発年変化を評価することとしている。</li></ul>	○耳川河口で新たに閩向・風速を計測するためには費用が発生することから、細島地点で観測している既設の閩向・風速計(毎上保廷打)のデータを適用可能が検討する。 そのため、平設26年度の出水時隔配にあかせて、耳川河口部で簡易的な國向・風速観測を実施する。
指摘事項	① 写真撮影のガイドライン (杉尾、中尾委員)	<ul><li>② 「出水」の定業</li><li>(村上委員)</li></ul>	<ul><li>③ 付着藻類の調査に関する説明記述の一部修正</li><li>正正</li></ul>	① 調査目的と結果予測 (シナリオ) の整理 (神田委員)	<ul><li>高 諸塚村の木坊災事業箇所における撮影ボイントの追加(河川状況) (何要代理)</li></ul>	<ul><li>⑥ 食割こついてのモニタリング項目の検討 (尾前委員、中尾委員、杉尾委員)</li></ul>	① 深層崩壊の発生簡所について定点観測に含める (伊藤委員)	<ul><li>⑧ 海城こおける風向・風迷の計測 追加 (村上委員)</li></ul>

# 第2回評価・改善委員会 (H25.7.26) での指摘事項と対応

指摘事項	位 衣	備考
①崩壊地の評価方法について ・(投斥地であれば)が限地まど士砂が流出することはないと考えられるため、可能であれば)が販地と(技別地を 区分できないか。	・崩壊地面積を「視地面積一主技面積」で算出し、出水による適出量との関係を設行的に分析した。	資料⑧山地館域 P3~4
<ul><li>②流況評価の対象範囲について</li><li>・山地の水資源消養機能。保水機能のモニタリング項目としている流況は、上推集ダム流域のみではなく、 全ダム流域で評価してはどうか。</li></ul>	<ul> <li>・水資源油楽機能、保水機能について、降水最及び流況の実績データに基づき、消焔を上流域(上推業グム上流域)、中流域(上推業ダム下流〜山須原ダム上流域)及び下流域(旧須原ダム下流〜大均原ダム上流域)に区分の上、流出解析を行うことにより、流況変化の傾向分析(水資源消費機能、保水機能を行った。</li> </ul>	資料® 山地館域 P31~36
③漁獲量の評価について ・大内原ダムによって魚の遡上が難しいことから、魚類の生息状況(漁獲制)は人為的な放流によるところ が大きいと考えられる。今後評価の考え方を変えた方が良いと思われる。	・治後量の評価に関しては、治路ヒアリング結果を重視して評価を行った。	資料圖 牙ム領域 P58
<ul> <li>④評価の考え方の見直しについて</li> <li>・ 耳川総合上砂管理の評価は、各種事業(行動計画)を実施した結果がどうあったかを評価するものと捉えるべきと思すかる。</li> <li>・ このため、ダム通砂事業に関連する項目は、平成28年度まで評価が難しいと思われる。</li> <li>・ 事業の評価だけでは状態のレベルが見えにくい場合があるため、現任の耳川そのものの状態についても評価が必要ではないだろうか。</li> <li>・ 出水等の自然現象に大きく左右される項目(維砂、流木等)についてどのように評価するか。</li> <li>・ 非業の評価(行動計画の評価)への関連会けを工夫できないか。</li> </ul>	<ul> <li>「各種事業(行動計画)により改選に向かって変化しているのか(方向性評価)」と「耳川そのものの現場がどのような状態にあるのか、(状態評価)」の二つの視点からモニタリング結果を評価した。</li> <li>・出水等の影響を除ますることが可能が項目は、除去したデータでモニタリング結果を評価する。</li> <li>・各種行動計画をグルーピングすることにより、問題・課題の評価結果と事業評価が効果的に関連づけられるよう行動計画の評価の考え方を見直した。</li> </ul>	資料⑤ 約七次將循手法

第3回 耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会(H26.7.18)での指摘事項と対応

指摘事項	位 衣	華 米
<b>①水資源涵養機能について</b> ・中流域の水資源涵養機能に関して、実態と合っていないように感じられるため、計算モ デルについて再検証する必要があるのではないか。	・水資源涵養機能及び保水機能については、降水から流出の過程において、森林の蒸発散量、地層・地質、ダムの貯留・放流等が複雑に関係するため、定量的な評価が困難な特性を有している。 ・今回は、基準年の実績の流量と降水量を用いて、評価対象年のデータと比較することで、保水機能と水資源涵養機能の評価を行った。 (モデルを用いた評価は、今後データを蓄積し、検討していく)	資料® 山地領域 P32~
2河川景観の写真について ・河川景観の写真については、土砂移動に伴う変化を考慮した写真撮影を行うことが望ま れるため、西郷ダム下流の立石橋付近を追加してはどうか。	・河川景観の写真に、西郷ダム下流の立石橋付近を追加した。	資料⑩ 河道領域 P29
3 <b>瀬・淵について</b> ・IESに瀬・淵が増加して良いという評価になっているが、IESに瀬・淵が増加したという 実感はない。瀬・淵の定義は何か。また、同じ条件で調査をしているのか。	・瀬・淵の調査については、10月以降の水の少ない時期において、同じ流量条件・見方で調査を行っている。 ・瀬・淵の判断基準については以下のとおり。 (1)瀬・冰深が浅く、流速が速くて自波が立つ箇所(早瀬)を瀬として抽出 (2)湖:水が淀む箇所(トロ)よりも水深がある箇所を水の色、周辺環境(湾曲等) で判別し、抽出	資料⑩ 河道領域 P58、P101
<b>①状態評価の見直しについて</b> ・状態評価が出来ていない項目が多いため、適切に実態を反映できていないように感じる。 今後は状態評価の見直しを行い、より実態に近い評価結果とすることが望まれる。	・状態評価方法について再度見直し検討を行い、出来るだけ多くの項目を状態評価出来るようにした。	資料⑤ 評価方法の見直しについて

第4回 耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会(H27.7.31)での指摘と対応

指摘事項	位 校	備考
①ヒアリング調査の見直しについて・ヒアリング調査の見直しについて・ヒアリング結果による状態評価のウエイトが大きいため、調査精度を向上させることが必要と思われる。また、平成17年以前と比較する評価が難しいため工夫が必要と思われる。	・ヒアリング調査票について、問題・課題毎の評価の視点を明確にするとと もに、回答しやすい選択肢(出来るだけ具体的な内容)に修正した。また、 ヒアリング実施の際は、補足資料として平成17以前の情報(航空写真、耳 川百科等)を提示し、回答者によるパラツキが少なくなるよう調査精度の 向上を図った。	資料②:P3~6
②鹿の食害に関する評価について ・鹿の食害に関する評価は、植生がなくなることで土砂を流出させるという評価と、 植物の多様性が失われ、動植物の生息環境を悪化させるという評価に分けて考えた 方が良い。	・鹿の食害は「裸地の状況」と「植物の生育状況」の二つの視点からヒアリングを行うとともに、評価は「問題課題(1): 崩壊地からの土砂流出」と「問題課題(4): 生物生息環境の変化」に分けて行った。	資料②:P4
③保水機能と水資源涵養機能の用語の見直しについて ・森林機能の表現に関して、林野庁の定義では、「保水機能」は「洪水緩和機能」、「水 資源涵養機能」は「渇水緩和機能」となっていることから、これらの用語を用いた 方が分かりやすいと思われる。	・森林機能の用語を「洪水緩和機能」と「渇水緩和機能」に修正した。	资料④-1:P1
④河川景観の評価について ・親水景観と自然景観を分けずに評価しているが、両者は見方が異なるため、2つに 分けて評価した方が良いと思われる。なお、今の写真では親水性を捉える箇所が少 ないと思われる。	<ul><li>・河川景観は「親水景観」と「自然景観」の二つの視点で評価するとともに、 親水景観の評価箇所(耳川大橋下流)を追加した。</li></ul>	資料④-3:P7~8
⑤ダム通砂に伴う流木流出等の対策について ・今までダム本体で止めることが出来ていた流木が、ダム改造後はダムで止まらない ため、それが流れてきた場合どう対応するかを検討する必要があると思われる。	・ダム通砂に伴う流木流出のフローを確認し、流木に関連する事業として「発電設備保全事業(貯水池内流木塵芥引き上げ)」と「県単河川改良事業」を追加した。	資料①:P9
⑥総合評価の経年変化について ・今回の評価資料は、前年との比較しか分からないため、過去に遡って各領域の経年 変化が分かるようにした方が良いと思われる。	・各領域の総合評価結果の経年変化が分かるようなグラフを追加した。	資料但-1:P43 資料但-2:P53 資料但-3:P93 資料但-4:P51 別紙:P6

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会(H28.7.27)での指摘と対応 第5回

備考	①士模緊縛力について参 照 (P.3)	1. 評価項目の見直し (1) 山地領域の評価につ いで 参照 (P.5)	1. 評価項目の児直し (2) 治水安全度の評価資 料の見直し【追加】 参照 (P.5)	1. 評価項目の見直し (3) 重点説明項目の抽出 参照 (P.7)
俭	<ul><li>・耳川流域全体の航空写真を毎年撮影するのは、費用的にも難しい面がある。 (快探跡地については、管理者による適切な管理(植樹等)が行われ、土壌緊縛力(樹根が土壌層をつなぎ止める力)の低下が防止されていると考えており、現在の算出方法による評価を継続したい。</li></ul>	・ダム通砂運用開始以降は、ダム貯水地内に流木が留まらず、すべて河口海岸で漂着することも考えられることから、今後、山地領域の流木に関する 問題課題(産業基盤の流出)については、新たに河道・河口海岸の流木漂着量(河道漂着量、海岸漂着量)を指標に加えて評価する。 ・また、山地から流出した土砂についても、流木と同様にダム貯水地内に 推積せず、河道・河口海岸で推積することが想定されることから、山地 領域の土砂流出に関する問題課題(崩壊地からの土砂流出)ついては、 新たに河道・河口海岸における堆積状況(河道総横断、堆積土砂除去量) を指標に加えて評価する。	・複数断面で測量していないことから、正確な堆積土砂量は把握出来ていないが、測量結果に現地写真等を確認しながら堆積土砂の状況を整理する。・河川整備計画が設定されていない箇所の治水安全度の評価については、今後検討を進めていく。ただし、それまではダム通砂運用が計画されている山須原ダム、西郷ダム、大内原ダムについては、貯水地末端部の治水安全度の参考情報としてダム通砂により想定される河床高を示すこととする。	・現在の評価・改善委員会の評価項目はダム通砂運用後しばらく継続し、通 砂後のモニタリング結果を踏まえて、モニタリング項目の見直しを含め再 整理する予定である。 評価項目のうち、耳川の変化を捉えるために特に注視すべき項目を選定し、 その項目を重点的に説明していく。
指摘事項	①崩壊地面積の算出方法について ・現在の崩壊地面積は「裸地面積一主伐面積」で算出しているが、これは伐採跡 地が崩壊しないことを前提である。実際は伐採跡地でも崩壊している箇所があ る。航空写真を拡大するなどして崩壊地面積を直接算出することは出来ないか。	②流木の評価について ・ダム通砂運用開始後は、流木がダムを通過して下流に流れていくことが想定される。現在の山地の流木評価は、ダム塵芥引き上げ量を指標としているが、今後は下流 (河口・海岸) に流出した流木の量も含めて評価した方が良いと思われる。	<ul> <li>③治水安全度の評価方法について</li> <li>・治水安全度は横断図の河積だけで評価するのではなく、堆積土砂のボリュームで評価した方が良いと思われる。</li> <li>・河川整備計画が設定されている箇所は計画河床高があるが、それ以外でもダムについてはシミュレーションによる計算が行われていると思われるため、通砂後に想定される安全指標を示すことが出来るのではないか。</li> </ul>	(4)評価項目について ・耳川総合土砂管理は長期間実施していくため、毎年重点的に実施する項目と、 中長期的な変化を捉える項目 (3~5年に一度調査を実施) に分ける等、モニタ リング項目を整理していくことも考えられる。 ・評価項目を落とすには十分な理由が必要である。評価項目は減らさずに、耳川 をよくするという観点から評価項目を選定し、その項目のみを重点的に説明す ることを検討してはどうか。

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会(H29.7.20)での指摘事項と対応 第6回

備者	1. 路網密度について (P.4 参照)	2. ヒアリングについて (P. 5 参照)	3. 造網型指数の評価手法 について (P.6 参照)		<ul><li>4. 隔年調査項目の評価手 法変更について (P.7 参照)</li></ul>
位 衣	・路網密度が増えることによる斜面崩壊への影響については、ダム通砂の効果が発現した段 1.路網密度について 路で評価項目等を見直す予定としている。 (P.4 参照)	・今後は、具体的にどのような魚種に変化があったかに留意したヒアリングを行う。	<ul><li>・造網型指数 (庭生動物)の評価方法については、ダム通砂の効果が発現した段階で評価項目等を見直す予定としており、その際に検討する。</li></ul>	<ul><li>・衛星写真では濁水長期化の原因となる崩壊地は拾いきれていない。</li><li>・なお、斜面崩壊後、コンクリート吹付により対策が実施されており、そのような箇所は標地面積から除外している。</li></ul>	・当該年に調査していない項目は参考値扱いとし、評価しないこととする。
指摘事項	①路網密度の評価方法について ・現評価は、林業の生産基盤を整備することで、造林・保育・素材生産等へ寄与すること からプラス評価としているが、路網密度が増えることによる斜面崩壊への影響について は、今後検討が必要と考えられる。	②ヒアリング方法について ・ヒアリングによる魚類の評価に関して、「具体的にどのような魚種が変化したか」という 視点の開き取りが行われていない。 ・ヒアリング先によって、認識している魚種が異なる可能性があることから、ヒアリング 方法の再検討が必要と考えられる。	③造網型指数(底生動物)の評価手法について ・造網型指数(底生動物)の評価に関して、河床が適度に撹拌された方が生態系に良いと いう視点からすると、造網型指数が低い方が良いと評価することは適切であるが、ダム 貯水池内とダム下流の数値を比較するのは、生物相が異なるため不適当ではないか。	<ul><li>④濁水長期化について</li><li>・濁水の長期化の原因となる崩壊地の場所は特定されているのか。</li><li>・衛星写真による評価は、細かい部分は拾えていない前提で評価する必要がある。</li></ul>	(5)陽年調査の評価手法について ・平成28年の調査結果がない項目を平成27年の調査結果を用いて評価していることに違和 感がある。昨年度実施していない項目は評価から除外してはどうか。

第7回 耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会(H30.7.31)での指摘事項と対応

備考	1. 適水長地化に対する通砂の影響評価 についた [P3参照]	2.上椎薬ダム上流域 の濁水発生源調査 について [P4参照]	3.ヒアリング方法に ついて [P5~7参照]	Ī
位 衣	<ul><li>・耳川には、ダム通砂運用による影響評価のために濁度計を複数設置しており、 ダム通砂を実施しない上流域の濁度とダム通砂を実施している下流域の濁度を 比較することで、濁水長期化の原因は区別可能である。</li></ul>	・濁水発生源調査として、上椎葉ダム上流域に、タイムラブスカメラ(静止画の連 続機影)を設置し、支川毎の濁水流入状況から、発生源の推定が可能かどうか試 行した。その結果、今年度の出水においては、上椎葉ダム上流の不土野川流域 が濁水発生源となった可能性を確認。 ・市町村から「適正な伐採搬出作業と森林作業路の適切な開設と管理」に関する 指導が行われており、平成30年度は諸塚村から森林管理者への指導があった。 また、作業道の排水施設として、ゴム製の横断溝を採用する取り組みも行われている。	・ヒアリングの実施に際しては、出来るだけ該当該年の調査結果や関連情報等を提示した。	・今後の土砂の動きを確認し、そのような傾向が見られれば、必要に応じて横断 測量等の要否について検討する。
指摘事項	①濁水長期化に対する通砂の影響評価について ・ダム通砂運用を行っていない平成30年7月の台風7号及びその後の前線性出水時に 上椎葉ダム上流域から濃い濁りが貯水池に流入したことで、濁水が長期化してい るが、ダム通砂運用中に同様の事象が発生した場合、通砂により濁りが生じてし まったと思われるため、通砂による濁りと上流域での濁りをしっかり区別して評 価するべきと思う。	②上椎葉ダム上流域の濁水発生源調査について ・上椎葉ダム上流域で濁水が発生しているとなると、土砂発生源抑制対策等に関係 してくる。濁水長期化の問題は緊急を要する課題であるため、どのような場所で 濁水が発生しているのか確認して頂きたい。また、濁水発生にあたっては作業道 の問題があると思われるため、耳川上流域の作業道開設においては、指導の徹底 や開設基準遵守状況のフォローアップ等が必要と考えられる。	③ヒアリング方法について ・西郷ダム下流は通砂により瀬・淵の数が増加している一方で、ヒアリングでは悪い評価となっている。また、内水面の漁獲量も増加している一方で、ヒアリングでは悪い評価となっている。このようにモニタリング調査結果と異なるヒアリング結果が見られるため、ヒアリング内容や方法等の検討をして頂きたい。	<ul><li>④通砂による二極化の影響について</li><li>・通砂によりダムを通過した土砂が下流の川岸に堆積し、澪筋部は浸食され、二極化が発生しないか懸念している。</li></ul>

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会(R1.8.9)での指摘事項と対応(1/2) 第8回

指摘事項	位	編
① <b>通砂運用実施後の土砂堆積について</b> ・通砂運用を始めてから、福瀬大橋下池約 1km 周辺の淵の土砂量が増えたように 感じている。通砂前のデータがないため、感覚ではあるが、今後は闇の調査も お願いできないか。	<ul><li>・四郷ダム下流の昔からある大きな淵では、必要に応じて水深調査を実施している。</li><li>・大均原ダム下流から河コの範囲こついては今後検討していく必要があると考えている。</li><li>・今年度より、福瀬大橋の上下流2 管所で粒度試験を実施している。 双年度以降に出た比較を行っていく下定である。</li></ul>	ı
<ul><li>② 漁獲量の変動要因について</li><li>・  諸塚村漁協のみ平成 28 年以降漁獲量が減少しているが、要因は何が。</li></ul>	・漁協の呰様へのヒアリングによると、組合員の人数は潑祓しているとのことである。	ı
<ul><li>③ 流木処理実績の評価について</li><li>・ 流木処理実績を大内原ダムの最大日流入量で除して評価しているが、ある一定 流量以上の山水回数の方が相関があるのではないか。</li></ul>	<ul><li>・ 塵芥引き揚げ量を作最大日流量で除した値を評価対象としていることについて、過年度の検討でこの蹇芥引き揚げと年最大日流畳の相関が高いことを確認しこれまで評価してきているため、評価方法は見直さない方針で考えている。</li></ul>	1

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会(R1.8.9)での指摘事項と対応(2/2) 第8回

	<b>盖</b>		※別資本参照	【資料 6 「評価方法・ 行動計画の見直しに ついて.】	
	安 交		・ご指摘をふまえて、評価方法の見直しを行う。		<ul><li>ご指摘をふまえて、モニタリング結果とヒアリング結果の乖離を小さくするため、ヒアリング方法・評価方法の見直しを行いたい。</li></ul>
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	指摘事項	<ul><li>(4) 評価方法の見直しについて</li><li>・ダム領域と可道領域の漁獲量データが同じものであるため、領域毎に分ける等改善が 必要ではないか</li></ul>	<ul><li>・河口周辺の堆積土砂量を土砂液深量で評価しているが、土砂が堆積していても浚渫しなければ良い評価となるのはおかしいのではないか。今年度船が2 位座職したと意見があったちのの浚渫していないのは、なぜか。</li></ul>	・治水・利水・環境を同じトーンで評価しているが、技術的な分野で考えると重要度は 治水・利水・環境の原帯になるため、分けて評価することを考えてほしい。 評価項目が多く、総合評価の重心位置が変動しない状況となっているが、項目の中でも維持が望ましい項目と改善が望ましい項目があるため、分けて評価することを考えてほしい。 えてほしい。 現在のモニタリング項目は、項目数が多く、最く続けるのは困難なため、別限を区切り、目標を設定した上で評価を行うことが重要である。	・モニタリング混在活果と流協へのヒアリング結果に乖離がある。技術者の日線と流協の日線では"いい川"の捉え方が違う可能性があるため、乖離が生じている原因を確認すること。

第9回 耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会(R2.8.5)での指摘事項と対応

指摘事項	怪	備考
①ダム道砂による土砂流出の評価について ・ダム通砂によりダムを通過した土砂量については把握しているのか。 ・治水安全度の評価結果は、ダム通砂運用前と比較してどうなのか。	<ul><li>・毎年、ダム上下流の測量及び出水実績から再現計算を行い、ダム上下流において治水安全度が維持されている結果を確認している。</li><li>・ダム通砂運用開始以降、治水安全度は概ね当初想定していたとおりの傾向(ダム上流側で維持または向上、ダム下流側で維持)が見られる。</li></ul>	Ţ
②山地の崩壊地の評価について ・継続して裸地として残っている箇所や裸地全体に占める割合は分かるのか。	<ul> <li>過去データ(平成17年~令和元年)を確認した結果、「(平成17年の台風災害落生後から現在まで)継続して繰地として残っている箇所」が「現在の裸地面積全体」に占める割合は1%未満であることがわかった。</li> <li>このことから、現在確認されている裸地については、平成17年の台風災害発生以降の伐採地や崩壊地であると考えられる。</li> </ul>	<ul><li>□・地が最悪の評価に ついて(業) (参も資料3参照)</li></ul>
<ul><li>③漁獲量の評価について</li><li>・漁協が提示する流獲量は、組合員・遊漁者の数に左右され精度が良くないため、宮崎県内水面漁場管理委員会に確認してはどうか。</li><li>・アュの漁獲量に関して、ヒアリング結果と現地調査結果(補獲調查)が一致しないケースがある。</li></ul>	<ul><li>・宮崎県内水面漁場管理委員会に報告されている漁獲量データや組合員数等の経年変化を確認することとした。</li><li>・漁場とアリングの特度を高めるために、ヒアリング調査票に評価に対する具体的理由を記載する欄を追加することとした。</li></ul>	治獲量データ等の見直し (参考資料1参照) ヒアリング調査票の 見直し(参考資料2参照)